

合格へ導く 英語長文

Rise

読解演習

大西純一 著

3

標準～難関 編

センター試験～難関国公立・難関私立レベル

はしがき

■ 合格へ導く 英語長文 Rise 読解演習

大学入試の英語では、長文問題が最も多くの比重を占めています。近年の入試問題は、英文の語数増加や扱うテーマ・文体・設問の多様化などにより、これまで以上に総合的かつ複合的な読解の力が求められるようになっていっていると言えます。

『合格へ導く 英語長文 Rise 読解演習』シリーズは、近年の入試で必要とされる長文問題の総合力を段階を追って着実に身に付けることができる長文読解問題集です。英文の文構造や全体の論理展開を正確に把握・理解する力はもちろん、「読めたつもり」ではなく「読み取ったことを答案として正確に伝える」ことを目指した良質な演習を重ねることで、志望校の合格を確実につかみとる実力を養成することができます。

3. 標準～難関編

「1つ1つの英文の構造はある程度わかるのですが、長文問題になるとなぜかわからなくなるんです」という受験生の声をよく聞きます。そんな悩みを持っている皆さんにこの「3. 標準～難関編」をお届けします。

本書は大学入試の標準～やや難レベルの英文を取り上げています。中には少し抽象度の高い英文も含まれていますが、解説は、それを読めば英文の流れがわかるということを目指して書かれていますので、英文の流れとともに正解に至る過程をよく学んでください。また、模擬試験の作成に長年携わってきた私の経験を活かして、時には出題者の視点から、時には採点者の視点から、問題や答案作成に取り組む際の注意点などを「読解 PLUS ONE」にコラム形式で掲載しました。さらに、「チャレンジ問題」の記述式問題については、詳細な「採点のポイント」を掲載していますので、自己採点に役立ててもらうとともに、答案作成上の注意点をもよく学んでください。

15本の素敵な英文が君の英語力をもっと向上させてあげたいと待っていますよ。さあ、急いで。

最後に、本書の執筆過程で大変お世話になったZ会の阿部邦子さん、柳澤典子さんに、この場をお借りして心からお礼を申し上げます。

大西 純一

CONTENTS

本書の構成・利用法	5
-----------	---

Unit 1

1 [人間] 岩手大学	
一緒に時間を過ごして有益な人とは	10
読解 PLUS+ONE 単語は友だちのようなもの	16
2 [自然・環境] 香川大学	
太平洋を覆うプラスチックのゴミ	17
読解 PLUS+ONE 柔らかく頭で隠れたディスコースマーカーを探そう	22
3 [経済] 龍谷大学	
マイクロファイナンス	24
読解 PLUS+ONE コロンは宝物	30
4 [文化] 関西大学	
カルチャーショックの原因と4つの段階	32
読解 PLUS+ONE 字数制限なしの内容説明問題	39
5 [倫理・哲学] (チャレンジ問題)	
動物の幸福とは	41

Unit 2

6 [心理] 法政大学	
心に傷を残すような体験の癒し方	50
読解 PLUS+ONE コロンだけが宝じゃない	56
7 [自然・環境] 北海道大学	
コアラの個体数の減少	58
読解 PLUS+ONE 余裕を持って下線部なしの内容説明問題に取り組もう	64
8 [情報] 長崎大学	
ニュース報道とは何か	66
読解 PLUS+ONE 内容一致問題はストライクゾーンを読もう	72
9 [文化] お茶の水女子大学	
ユーモアの定義	73
読解 PLUS+ONE 和訳問題は採点のポイントをよく考えよう	78
10 [文化] (チャレンジ問題)	
読書術とは	79

Unit 3

11 [科学・技術] 早稲田大学	
科学を正しく導くためになすべきこと	88
読解 PLUS+ONE 内容一致問題は「変幻自在」の問題形式	93
12 [人間] 中央大学	
祖父の最後の贈り物	95
読解 PLUS+ONE 物語・小説——Read between the lines.	101
13 [倫理・哲学] 首都大学東京	
人はなぜ物語に熱中するのか	102
読解 PLUS+ONE 内容説明問題の制限字数は出題者からのメッセージ	108
14 [科学・技術] 立教大学	
脳の知的技術への適応	110
読解 PLUS+ONE 森の中で迷わないために	117
15 [社会] (チャレンジ問題)	
進化論を信じるアメリカ人が少ない理由	118

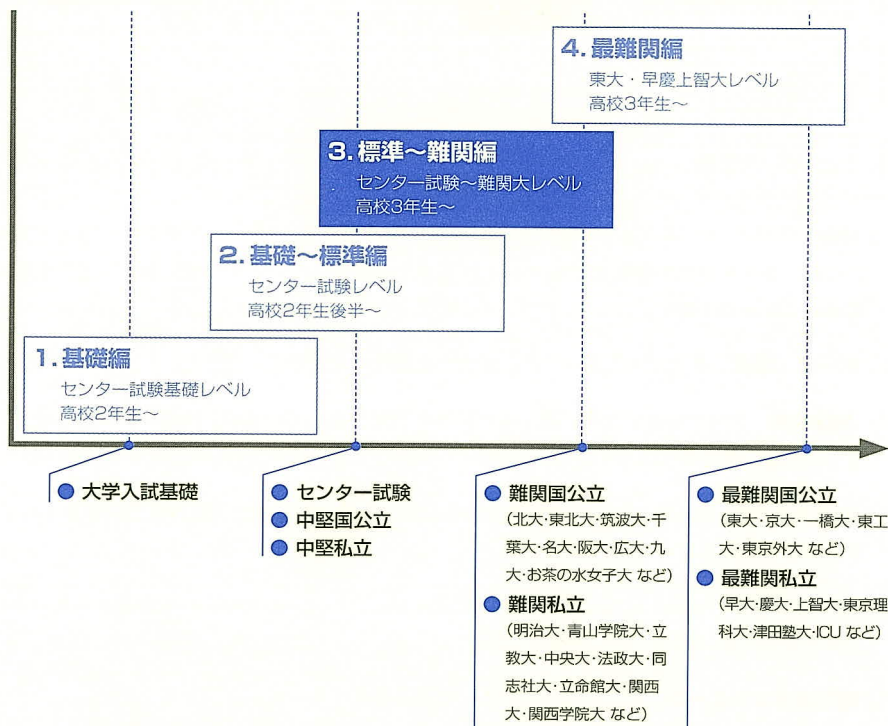
本書の構成・利用法

1.『合格へ導く 英語長文 Rise 読解演習』シリーズとは

本シリーズは、高校2年生から取り組むことができる「1. 基礎編」から、東大・早慶などの最難関レベルの大学受験にまで対応した「4. 最難関編」まで、4つのレベルで構成されています。

ここから読解対策を始める方から、実戦力を完成させたい方まで、志望大合格に必要な読解力を段階的に養成することができます。4つのレベルを通して、または自分の目標や英語学習の進捗に合わせたレベルから取り組んでみましょう。

▼対象レベル・学年の目安



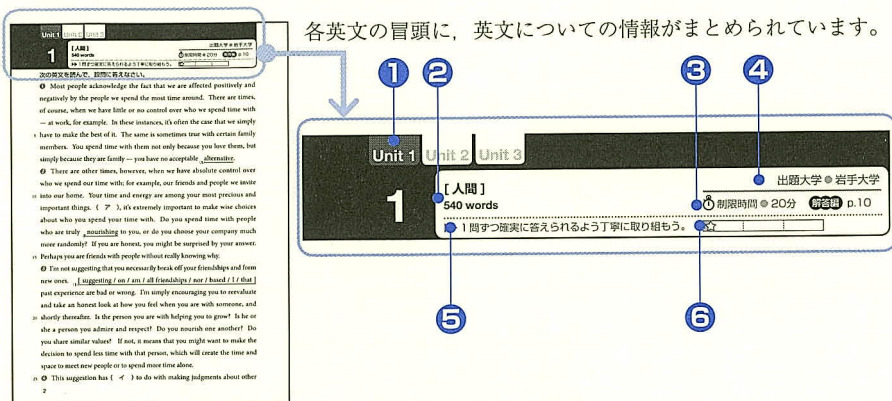
➡「3. 標準～難関編」では…

- 標準～やや難レベルの英文の確実な読解力を身に付けることを目指す
- 入試頻出の設問形式で解答のコツを身に付けることを目指す

2. 構成・利用法

本書は「問題編（別冊）」・「解答・解説編」から構成されています。

問題編



- ① **Unit**: 各 Unit は 5 本の英文で構成されており、全部で 3 つの Unit があります。Unit が進むにつれ、英文や設問の難易度が徐々に上がるように配列していますので、無理なく習熟度を高めることができます。
- ② **テーマ・語数**: 英文で扱うテーマと、英文の総語数の目安です。
- ③ **制限時間**: 英文を読んで設問に取り組む時間の目安を示しています。時間に間に合わなくても、最後まで解きましょう。
- ④ **出題大学**: 英文の出題大学名です。総合的な読解力を養えるよう、設問は新たに書き下ろし、または一部改題しています。
- ⑤ **取り組みアドバイス**: 設問に取り組む上で気をつけたい点・心掛けたい点が書かれているので英文を読む前に確認しましょう。
- ⑥ **難易度インジケータ**: 英文の読みやすさ・設問の難易度を示すインジケータです。

問題に取り組む上では、まずは制限時間内に解答を出すことを目指しましょう。終わらなかったところは、辞書を使ってもよいので、自分の納得のいくまで答えを考えてみてください。

解答・解説編

問題に取り組んだら、「解答・解説編」で解答の確認をしましょう。問題は解きっぱなしにせず、不明確な部分は解説や全訳を使ってしっかり復習しましょう。

効果的な復習の流れ

❖ 解答 **正しい答え** をチェック

❖ 解説 **考え方** をチェック

❖ 全訳 **英文内容** をチェック

■ 解答・解説

Unit 3

13 人はなぜ物語に熱中するのか

本文問題に答えるとき、その根拠には想像力という不思議な力がある。

正解は ② である。

解説 本文は物語を読む必要を説くことに自然に立ち至っているが、私たちがなぜ物語に熱中するのかという問いに答えることは、想像力という不思議な力があるという点に自然に立ち至る。

本文の構造は、まず「人はなぜ物語に熱中するのか」という問いを提示し、その答えとして「想像力という不思議な力がある」という点に立ち至る。そして、この点を実例として示す。

本文の構造は、まず「人はなぜ物語に熱中するのか」という問いを提示し、その答えとして「想像力という不思議な力がある」という点に立ち至る。そして、この点を実例として示す。

Unit 1 Unit 2 Unit 3

13 人はなぜ物語に熱中するのか

本文問題に答えるとき、その根拠には想像力という不思議な力がある。

1 本文の構造は、まず「人はなぜ物語に熱中するのか」という問いを提示し、その答えとして「想像力という不思議な力がある」という点に立ち至る。そして、この点を実例として示す。

2 本文の構造は、まず「人はなぜ物語に熱中するのか」という問いを提示し、その答えとして「想像力という不思議な力がある」という点に立ち至る。そして、この点を実例として示す。

3 本文の構造は、まず「人はなぜ物語に熱中するのか」という問いを提示し、その答えとして「想像力という不思議な力がある」という点に立ち至る。そして、この点を実例として示す。

① 英文のまとめ：英文で論じられている主題を簡潔にまとめています。英文のポイントがしっかりおさえられているかを確認する際に参考にしてください。

② 設問の焦点：設問において何を把握する力が求められているかを示しています。

③ 図解：英文の構造や修飾関係などを視覚的に解説しています。

■ 全訳

④ **図2 換算**

「太平洋ゴミベルト」を発見したアメリカの海洋学者、チャールズ・ムーアは、およそ1億トンのゴミがその海域に漂っていると考えている。調査主任のマークス・エリクセンは、「**1** 最初、人々は、それはその上を歩くことができそうなプラスチックのゴミの島だと思っていました。必ずしもそのようなものではありません。プラスチックのスープに近いものです」と語った。

▶ 1 (第2文) that の用法

The original idea (that people had) was (that it was) an island of plastic garbage
 S O S' V' V 補語になる名詞節を導く接続詞

(that you could almost walk on)).
 前置詞 on の目的語になる目的格の関係代名詞

⑤

- garbage 「(主に米) ゴミ」
- region 「地域：海域」
- director 「指導者」
- original 「最初の、本来の」

④ **構文解説**：全訳中の青色マーカーで示された部分については、文構造の図解を掲載しています。訳と合わせて確認しましょう。

⑤ **語句・構文**：その段落に登場する重要語句、注意すべき語句や構文を取り上げています。太字で示された語は特に重要な単語なので、覚えておきましょう。

本書で使われている記号

S：主語 V：動詞 O：目的語 C：補語

[] 「節」であること、または「言い換え可能」であることを示します。

() 「句」であること、または省略可能であることを示します。

doing 動名詞または現在分詞 to do 不定詞 … 動詞や節の代用 ~ 名詞(句)の代用

なお、解説の最後には**読解 PLUS ONE**というコラムを掲載しています。各回の設問を1題取り上げ、出題者・採点者の視点から問題の解き方や英文の読み方をレクチャーします。

チャレンジ問題

各 Unit の最後には**チャレンジ問題**を収録しています。解答を解答欄に直接記入でき、得点も出せるようになっているので、試験本番のような臨場感をもって取り組むことができます。各 Unit の学習が終わるごとに実力試しとして活用しましょう。

Unit の仕上げとして**チャレンジ問題**に取り組む

制限時間を意識しながら、記述問題もがんばって自分自身の解答を書いてみましょう。

解答を確認、得点を算出する

記述問題の一部には自己採点に役立つ**採点のポイント**が掲載されています。自分の答案を客観的に見ることは実力を伸ばす上でも重要です。

不明確な部分を残さないよう、よくできなかった問題にはもう一度取り組んで復習する

『合格へ導く 英語長文 Rise 読解演習』の次のレベルに取り組んで、さらに実力強化！

Unit 1

1 一緒に時間を過ごして有益な人とは

問題編 p.2

誰と一緒に時間を過ごすかは、とても重要なことである。よい仲間と過ごす時間を持つことによって、人生は楽なものになりストレスも少なくなる。

解答 正しい答えをチェック

- 1 (A) ② (B) ③
 2 (ア) ④ (イ) ②
 3 Nor am I suggesting that all friendships based on
 4 できる限りの最善の選択をすることは私たち一人ひとりにかかっている。
 5 私を気に入ってはいるが、一緒に時間を過ごしたくはないということ。
 6 (a) ② (b) ④ (c) ①
 7 ① ○ ② ○ ③ × ④ ○

解説 考え方をチェック

1 語句の意味の把握

- (A) ①「振る舞い」 ②「代用品」 ③「同意」 ④「回避」

ダッシュ (—) には文中の語句などの補足説明をするというのはたつきがあるので、それに注目する。ダッシュの直前で述べられていることの主旨は、家族と一緒に時間を過ごすのは、単に家族であるからで、いわばやむを得ないということ。したがって、下線部が②と同意であれば、you have no acceptable alternative が「受け入れ可能なもので、それに代わるものはない」となり、自然な流れになる。alternative は「(～に) 代わるもの」という意味。

- (B) ①「親切な」 ②「有害な」 ③「有益な」 ④「忠実な」

下線部を含む英文は、一緒に時間を過ごす人の選択は重要であるという話題に関連して、自分にとって nourishing である人と時間を過ごすのか、それとも一緒にいる人をいいかげんに選ぶのかというプラスとマイナスの選択肢に言及している文である。したがって、nourishing が③と同義であれば文意が成立する。nourishing は文字通りには「(食品などが) 栄養のある」という意味であるが、ここでは一緒に時間を過ごす人間について比喩的に用いられている。

2 文脈の把握

- (ア) ①「それにもかかわらず」 ②「一方では」 ③「その代わり」 ④「したがって」

空所を含む英文の直前文 (Your time ... important things.) は、「あなたの時間と精力は、最も貴重で大切なものの一部である。」という意味。空所の直後は「誰と一緒に時間を過ごすかについて賢明な選択をすることは非常に重要である」という意味。この流れは、空所の

直前の内容が「理由」となり、直後の内容がそれからの「帰結」を表しているので、適切な選択肢は④である。

- (4) ①「何か」 ②「何も～ない」 ③「多くのこと」 ④「少しのもの」

have ~ to do with A は「A と～な関係にある」という意味。また、空所を含む英文の主語 This suggestion (この意見) は、第③段落最終文 (If not ... more time alone.) で述べられている意見、つまり、一緒に時間を過ごす人が有益でない場合には、その人と一緒にいる時間を少なくしたいと思っている、ということを受けている。したがって、ポイントは、この意見が「他の人たちについて判断をすること (making judgments about other people)」とどのような関係にあるかという点にある。空所(4)を含む英文の直後の英文 (If you determine ... have wonderful qualities.) を見ると、ある人たちについて、一緒に時間を過ごしたくないと結論したとしても、その人たちを尊敬していないとか、その人たちが素晴らしい性質を持っていないということではないと述べられているので、空所に nothing を入れて「まったく関係がない」とすれば、自然な流れになる。

3 文脈と語法の把握

直前文が、I'm not suggesting that (私は…と言っているのではない。) という否定文であり、下線部(1)で与えられている語句の中に nor があることに注目すると、ここは〈Nor + be + S〉の倒置構文であると判断できる。したがって、まず、Nor am I suggesting that (私は…と言っているのでもない。) となる。また、based on ~ は「～に基づいて」という意味なので、based on past experience が all friendships を後置修飾する形にし、all friendships が are に対する主語になるようにすると、that 節は all friendships based on past experience are bad or wrong (過去の経験に基づく交友関係がすべて悪い、あるいは誤っている) となり、英文が完成するとともに自然な文脈になる。

4 文構造の把握

図解

It's up to each of us to make the best choices [(that) we can].

語句 ・ be up to ~ 「～にかかっている、～次第である」 ・ make a choice 「選択する」

- It is ~ to do の形式主語構文。each of us は「私たち一人ひとり」という意味。したがって、It's up to each of us to make the best choices は「最善の選択をすることは私たち一人ひとりにかかっている」となる。
- choices と we の間に関係代名詞 that [which] が省略されている。can は can make の make が省略された形。したがって、the best choices we can は「私たちができる最善の選択」となる。

5 内容の把握

下線部(3)を含む英文の that 節 (most of those people feel the same way about me) は「その人たちの大多数も私について同じように感じている」という意味であるが、the same ~ (同じ~) に注目すると、**既出の事柄**について、「それと同じように感じている」と述べていることがわかる。そこで、直前の英文 (In my life ... spend time with.) を見ると、「例えば、私は、自分の人生の中で、さまざまな理由で本当に気に入ってはいるが、それほど一緒に時間を過ごしたくはない人に何百人も出会った。」と述べられている。これは、**筆者が何百人もの人に対して感じた事柄**なので、上に見た that 節の内容は、その何百人もの人たちも筆者に対して同じように感じた、つまり、筆者を気に入ってはいるが、それほど一緒に時間を過ごしたくはないと感じたということになる。

答案作成上のポイント

直前文の内容を、その人たち (= 筆者が出会った何百人もの人たち) が私 = 筆者について感じたこととしてまとめればよい。ポイントは、①私を気に入っている、②(私と)一緒に時間を過ごしたくない、の2点。どちらも必須ポイントなので、いずれが欠落ないし誤っていても採点対象外になる可能性がある。「私」を「筆者」としても可。指示文が「...どのようなことを表しているか」なので、文末は「...ということ」とまとめること。

6 文脈の把握

①「重圧」 ②「一緒にいること」 ③「友だち」 ④「気楽」 ⑤「健康」

与えられている英文の意味は以下の通り。

「あなたの人生の質は、(a) を楽しむことができる人たちと一緒に時間を過ごすかどうかにかかっているかもしれない。したがって、もしあなたが、それほど精神的な (c) を感じないで (b) な人生を送りたいと思うのであれば、一緒に時間を過ごしたいと思う人たちと友だちになるべきである。」

- (a) 第⑤段落は本文の主題をまとめた段落であり、第1文の The strategy that I'm talking about とは、第④段落最終文の中で述べられている「もし誰か他の人と一緒にいることになるなら、一緒にいるのが本当に楽しい人と一緒にいる」(if I'm going ... enjoy being with) という方針を指している。第⑤段落第1文で述べられていることは、この方針が「あなたの人生の質に大きな影響を与える可能性がある」ということなので、(a)に②を入れるとほぼ同意になる。
- (b)(c) 第⑤段落最終文は「よい仲間と付き合いおうと決めれば、人生はより気楽で、はるかにストレスの少ないものになるだろう」という意味。したがって、(b)に④、(c)に①を入れるとほぼ同意になる。(b)に⑤を入れることも一見可能であるが、第⑤段落最終文の your life will be easier と合わないので不可。

7 内容の把握

- ①〇「職場のように、一緒に過ごす人を自分の意志で選ぶことができない場合は、できるだけその状況にうまく対処するしかない。」

第①段落第2～3文 (There are times ... best of it.) の内容と一致する。

- ②〇「おそらく人は自分が付き合っている友人について、なぜその人と付き合っているのかを本当には理解しないまま付き合っている。」

第②段落最終文 (Perhaps you are ... really knowing why.) の内容と一致する。

- ③×「もし自分が付き合っている人が尊敬できない人であったり、同じ価値観を持っていない場合、新たな人との出会いを求めることはよいが、一人であることはよくない。」

第④段落第4～8文 (Is the person ... more time alone.) で、一緒にいる人が尊敬できない人であったり同じ価値観を持っていなかったりする場合には、その人との付き合いを少なくすると、新たな人に会ったり一人で過ごす時間をもっとたくさんとることができると述べられている。

- ④〇「私たちが他の人たちと過ごす時間は限られており、自分たちがそうしたいと思うよりはるかに少ない。」

第④段落第4文 (Keep in mind ... we would like.) の内容と一致する。

全訳 英文内容をチェック

第1段落

大部分の人は、私たちが身近で最も多くの時間を過ごす人によって、よい影響も悪い影響も受けているということを認めている。もちろん、誰と一緒に時間を過ごすかについてほとんど、あるいはまったく自分で決めることができない時がある。例えば、職場ではそうである。こうした場合にはたいてい、私たちはそれを何とかうまく乗り切るしかないのが実情である。時には、同じことが家族内のある特定の人間にもあてはまる。彼らと時間を過ごすのは、その人たちのことを愛しているというだけの理由によるのではなく、単に家族であるという理由にもよるのだ。他に受け入れ可能な選択肢はないのである。

- ☐ **acknowledge** 「～を認める」
- ☐ **affect ~ positively (negatively)** 「～によい〔悪い〕影響を及ぼす」
- ☐ **around** 「身近で」
- ☐ **have control over ~** 「～を自分で好きなようにできる、～を制御する」

- ☐ **instance** 「場合」
- ☐ **the case** 「実情」
- ☐ **make the best of ~** 「～を何とかうまく切り抜ける、～(不利な事情)を最大限に利用する」
- ☐ **acceptable** 「受け入れられる」

第2段落

しかしながら、誰と一緒に時間を過ごすかについて全面的に自分で決めることができる時もある。例えば、友だちや家に招待する人々である。あなたの時間と精力は、最も貴重で大切なものの一部である。したがって、誰と一緒に時間を過ごすかについて賢明な選択をすることは非常に重要である。自分にとって本当に有益な人と時間を過ごすのか、それとももっといいかげんに一緒にいる人を選ぶのかということである。もしあなたが正直であるなら、自分の答えに驚くかもしれない。ひょっとしたら、あなたは理由もはっきりとはわからないまま人と友だちになっているかもしれないのである。

- ☐ **absolute** 「絶対的な、無条件の」
☐ **precious** 「貴重な」

- ☐ **extremely** 「非常に」
☐ **randomly** 「行き当たりばったり」

第3段落

私はぜひ今の交友関係をやめ、新しい交友関係を結ぶようにしてはどうかと言っているのではない。過去の経験に基づく交友関係がすべて悪いとか誤っていると言っているのでもない。私はただあなたに、誰かと一緒にいる時やそのすぐあとに自分がどのように感じるかということを見直し、そのことを正直に見つめることを勧めているだけである。あなたが一緒にいる人はあなたが成長する助けになっているだろうか。その人はあなたが素晴らしいと思ひ尊敬する人だろうか。あなたたちはお互いを成長させているだろうか。同じような価値観を持っているだろうか。▶¹ もしそうでないなら、あなたはその人物と過ごす時間を少なくする決心をしたいと思っているかもしれないということになり、そうすることで新しい人に出会ったり、もっと多くの時間を一人で過ごしたりする時間と余地が生まれるであろう。

▶ 1 (最終文) 代用の not / 直前の節の内容を先行詞とする非制限用法の関係代名詞

If not, it means [that you might want to make the decision

代用の not S V O

to spend less time with that person, (which will create the time and space

S' V' O'
非制限用法の関係代名詞

to meet new people or to spend more time alone)).

to meet と to spend は形容詞用法の不定詞で the time and space を修飾

・ if not = 「もしそうでないなら」 not は第4～7文を受けて、その内容を否定する節の代わりに用いられている。

- ☐ **suggest that ...** 「…してはどうかと言う」
☐ **break off ~** 「～(交渉・関係など)を破棄する」
☐ **encourage ~ to do** 「～に…するよう勧める」
☐ **reevaluate** 「～を再び評価する」
☐ **take a look at ~** 「～を見る」
☐ **thereafter** 「その後」

- ☐ **admire** 「～を素晴らしいと思う」
☐ **nourish** 「～を成長させる」
☐ **share** 「～を共有する」
☐ **values** 「価値観」
☐ **make a decision to do** 「…する決心をする」
☐ **space** 「余地」

第4段落

この意見は、他の人たちについて判断をすることとはまったく関係がない。もしあなたがそれほど多くの時間を一緒に過ごしたくない人たちがいると結論を下したとしても、あなたがその人たちを尊敬していないということにはならないし、その人たちが素晴らしい性質を持っていないということにもならない。あらゆることを考慮するなら、自由になる時間を一人で過ごしたいと思うか、誰か他の人と過ごしたいと思うかというだけのことである。▶² 私たち一人ひとりはある一定の時間しか他の人たちと過ごせないのであり、その時間はおそらく私たちがそうしたいと思っているよりはるかに少ないということには心に留めておくべきである。できる限りの最善の選択をすることは私たち一人ひとりにかかっている。▶³ 例えば、私は、自分の人生の中で、さまざまな理由で本当に気に入ってはいるが、それほど一緒に時間を過ごしたくない人に何百人も出会った。そして、たいていの場合、その人たちの大多数も私に

ついて同じように感じていると私は思う。私は一人で時間を過ごすのが好きで、もし誰か他の人と一緒にいることになるなら、▶4 一緒にいるのが本当に楽しい人と一緒にいたいと思う。

▶2 (第4文) 目的語の後置 / 共通部分の省略

Keep (in mind) [that each of us has only a certain amount of time to spend with
V O

keep O in mind の目的語 (that 節) が後置されている

other people, probably far less than we would like.
less = less amount of time

would like = would like to spend with other people

▶3 (第6文) 関係代名詞の省略 / but による接続

In my life, for example, I've met hundreds of people [(that) I really like for a

like と with の目的語になる目的格の関係代名詞の省略

variety of reasons but would much rather not spend time with].
but は like と would much rather not spend をつないでいる

▶4 (最終文) would like ~ to do / 関係代名詞の省略 / enjoy doing

I'd like it to be with someone [(that) I truly enjoy being with]
enjoy doing 「…することを楽しむ」

it は直前の if 節の to be with someone else を指している

・ would like ~ to do 「～に…してほしい」

- ☐ **suggestion** 「意見、提案」
- ☐ **would rather not do** 「…したくない」
- ☐ **all things considered** 「あらゆることを考慮すると」
- ☐ **available** 「使うことができる」

- ☐ **keep ~ in mind** 「～を心に留めておく」
- ☐ **a variety of ~** 「さまざまな～」
- ☐ **for the most part** 「たいていは」
- ☐ **guess** 「推測」

第5段落

私が述べている方針は、あなたの人生の質に大きな影響を与える可能性がある。周りにいる人、特に一緒に時間を過ごそうとあなたが選ぶ人は、あなたの考え方と幸福の状態に大きな影響を及ぼす。よい仲間と付き合うことに決めれば、人生はより気楽で、はるかにストレスの少ないものになるだろう。

- ☐ **strategy** 「方針、戦略」
- ☐ **potential** 「可能性」
- ☐ **have a ~ influence on A** 「A に～な影響を及ぼす」
- ☐ **attitude** 「考え方」
- ☐ **well-being** 「幸福」
- ☐ **keep good company** 「よい仲間と付き合う」

単語は友だちのようなもの——仲のよい友だちをどんどん増やそう

これから読解問題を1題終えるごとに、時には出題者の視点に立って、また時には採点者の視点に立って、読解問題にアプローチする上で重要なポイントについてお話をしていきます。

まず第1回目として「同意語句選択問題」を考えてみます。「えー、読解のポイントと言いながら語句問題ですか？」という声が聞こえてきそうですね。では、なぜ大学入試の読解問題で語句の問題が出題されるかということからお話ししましょう。それは、1つには、ある人の語彙力は、その人の英語力を反映していると言えるからです。また1つには、語句の意味を問うことによって英文が正確に読めているかどうかを判断することができるからです。

一口に語句問題といってもパターンは次のようにさまざまです。

- ① 純粋に語句の意味を問う問題…この場合は、ほぼ皆さんが使用している単語集に掲載されている単語がねらわれます。
- ② 難語の意味を問う問題…この場合、選択肢で与えられる語句は比較的易しい語句なので、文脈から空所に入る語を推測する空所補充問題の変形パターンと考えればよいでしょう。
- ③ いわゆる多義語の文脈における意味を問う問題…これは、多義語の意味をどれだけ知っているかに加えて、文脈が正しく把握できているかどうかを判断する問題と言えます。

例えば、❶を見てください。

❶ 下線部(A)、(B)の語と意味が最も近いものを1つずつ選び、番号で答えなさい。

(A) alternative

- ① behavior ② substitute ③ agreement ④ avoidance

(B) nourishing

- ① kind ② harmful ③ beneficial ④ faithful

解答 (A) ② (B) ③

(A)は入試基本語の意味を問う問題で、上の①に当てはまります。alternative も substitute も高校必修語です。(解説では文脈から推測するという手法をとりましたが、ぜひ覚えておいてほしい単語です。)では、(B)はどうでしょうか。nourishing はめったに出会うことのない単語ですね。そのもとである nourish も難語の部類に入ります。しかし、選択肢を見てください。①～④まですべて高校必修語かその派生語です。つまり、出題者は前後の文脈から判断して最も適当なものを選びなさいと言っているのです。これは上の②に当てはまります。

▶ 今回のポイント

知っている語句の数が増えれば英語も楽しくなる。できるだけ単語・熟語を覚えよう。
覚える方法としては、スキマ時間を利用して少しずつ何度も覚えることが大切。

2 太平洋を覆うプラスチックのゴミ

問題編 p.5

プラスチックスープと呼ばれる太平洋を覆うプラスチックのゴミは環境や生物に深刻な影響を与えている。

解答 正しい答えをチェック

1 (ア) ① (イ) ④ (ウ) ④ (エ) ④

2 ②

3 過去 50 年間に製造され、海に投げ入れられたプラスチックの小さなかけらがすべて、今でもどこかそのあたりにあるのです

4 海に捨てられた小さなプラスチック片には危険な化学物質が含まれ、それを食べた動物を、食物連鎖によって人間が食べるから。(58 字)

5 ④

解説 考え方をチェック

1 文脈の把握

(ア) ① 「ゴミがそばに浮かんでいました」

② 「海以外は何も見えませんでした」

③ 「自分たちのチームがレースに勝ったことを思い出して、私はうれしく思いました」

④ 「海鳥がヨットの上を飛んでいるのが見えました」

空所を含む英文は「甲板に出るたびに、(ア)」という意味。第④段落第1～2文(Mr. Moore came ... miles from land.)では、プラスチックスープに遭遇したというムーア氏の体験が述べられており、また、この発言に続く箇所(“How could we ... for a week?”)では、海を環境を台無しにしたことに対するムーア氏の批判的な発言が引用されている。以上の流れから判断すると、空所には海を環境悪化に関する発言が入ると考えられる。したがって、①が正解。

(イ) ① 「(…ということ)を否定した」 ② 「(…ということ)に反論した」

③ 「(…ということ)を望んだ」 ④ 「…と警告した」

空所を含む英文の that 節は「消費者がプラスチックの使用を減らさない限り、プラスチックスープの規模は今後10年間で2倍になるだろう」という意味。これは環境保護の活動家になったムーア氏の発言の内容なので、空所に④を入れると流れが自然なものになる。

(ウ) ① 「～を正しく理解する」 ② 「～を開示する」 ③ 「～について議論する」 ④ 「～を疑う」

空所を含む英文では、more research was ... the plastic soup と that there was ... Eriksen's findings という2つの that 節が said の目的語として「逆接」を表す but で接続されている。but より前半の部分は、プラスチックスープの規模と性質を調べるにはいっそうの調査が必

Unit 1
1
Unit 1
2
Unit 1
3
Unit 1
4
Unit 1
5
Unit 2
6
Unit 2
7
Unit 2
8
Unit 2
9
Unit 2
10
Unit 3
11
Unit 3
12
Unit 3
13
Unit 3
14
Unit 3
15

(工) ①「頭」 ②「羽」 ③「肺」 ④「胃」

2 語句の意味の把握

- 下線部(A)は modern plastics の性質を表す単語。直後の文 (Some objects ... the North Pacific.) で「中には 50 年以上経った物も北太平洋で見つっている」と述べられているので②が正解。durable は「耐久力のある」という意味。

3 文構造の把握

語句 ・ manufacture 「～を製造する」 ・ past 「過去の」 ・ throw A into B 「A を B に投げ入
れる」 ・ out there 「そのあたりに」

- 18

4 内容の把握

下線部(2)は「海のゴミは人間の健康にとって危険である」という意味。これに続く第⑩段落第2～4文(Hundreds of millions ... your dinner plate.)に、海には小さなプラスチック片が捨てられ、それには危険な化学物質が含まれているということ、また、それを吸収した動物が食物連鎖によって人間の食卓にのるとということが述べられているので、この内容が下線部の理由になる。

答案作成上のポイント

答案に盛り込むべきポイントは、①海に捨てられたプラスチック片には危険な化学物質が含まれている、②動物が食べる、③食物連鎖、④人間が食べる、という4点。①、③、④が解答の中心となるポイント。この点を外すと大きく減点される可能性があるので注意が必要。「理由」を問われているので、解答は「…から」、「…ので」のようにまとめること。

5 内容の把握

①×「太平洋の『プラスチックスープ』はカリフォルニアの×海岸に沿って900 km延びている。」

第⑩段落第2文(This drifting "soup" ... far as Japan.)に、カリフォルニア海岸の沖900 kmのあたりから～まで広がっている、と述べられている。

②×「陸地で生じるゴミより、船や海底油田掘削用台から投げられるゴミの方が×はるかに多い。」

第⑩段落第3～4文(About one-fifth ... comes from land.)に、ゴミのおよそ5分の1は船や海底油田掘削用台から投げ捨てられたものであり、残りは陸からのものである、と述べられている。

③×「海中のプラスチックのゴミが衛星写真に写らないのは、×海が汚れているからである。」

第⑨段落第1文(Mr. Moore said ... in satellite photographs.)に、海で見つかるプラスチックのゴミは透明に近く、水面のすぐ下にあるため、衛星写真には写らない、と述べられている。

④○「国連の報告によれば、プラスチックのゴミは海鳥と海洋動物の両方の死亡原因になっているが、推定死亡数は前者の方が多。

第⑨段落第1文(According to the ... 100,000 marine animals.)の内容に一致する。

全訳 英文内容をチェック

第①段落

太平洋上のゴミの「プラスチックスープ」が非常に急速に広がつつあり、いまやアメリカ合衆国の2倍の広さの面積を覆っている、と科学者たちは語った。この漂っている「スープ」は、カリフォルニア海岸の沖900 kmのあたりから、北太平洋を横切り、ハワイを通り過ぎて日本のすぐ近くまで広がっている。

- ☐ rubbish「《主に英》(集合的に)ゴミ」
- ☐ area「面積」
- ☐ twice the size of ～「～の2倍の大きさで」
- ☐ drift「漂う」

- ☐ stretch「(土地・時間・道などが)広がる、伸びている」
- ☐ off the ～ coast「～海岸沖に」
- ☐ as far as ～「(場所的に)～まで」

第2段落

「太平洋ゴミベルト」を発見したアメリカの海洋学者、チャールズ・ムーアは、およそ1億トンのゴミがその海域に漂っていると考えている。調査主任のマーカス・エリクセンは、¹「最初、人々は、それはその上を歩くことができそうなプラスチックのゴミの島だと思っていました。必ずしもそのようなものではありません。プラスチックのスープに近いものです」と語った。

▶ 1 (第2文) that の用法

The original idea [that people had] was [that it was] an island of plastic garbage
S S' V' V 補語になる名詞節を導く接続詞

[that you could almost walk on]).
前置詞 on の目的語になる目的格の関係代名詞

- ☐ **garbage** 「《主に米》ゴミ」
☐ **region** 「地域；海域」

- ☐ **director** 「指導者」
☐ **original** 「最初の、本来の」

第③段落

▶ 15 年以上、海のプラスチックの増加を調査してきた別の専門家は次のように語った。「ハワイ島の近くでも起こっていることですが、ゴミが陸地のそばまでやってくると結果は劇的なものになります。海岸がこの紙吹雪のようなプラスチック片に覆われるのです。」ゴミのおよそ 5 分の 1（その中にはサッカーボール、カヤック、レゴブロック、買い物袋などのあらゆるものが含まれている）は、船や海底油田掘削用台から投げ捨てられるものである。残りは陸からのものである。

▶ 2 (第 1 文) 非制限用法の関係代名詞 / 代動詞の do

Another expert, who has studied the increase of plastics in the seas for more than 15 years, said that "[when the garbage comes close to land], as it does near Hawaii], the results are dramatic].

- ☐ **expert** 「専門家」
☐ **study** 「～を調査する；～を研究する」

- the rest (of ~) 「(～の) 残り」ここでは of the rubbish が省略されている。

第4段落

ムーア氏は、1997年に、ロサンゼルスからハワイへのヨットレースから近道をして帰途についていた時、偶然「プラスチックスープ」に出くわした。陸から何千マイルも離れたところで、来る日も来る日もゴミに取り囲まれていることに彼は驚いた。あるインタビューで彼は次のように語った。「甲板に出るたびに、ゴミがそばに浮かんでいました。これほど広い区域を私たちはどうやって台無しにしてみましたのでしょうか？ どのようにすれば、こんなことが1週間も続くことになり得るのでしょうか？」

- ☐ **come across** 「～（人・物）に（偶然）出くわす」
- ☐ **by chance** 「偶然」
- ☐ **take a short cut** 「近道をする」
- ☐ **be astonished to do** 「…して驚く」

- ☐ **surround** 「～を取り囲む」
- ☐ **day after day** 「来る日も来る日も」
- ☐ **every time S + V** 「…するたびに」
- ☐ **damage** 「～を台無しにする」
- ☐ **go on** 「（事が）続く」

第⑤段落

この体験の後、ムーア氏は事業を売却し、環境保護活動家になった。彼は、消費者がプラスチックの使用を減らさない限り、プラスチックスプーンの規模は今後 10 年間で 2 倍になるだろうと警告した。

- | | |
|--|---|
| ☐ environmental activist 「環境保護活動家」 | ☐ double 「（金額・数量が）2 倍になる」 |
| ☐ consumer 「消費者」 | ☐ decade 「10 年間」 |
| ☐ reduce 「～を減らす」 | |

第⑥段落

ハワイ大学のデイビッド・カール教授は、プラスチックスプーンの規模と性質を調べるにはいっその調査が必要であるが、エリクセンの調査結果を「疑う理由はない」と語った。「海のプラスチックのゴミに何が起きているのか、またそれがどのように移動するのかを解明することが重要です。それが海洋生物や生態系に及ぼす影響を調査しなければなりません」とカール教授は語った。彼は、今年後半に「ゴミスプーン」の調査をするために、他の海洋学者たちとの調査旅行に行くことを計画しており、またゴミの海域は実際のところ、新しい生息地になっていると考えている。

- | | |
|---|--|
| ☐ check 「～を調べる」 | ☐ marine life 「海洋生物」 |
| ☐ nature 「性質、本質」 | ☐ eco-system 「生態系」 |
| ☐ finding 「（調べて）明らかになったこと、結論」 | ☐ plan 「～を計画する」 |
| ☐ find out 「～を解明する」 | ☐ expedition 「調査旅行」 |
| ☐ move about 「移動する」 | ☐ search for 「～を探す、調査する」 |
| ☐ impact on 「～に対する影響」 | ☐ habitat 「生息地」 |

第⑦段落

昔のゴミとは違って、近頃のプラスチックは非常に耐久性がある。中には 50 年以上経った物も北太平洋で見ついている。ある科学者が言うには、「過去 50 年間に製造され、海に投げ入れられたプラスチックの小さなかけらがすべて、今でもどこかそのあたりにあるのです」とのことであった。

- | | |
|---|--|
| ☐ the past 「昔、過去」 | ☐ modern 「近頃の；現代の」 |
|---|--|

第⑧段落

ムーア氏が語ったところによれば、海で見つかるプラスチックのゴミは透明に近く、水面のすぐ下にあるため、衛星写真には写らないとのことである。「それは船からしか見ることができないのです。」

- | | |
|---|---|
| ☐ transparent 「透明な」 | ☐ satellite photograph 「衛星写真」 |
| ☐ surface 「表面」 | |

第9段落

国連環境計画によれば、プラスチックのゴミは毎年10万頭以上の海洋動物だけでなく、100万羽以上の海鳥の死因となっているとのことである。たばこのライターや歯ブラシのようなものが死んだ海鳥の胃の中で見つまっている。海鳥はそれらを食物と間違えるのである。

☐ seabird 「海鳥」

☐ mistake A for B 「AをBと間違える」

第10段落

エリクセン博士が語ったところによれば、海のゴミは人間の健康にとっても危険であるとのことである。何億ものプラスチックの小さなかけらが、毎年海に捨てられている。これらのプラスチックのかけらには危険な化学物質が含まれており、その後、それらが食物連鎖の中に入っていき、「海に入るものは、これらの動物の中に入っていき、その後、人間の食事の皿にのるのです。ただそれだけのことです」とエリクセン博士は語った。

☐ hundreds of millions of ～ 「何億もの～」

☐ tiny 「とても小さい」

☐ dump 「～（ゴミなど）を捨てる」

☐ contain 「～を含む、～が入っている」

☐ chemical 「化学物質」

☐ food chain 「食物連鎖」

☐ It's that simple. 「ただそれだけのことです。」 何かの事情を説明したあとに付加する決まり文句。

読解 PLUS+ ONE 出題ポイントを押さえよう

柔から頭で隠れたディスコースマーカーを探そう

● 明示されている因果関係

今回は下線部の理由を答える問題へのアプローチと英文を読む場合の注意点について考えてみましょう。下線部の理由をたずねる問題は記述式、マーク式を問わずよく出題されますが、本文の中に、because, as, since, due to などの因果関係を表す表現や、いわゆるディスコースマーカーが用いられている場合には比較的容易に解答を導くことができます。例えば次のようなパターンです。

① ～. This [That / It] is why ... 「こういうわけで〔そういうわけで〕…」

② This [That / It] is because ～ 「これ〔それ〕は～だからだ」

③ The reason is that ～ 「その理由は～だ」

①～③のどのケースにおいても、…の理由が～の部分に述べられていることがわかります。したがって、～の部分の意味がわかれば…の理由は簡単に解答することができるわけです。

● 隠れた因果関係に注目

上のような方法で比較的容易に理由説明の問題にアプローチできる問題もよく見受けられます。しかし、問題作成者の立場からすれば、もう少し趣向を凝らして受験生の論理的思考力を試したいという心理が働くのも事実です。そこで、今回の4を見てみましょう。

4 下線部(2)について、その理由を50～60字(句読点含む)の日本語で説明しなさい。

(2) the rubbish in the seas is a risk to human health

解答 海に捨てられた小さなプラスチック片には危険な化学物質が含まれ、それを食べた動物を、食物連鎖によって人間が食べるから。(58字)

この問題の場合、下線部(2)の前後を見ても上に見たような因果関係を表す表現は見当たりません。しかし、問題の指示文で「理由を説明しなさい」と述べられている以上、本文のどこかにその理由は述べられているはずです。ここでは、下線部の直後のtooに注目してみましょう。すると、the rubbish..., tooは「海のごみは人間の健康にとっても危険である」という意味になりますので、海のごみの危険性については、人間の健康に関することを除いては既に述べられている(第⑨段落)ことがわかります。したがって、下線部(2)の理由については、下線部(2)以降を検討すればよいと判断できるのです。

この問題の場合、因果関係を表す表現が見当たらなかったにもかかわらず、解答を導くことができたのは、英文と英文の間には必ず何らかの論理的関連が存在しているということを意識して英文を読んでいるからです。英文を読んでいて、「どうしてこのような内容の英文がここに書かれているの?」と思った経験はありませんか。もしあるとすれば、それは、英文と英文をつなぐロジックをよく考えずに読み進めた結果であると言えるでしょう。

いわゆる英文読解法やディスコースマーカーは英文のロジックを考える上で重要なものであることは否定できません。しかし、それだけが英文のロジックをつなぐものであると考えていては大きな落とし穴に陥る危険性は十分にあります。上にも書きましたが、英文と英文の間には必ず何らかの論理的関連が存在しています。いわば「隠れたディスコースマーカー」が存在していると言ってよいでしょう。出題者にとっては、そのような箇所こそが受験生の英文読解力を試すのに格好の箇所なのです。

話を今回の4に戻すと、下線部(2)からの英文の流れは「結果・結論→原因・理由」になっています。この記述方式は英文の中で頻繁に見られるパターンなので、設問にアプローチする場合でもよく認識しておくとういでしょう。しかし、逆に「原因・理由→結果・結論」という流れで因果関係を表すケースももちろんありますので、多くの英文に当たり、柔軟な思考で英文に対処していきましょう。

▶ 今回のポイント

「木を見て森を見ず」という状態にならないために、英文を読む際には明示的な標識に注目だけでなく、見えない論理展開をも意識することが大事。

3 マイクロファイナンス

問題編 p.8

貧しい人たちに商売を始めるための少額のお金を貸し出すマイクロファイナンスは、彼らが貧困から抜け出すのに役立っている。

● 解答 正しい
答え をチェック

- 1 貧しい人々に、慈善を施すのではなく少額の金を貸し付けることで、彼らが貧困から身を起こす手助けをするという考え方。(56字)
- 2 (ア) ① (イ) ② (ウ) ②
- 3 (他の人たちの中には、) 自分が作る商品を売って利益を得ることができる市場にその商品を運ぶため、運送費に貸付金をすべて使う者もいるかもしれない。
- 4 ①
- 5 ④
- 6 ① ○ ② × ③ ○ ④ ○ ⑤ ×

● 解説 考え方 をチェック

1 内容の把握

下線部(1)を含む The idea behind microfinance is simple は「マイクロファイナンスの背後にある考え方は単純である」という意味。直後のコロロン(:)に注目。コロンには、コロンの直前に述べたことを説明する節や語句を後ろに続ける用法があるので、**offering basic financial ... out of poverty** が下線部の説明になっていると考えられる。この部分は「貧しい人々に慈善を施すのではなく、必要最小限の金融サービスを提供することにより、貧しい人々が自分で貧困から抜け出すのを助けることができる」という意味なのでこの内容を指定字数の範囲内の日本語でまとめればよい。lift oneself out of ~ 「～から脱する、身を起こす」

答案作成上のポイント

答案に盛り込むべきポイントは、①貧しい人々に最小限の金融サービスを提供する、②(貧しい人々が) 貧困から身を起こす手助けをする、③慈善ではない、の3点。①と②は必須ポイントなので、いずれかが欠けていたり誤った内容になっている場合には採点対象外になる可能性がある。③は解答に含めるべきだが、含まれていなくても解答の趣旨に大きな影響はないので、部分減点にとどまると思われる。設問の指示文が「どのような考え方か」なので、文末は「…という考え方」とか「…ということ」とする。

2 文脈の把握

- (ア) ①「バスの運賃」 ②「子供の学費」 ③「必需品」 ④「父親の借金」

空所を含む英文の using the other part to pay for her (ア) as she travels to various towns to sell them の部分は分詞構文で、using の意味上の主語は A woman in Bangladesh (バ

ングラデシュの女性)。また, the other part とは, 借りた 40 ドルのうち, 「干し魚, 木の実, チョコレート」を買った「残りのお金」を指している。したがって, 上に引用した部分は, 「(バングラデシュの女性) 残りのお金を, 彼女がそうした物 (=干し魚, 木の実, チョコレート) を売るためにさまざまな町へ行く時の (ア) として使う」という意味になり, 空所に①を入れると文意が成り立つ。(→全訳▶2)

(イ) ①「自分たちが手に入れる利益を分け合う」

②「自分たちが稼ぐお金を増やす」

③「自分たちが稼ぐお金を使う」

④「自分たちが被る損失を埋め合わせる」

空所を含む英文は「マイクロファイナンス・プログラムは参加者に, 彼らが (イ) ために必要な他の基本的金融サービスをも提供する」という意味。そのサービスの内容は, 直後の英文 (They (= Microfinance programs) provide places to save money) に述べられているように, 「お金をためておく場所を提供する」ことであり, それは, 「利益を蓄えて時がたつうちに利子を得ることができるようにするため」(so that clients ... interest over time) であることがわかる。よって, 空所に②を入れると自然な流れになる。

(ウ) ①「年金」 ②「保険」 ③「教育プログラム」 ④「就業機会」

空所を含む英文は「そのプログラムはまた, 突然の災難で家族が破滅しないように (ウ) をも提供する。」という意味。したがって, 空所に入るのは, 「突然の災難で家族が破滅」した場合に備えて提供されるものであるとわかる。この内容に最も適切なものは②である。

3 文構造の把握

図解

Other people may use their loans entirely for transportation

(to bring goods to a market)

[that they produce] [where they can sell them for a profit].

語句 ・ transportation 「輸送 (費)」 ・ goods 「商品」

- to bring は, use their loans にかかる副詞用法の不定詞で「運ぶために」という意味。
- bring goods to a market 「商品を市場に運ぶ」
- that は goods を先行詞とする関係代名詞で, produce の目的語。「彼らが作る商品」という意味。
- where は a market を先行詞とする関係副詞。直訳だと「利益を得るために〔目的で〕それら売ることができる市場」だが, 全訳のように, 「それら売って利益を得ることができる市場」としてもよい。

4 語句の意味の把握

- ①「労働者」 ②「経営者」 ③「所有者」 ④「重役」

employee は「従業員」という意味。これに意味が最も近い選択肢は①である。bank employee で「銀行員」となる。なお、employer は「雇用主」という意味。

5 内容の把握

- ①「交通費がかからないので、彼女たちは毎週のお出かけを大いに楽しむことができる。」
②「毎週のお出かけのために、彼女たちの生活は精神的にも経済的にも大きく変わった。」
③「毎週出かけている間、彼女たちは家族の世話から解放される。」
④「毎週出かける必要がないので、彼女たちは商売だけではなく家事も何とかこなすことができる。」

下線部(3)は「彼女たちが毎週出かけなくてもよいことは大きな違いになり得る。」という意味。save A B「A(人など)のB(労力・時間など)を省く」。「毎週出かけなくてもよいこと」とは、第⑥段落第1文で述べられている「個人の事情に合わせたサービス(Personalized services)」の一例として、貸付金の返済における手間を省くというサービスのことである。また、下線部の直前の英文(As most microfinance ... running their business.)では、マイクロファイナンスの顧客の大半を占める女性は商売に加えて家事もしなければならないと述べられている。したがって、下線部の「大きな違いである」とは、返済の手間が省かれることによって、商売だけではなく家事をする時間も確保できるという内容になる。以上より、正解は④である。

6 内容の把握

- ①○「マイクロファイナンス・プログラムが貧しい人たちに貸し付けるお金の総額は、通常は200ドル未満である。」
第②段落第2文(Micro-loans, usually ... a small business.)の内容に一致する。
②×「マイクロファイナンスの機関のおかげで、都会の人たちは小規模の商売を始めることができるが、×農村部の人々はそうではない。」

第④段落第1文(While microfinance institutions ... in rural areas.)で、マイクロファイナンスの機関のおかげで「農村部の地域でも生活を改善することができる」と述べられ、そのあとに農村部で行われる商売の例が挙げられている。

- ③○「マイクロファイナンスが成功する要因の1つは、グループの人たちの間で責任を共有することである。」
第⑤段落第3～5文(Individuals receive ... support to one another.)の内容に一致する。
④○「グラミン銀行はムハマド・ユヌスのアイデアであり、彼の手持ちのわずか27ドルで始まった。」
第⑦段落第2～3文(Here, Mohammad Yunus ... poor people worldwide.)の内容に一致する。

- ⑤×「グラミン銀行は世界中の 600 万人の貧しい人たちの役に立っているが、~~×~~いまや世界で最も大きい銀行である。」

前半部分は第⑦段落第3文 (Started with ... poor people worldwide.) に一致するが、the biggest bank in the world は本文に記述なし。

● 全訳 英文内容をチェック

第①段落

お金は木にぶらさがってはいないかもしれないが、成長して増えることはあり得る。時には、人が商売を始めるためには、ごくわずかのお金さえあればよい。▶¹ マイクロファイナンス・プログラムは、人々に商売を始めるための少額のお金を貸し出すことによって、彼らが貧困の連鎖から抜け出すことを可能にし、利益を蓄えることを勧めている。最下層の貧困に取り組むことで、マイクロファイナンスはよりよい未来のための種をまくのである。

▶¹ (第3文) and による接続

Microfinance programs	enable people to escape a cycle of poverty
S	V ₁ O ₁
	(by loaning them small amounts of money (to start businesses))
	and
	encourage them to save their profits.
	V ₂ O ₂

- | | |
|---|--|
| ☐ get started (in ~) 「(~を) 始める」
☐ microfinance 「マイクロファイナンス」 貧困者向けの小口金融。
☐ enable ~ to do 「~が…することを可能にする」 | ☐ a cycle of ~ 「～の連鎖」
☐ loan O ₁ O ₂ 「O ₁ に O ₂ (物・金) を貸す」
☐ profit 「利益」
☐ work at 「～に取り組む」 |
|---|--|

第②段落

マイクロファイナンスの背後にある考え方は単純である。貧しい人々に慈善を施すのではなく、必要最小限の金融サービスを提供することにより、貧しい人々が自分で貧困から抜け出すのを助けることができるというものである。マイクロローンは、普通は 200 ドル未満の額であるが、人々に小規模の商売を始める機会を与える。例えば、フィリピンの人里離れた村に住んでいるある女性は、携帯電話を買うために貸付を望むかもしれない。電話を買うと、彼女はその電話を貸し出して、彼女自身のための手数料と 1 回ごとの通話料金を取ることができる。▶² 他方、バングラデシュの女性は 40 ドルを借りて、その一部を使って干し魚、木の実、チョコレートを買い、残りのお金をそうした物を売るためにさまざまな町へ行く時のバス代として使う。自分が作る商品を売って利益を得ることができる市場にその商品を運ぶため、輸送費に貸付金をすべて使う人もいるかもしれない。

▶ 2 (第5文) 分詞構文 / and による接続

A woman (in Bangladesh), meanwhile, could take out a \$40 loan,

spending part of it to buy dried fish, nuts, and chocolates,

分詞構文 = and spends = the 40 dollars

and spending と using をつないでいる

using the other part to pay for her bus fare [as she travels to various towns to sell them].

分詞構文 = (and) uses

「…する時に」

・ to buy, to pay, to sell はいずれも目的 (…するために) を表す不定詞の副詞用法。

☐ **basic** 「最小限の, 基本的な」

☐ **financial** 「金融の」

☐ **charity** 「慈善, 施し (物)」

☐ **micro-loan** 「マイクロローン, 小額貸付」

☐ **isolated** 「人里離れた, 孤立した」

☐ **cell phone** 「携帯電話」

☐ **rent out** ～ 「～を賃貸する」

☐ **charge for** ～ 「～の料金を請求する」

☐ **fee** 「(サービスに対する) 料金」

☐ **meanwhile** 「それと同時に, その間に」

☐ **take out a loan** 「借金をする」

☐ **pay for** ～ 「～の代金を払う」

第3段落

マイクロファイナンスの機関は都会の環境で成功している一方、農村部の地域でも生活を改善することができる。小さな村で自分の商売が成功している人は、何人か他の人を雇うことになるだろうし、一方、人里離れた村での携帯電話の新しい商売は、そこの住人に外の世界との重要なつながりを提供する。同じように、製品の販売をする商売は、その品物を作ったり育てたりした村人すべてに利益を与えることがある。

☐ **institution** 「機関」

☐ **urban** 「都会の」

☐ **setting** 「環境」

☐ **for the better** 「よりよい方向に」

☐ **rural** 「農村部の」

☐ **provide A for B** 「BにAを与える」 (= provide

B with A)

☐ **resident** 「住人」

☐ **involve** 「～を伴う」

☐ **benefit** 「～に利益を与える」

☐ **item** 「品物」

第4段落

マイクロファイナンス・プログラムは、稼いだお金を増やすために必要な他の基本的金融サービスをも参加者に提供する。そのプログラムは、顧客が安全に利益を蓄えて時がたつうちに利子を得ることができるようにするために、お金をためておく場所を提供する。そのプログラムはまた、突然の災難で家族が破滅しないように保険をも提供する。子供の学費のような出費をまかなうことができるような「消費貸付」をするプログラムもある。

☐ **client** 「顧客」

☐ **interest** 「利子」

☐ **over time** 「時がたつうちに」

☐ **misfortune** 「災難」

☐ **ruin** 「破滅, 破産」

☐ **cover expenses** 「費用をまかなう」

☐ **school fee** 「学費」

第5段落

マイクロファイナンスの最もユニークな面の1つは、個人だけでなく地域社会も取り込むことである。マイクロファイナンスの機関には、5人くらいの小集団を組織して一緒に働くようにしているものもあるし、50人もの集団を維持しているものもある。貸付を受けるのは個人であるが、集団全体が返済に責任を負っている。▶3 責任が共有されることによって、銀行は、貧しい暮らしをしている人々にはとても持ち合わせのない担保を必要としないで貸付が返済される保証が得られるのである。すべてのメンバーがお互いの成功に関わるので、彼らは大いに必要とされている援助をお互いに提供し合う。

▶3 (第4文) 無生物主語構文 / 非制限用法の関係代名詞

Sharing the responsibility guarantees the bank [that the loan will be repaid

without the need for collateral, (which people (living in poverty) simply do not have)].

非制限用法の関係代名詞

・無生物主語構文。「責任を共有することが銀行に…を保証する」→「責任を共有することによって〔責任が共有されることによって〕、銀行は…を保証される」

- ☐ engage 「～を関わらせる、引き込む」
- ☐ community 「地域社会」
- ☐ be responsible for ～ 「～に責任がある」
- ☐ repayment 「返済」

- ☐ guarantee ～ that ... 「～に…ということを保証する」
- ☐ simply ... not 「どうしても…ない」
- ☐ invest A in B 「BにAを与える」

第6段落

個人の事情に合わせたサービスも、多くの顧客の成功の助けになる。これは、貸付金を返す人に対して銀行に来るように要求するのではなく、▶4 銀行員に週ごとの貸付の支払い金を集めて来てもらうといったようなごく簡単なものであることもある。マイクロファイナンスの顧客の大半は女性なので、彼女たちは商売をするだけでなく、小さな子供の世話をし、家族への責務を何とか果たしているのである。彼女たちが毎週出かけなくてもよいことは大きな違いになり得るのだ。

▶4 (第2文) have O do

... having a bank employee come to collect the weekly loan payment
have O do 「Oに…してもらう」(havingは動名詞)

- ☐ personalize 「～を個人に関するものとする」
- ☐ as simple as ～ 「～のように極めて簡単な」
- ☐ weekly 「週ごとの」
- ☐ insist that S (should) do 「…するように要求する」

- ☐ manage 「～をどうにかして果たす」
- ☐ family responsibility 「家族への責務」
- ☐ run a business 「商売を営む」
- ☐ save A B 「A(人など)のB(労力・時間など)を省く」

第7段落

バングラデシュはマイクロファイナンスの発祥の地だと考えられている。この地で、バングラデシュの銀行家で経済学者であるムハマド・ユヌスが、1976年にグラミン銀行とそのマイクロファイナンスのモデルを創設したのである。ユヌスの手持ちのたった27ドルのお金で始まったが、グラミン銀行は今では、世界中の600万人の貧しい人々に役立っている参加者所有型の銀行である。ムハマド・ユヌスの考えが成功したため、ユヌスとグラミン銀行は2006年にノーベル平和賞を受賞した。

- ☐ birthplace「発祥の地」
☐ found「～を創設する」

- ☐ participant-owned「参加者所有の」
☐ earn A B「AにBをもたらす」

読解 PLUS ONE 出題ポイントを押さえよう

コロンは宝物——埋もれていたら掘り返そう

今回は、解答を導くためのアプローチの方法として、英語の句読点、特にコロンに注目してみましょう。「コロン」と聞いて「何それ?」と思った人も少なからずいるかもしれません。コロンとは「:」の記号のことです。これを見て、「あ、時刻の表示に使う記号ね」しか思い浮かばない人は宝物を完全に埋もれさせてしまっています。確かにコロンは時刻の表示にも使います(14:30など)が、ここで問題にするのは、解答を導くための手がかりとしてのコロンの用法です。話が回りくどくなりましたが、解答へのアプローチという観点から見た場合のコロンの用法としては、次の2点が重要です。

- ① 説明的な節や句の前に置かれる
- ② 具体的な例示の前に置かれる

● 説明的な節や句の前に置かれるコロン

具体的に確認するために①を取り上げてみましょう。

① 下線部(1)の The idea behind microfinance とはどのような考えか、60字(句読点含む)以内の日本語で具体的に説明しなさい。

(1) The idea behind microfinance is simple: offering basic financial services to the poor, instead of offering charity, can help them to lift themselves out of poverty.

解答 貧しい人々に、慈善を施すのではなく少額の金を貸し付けることで、彼らが貧困から身を起こす手助けをするという考え方。(56字)

この問題は、上に述べたコロンの①の用法に注目して解答を導いています。つまり、**コロンの後ろには前に述べた内容の説明が続く**という英文の流れを利用して、コロンの後ろを解答としてまとめているのです。この問題は記述式内容説明問題ですが、選択式問題においてもコロンの直後の内容と同意の英文を正解の選択肢にすることによって問題を作成することができます。

● 具体的な例示の前に置かれるコロン

次の英文を見てください。

例 Students at this university take three foreign languages as required subjects: English, French and Russian. (この大学では、学生は必修科目として外国語を3つ履修する。英語、フランス語、ロシア語である。)

この英文では、**three foreign languages**の**具体例**がコロンの直後に書かれています。左ページに挙げた②の用法です。出題者がこの英文を見た場合、コロンに注目してさまざまな問題が頭に浮かびます。例えば次のようなものです。

問題例 1 : three foreign languages を具体的に述べさせる。

→解答 : 「英語、フランス語、ロシア語」

問題例 2 : foreign languages を空所にして、空所に入るものを選ばせる。

- ① natural science subjects ② social science subjects
③ foreign languages ④ seminars

→解答 : ③

問題例 3 : 内容一致問題の選択肢とする。

At this university, students are required to take Russian, in addition to English and French.

→解答 : ○

これ以外にもいろいろなパターンの問題が考えられます。このように、コロンに注目するだけで、問題作成者にはさまざまなタイプの問題が浮かんできます。逆に皆さんの立場からすれば、コロンは解答にアプローチする際の強力な武器になることがよくわかると思います。コロンは確かに見落としがちな記号ですが、名探偵はちょっとした手がかりから真実にたどり着きます。皆さんもコロンの用法を理解することによって、今まで見落としていた英文読解の真実が見えてくるようになりますよ。

▶ 今回のポイント

コロンは、「説明的な節や句の前」あるいは「具体的な例示の前」に置かれることを覚えておこう。

4 カルチャーショックの原因と4つの段階

問題編 p.12

人は自分の文化の基準だけを身に付けて育つため、異文化の中に入っていくとカルチャーショックを経験することがよくあるが、それは通常、魅惑→敵対→順応→受容という4つの段階を経過する。

● 解答 <正しい答え>をチェック

1 (ア) ② (イ) ① (ウ) ③

2 第1は蜜月段階であり、これは、旅行するのは大好きだが、決して次に何が起ころうかわかるほど長くは1カ所に滞在しない人にとってはなじみ深いものである。

3 (A) ① (B) ③ (C) ①

4 A. 自分と同じ国の出身でアメリカ人の中で長く暮らしている人たち

B. 彼らのせいでアメリカ人に対する否定的な感情が強化されると、外国人の小さな共同体の中に入って行き、相変わらずアメリカ人がわからず、居心地が悪いと感じ続け、ホームシックから抜け出せないから。

5 ④

6 ①, ④, ⑥

● 解説 <考え方>をチェック

1 文脈の把握

(ア) ①「同じように」 ②「違って」 ③「真剣に」 ④「慎重に」

空所を含む英文には2つの that 節があり、どちらも explained の目的語になっている。前半の that 節 (that we were ... our own culture) は「私たちは自分たち自身の文化にだけ当てはまる基準を身に付けていた」という意味。また、後半の that 節 (that across the border things were done (ア)) は「国境を越えると、物事は(ア)行われていた」という意味。そこで、空所に②を入れると、人が身に付ける文化の基準は自分たちだけに当てはまるもので、外国では異なった基準で物事がなされるという整合性のある内容になる。(→全訳▶1)

(イ) ①「感じがよい」 ②「がっかりするような」 ③「不愉快な感じを与える」 ④「支配できる」

空所を含む英文は「蜜月段階では、新しい国とそこの人々は(イ)ように見える。」という意味。これはカルチャーショックの第1段階であり、直後の2つの文 (Better than home. Everything ... so interesting.) より、空所に①を入れると自然な流れになる。

(ウ) ①「財産」 ②「人生」 ③「自己の存在証明」 ④「共同体」

空所を含む英文の that self who back at home was confident and masterly (国へ戻れば自信に満ちて立派だった自己) は(ウ)の同格表現、つまり、言い換えである。これに最も近いものは「自己の存在証明」なので、③が正解。(→全訳▶2)

2 文構造の把握

図解

The first is the honeymoon stage, (familiar to those of us [who love to travel, but never stay
S V C S' V₁ V₂
in one place long enough to find out [what follows]]).
~ enough to do 「…するほど」

- 語句 ・ honeymoon 「蜜月のような期間（この上なく幸せな期間）」 ・ familiar to ~ 「～によく知られている」 ・ find out ~ 「(注意・調査によって) ~を知る」
- the first は the first stage の省略で「第1段階」という意味。
 - familiar to ~ は being familiar to ~ の being が省略された分詞構文。「…であり、～になじみ深いものである」と訳すと自然。those は関係代名詞 who の先行詞で、those (= the people) who ... で「…する人たち」となる。
 - 関係代名詞節の構造は、who が主語、but が love と (never) stay という2つの動詞を接続している。enough (十分に) は後ろから long を修飾している。「…するのに十分長く」→「…するほど長く」。
 - what follows の what は疑問詞と関係代名詞のいずれの解釈も可能。find out の目的語で、「次に何が起るか；次に起こること」となる。

3 語句の意味の把握

- (A) ①「素晴らしい魅力が色あせる」 ②「永続的な魅力が増す」

- ③「美しさは同じままである」 ④「バラが満開である」

下線部は第④段落冒頭の文であるが、第⑤段落では、カルチャーショックの第1段階として、自分が滞在している国やその国の人たちが魅力的に見えるということが述べられている。これに対し、第④段落では、自分が新しく生活し始めた国の人々や彼らの物のやり方に対して否定的な感情を持つようになるということが述べられている。つまり、**魅力的に見えていたものが、もはやそうではなくなった**という流れになっていることから、下線部の意味としては①が適切だとわかる。the bloom comes off the rose は「バラの花が落ちる」から転じて「新鮮味がなくなる」という意味のイディオム。

- (B) ①「怒りっぽくなる」 ②「新たな近隣の人たちの中で幸せである」
③「どうしていいかわからない」 ④「他人に無関心になる」

下線部を含む英文の直後に、This response, stage two ... とあるので、下線部はカルチャーショックの第2段階における反応の仕方であるとわかる。第2段階については、第④段落第8～9文 (You are ... people behave.) で、「**簡単な物事のやり方がわからない**」とか「**人々の振る舞い方がまったく理解できない**」と述べられている。このような状態を最もよく表しているのは③である。feel at sea は「道しるべも何もない大洋のまっただ中にいるように感じる」から転じて「途方に暮れる」という意味のイディオム。

- (C) ①「まったく自然である」 ②「もっと自然であるべきだ」
 ③「もっと不自然であるべきだ」 ④「非常に不自然である」

下線部の could は仮定法で、「これ以上自然なことは（仮にあったとしても）あり得ないだろう」という意味。直説法で表せば is totally natural となる。したがって、①が正解。

4 内容の把握

- A. 下線部(2)を含む英文の Such people can be a great comfort は「そうした人々は大きな慰めになり得る」という意味。下線部の直前の英文 (Your own countrymen ... as you do now.) を見ると、「アメリカ人の中で長く暮らした経験を持つ同じ国出身の人たちが、あなたが今感じているようにかつて彼らも感じたのだと安心させてくれる」と述べられているので、Such people とはこの文に出てくる「アメリカ人の中で長く暮らした経験を持つ同じ国出身の人たち」のことである。(→全訳▶3)
- B. A. で見たように、下線部(2)の直前文では、Such people について a great comfort の側面にしか言及されていなかったもので、a danger の具体的な側面については、下線部(2)以降に述べられていると考えられる。そこで、下線部に続く2文 (If your fellow ... uncomfortable and homesick.) を見ると、「同胞の移住者のせいで、アメリカ人に関するあなたの否定的な感情が絶え間なく強くなるとしたら、あなたは外国人の小さな共同体へと入って行く可能性があり、そうなるとアメリカ人はあなたにとって未知のままであろう。ショックは徐々に消えていくかもしれないが、居心地が悪く、望郷の念に駆られることに変わりはない。」と述べられているので、この内容を適切にまとめればよい。

答案作成上のポイント

- A. Your own countrymen with long experience among Americans を訳せば解答になるので、特別な工夫は必要ではないだろう。
- B. ポイントは、①彼ら (= 同胞の移住者) のせい、②否定的な感情が強化される、③外国人の小さな共同体へと入って行く、④アメリカ人が理解できない、⑤ (a) 居心地が悪い + (b) 母国に帰りたいと思うの5点。①、④、⑤が danger の直接の内容なので、これは必須ポイント。これが欠落していたり、読み誤っていると採点対象外になる可能性が高い。②、③は④、⑤に至る「原因」なので、解答に含めるべきだが、欠落していた場合、答案としては物足りないが部分的な減点の対象にとどまるだろう。「理由」をたずねられているので、文末は「…から」とか「…ので」とすること。

5 文脈の把握

- ①「あなたは自分の文化を理解したようである。」
 ②「あなたはアメリカに対する第一印象が間違っていたことがわかったのである。」
 ③「あなたはもうアメリカを離れてもいい頃だ。」
 ④「いまや、あなたはアメリカに本当に到着したのである。」

第⑧段落はカルチャーショックの第4段階の状況に言及しており、〔エ〕にはそれを一言で表す1文が入る。第1～3段階では、アメリカで暮らすようになり、その表面的な魅力に引かれたり、否定的な感情を持ったり、順応していく状態であった。つまり、**いろいろなやり方でアメリカを意識していたのであるが**、それに対し、第4段階では、アメリカ人の特異性を特に意識することはなくなり、自分の文化を否定することはないが、アメリカ的なやり方が根づき、前途にも希望が持てるようになるとされている(第⑨段落第2～6文)。つまり、単に物理的な意味でアメリカに存在しているだけではなく、**精神的な意味でもアメリカに溶け込んだ**ということである。④の have actually arrived at America はそれを比喩的に表現しているので、正解は④である。

6 内容の把握

①○「20年ほど前、筆者は1年間アメリカに住んでいたが、みじめで国に帰りたと思った。」

第①段落第1文(My own experiment ... deep homesickness.)
及び3～4文(All I knew ... field of study.)の内容と一致する。

②×「今でも、カルチャーショックがどのようにして始まり、どのようにして終わるのかは
×誰にもわからない。」

第③段落第1文(The process of ... have been systematized.)に「今では、カルチャーショックの過程は、その4つの段階が順を追って生じるとされるほど予測しやすいものと認識されている」と述べられている。

③×「自分が滞在している国で話されている言葉を習得することは重要である。というのは、
×カルチャーショックは主に言葉を理解できないことに原因があるからである。」

第④段落第9文(Even if you ... way people behave.)で「たとえ現地の言葉を話しても、人々の振る舞い方がまったく理解できない」と述べられている。

④○「カルチャーショックの第2段階においては、自分が滞在している国とそこの人々に否定的な感情を持つかもしれない。」

第⑤段落第1～5文(The emotional response ... you to tears.)の内容と一致する。

⑤×「カルチャーショックの第3段階では、×文化の問題においては『正しい』と『間違っている』が重要だと感じられるかもしれない。」

カルチャーショックの第3段階について、第⑥段落第2文(Rather than listing ... in cultural matters.)では、「『…文化の問題においては『正しい』と『間違っている』は意味のある言葉ではないと気がつくのである」と述べられている。

⑥○「カルチャーショックの第3段階においては、自分が気に入らないことの多くは、自分の好きなことと何らかの関係があるということがわかる。」

第⑦段落第3文(Instead, you try ... pace and opportunity.)の内容と一致する。(→全訳▶4)

第1 段落

私自身の「カルチャーショック」の実験は、激しいホームシックを経験して、アメリカでの1年間の勉強から戻った時、実りのない終わりを告げた。それまで私はカルチャーショックについて耳にしたことがなかった。わかったのは、自分がみじめで国に帰りたいということだけだった。それは20年前のことであり、それ以来、カルチャーショックはれっきとした研究分野となった。現在では、新しい文化の中で長い期間滞在する普通の人なら誰でも、厄介な状態に陥るだろうと理解されている。

- | | |
|--|---|
| ☐ come to an end 「終わる」 | → 「私を知っているのは…だけだ」 |
| ☐ homesickness 「ホームシック」 | ☐ proper 「正規の」 |
| ☐ hear of ～ 「～について耳にする」 | ☐ an extended time 「長い期間 [時間]」 |
| ☐ all I know is ... 「私を知っているすべては…だ」 | ☐ in trouble 「厄介な状態で、苦境に陥って」 |

第2 段落

そもそも、どのように振る舞うかについての私たちの考え方は、人生の初期において形作られたものである。^{▶1} 私たちが自分たち自身の文化にだけ当てはまる基準を身に付けており、国境を越えると物事は別のやり方で行われるということを、説明してくれた人はいない。私たちは、物事を正しく行う方法を身に付けていると教えられたのである。その結果、自分たちが異国の地にやって来ると、他の人たちのやり方がまったく間違っているように見えるのである。

▶1 (第2文) that の用法 / and による接続

Nobody explained

S V

[that we were learning standards [that apply only to our own culture]],

O (名詞節を導く that ①) ↑ 関係代名詞の that

and [that (across the border) things were done differently].

O (名詞節を導く that ②)

・ and は explained の O になる2つの that 節をつないでいる。

- | | |
|---|--|
| ☐ in one's early years 「若い頃」 | ☐ consequently 「その結果」 |
| ☐ apply to ～ 「～に当てはまる」 | ☐ turn up 「現れる」 |
| ☐ do things right 「物事を正しく行う」 | ☐ simply 「まったく、非常に」 |

第3 段落

今では、カルチャーショックの過程は、その4つの段階が順を追って生じるとされるほど予測しやすいものと認識されている。第1は蜜月段階であり、これは、旅行するのは大好きだが、決して次に何が起ころうかわかるほど長くは1カ所に滞在しない人にとってはなじみ深いものである。蜜月段階では、新しい国とその人々は感じがよさそうに見える。自分の国よりも素晴らしいというわけだ。すべてがとて異なるっていて魅力的だし、人々は非常に親切だし、習慣は実に興味深い。

- ☐ recognize A as B「AをBとして認める、みなす」
☐ predictable「予測できる」

- ☐ systematize「～を体系化する；～を順序立てる」

第4段落

それから、バラは花盛りを終える。いまや人々は浅薄で利己的で、愚かに見え始める。物事の異なったやり方は、もはや興味深いとは思えず、ひたすらくたびれるだけである。あなたは常に疲れを感じ始める。カルチャーショックが始まったのである。あなたは途方に暮れる。第2段階であるこの反応は、これ以上ないと言っていいほど自然なことだ。この文化を吸収して育った人々に囲まれて、あなたは簡単な物事のやり方がわからないのである。たとえ現地の言葉を話すとしても、とてもではないが人々の振る舞い方は理解できない。▶2 自分の存在証明、つまり国へ戻れば自信に満ちて立派だった自己の一部を見失ってしまっているのである。

▶2 (最終文) 同格 / 副詞句の挿入

You have lost a part of your identity.

同格
that self (who (back at home) was confident and masterly).

↑
s
v
c

- ☐ shallow「表面的な、浅はかな」
☐ not ... any more「もはや…ない」
☐ set in「(好ましくないことが) 始まる」

- ☐ simply ... not「絶対に…ない」
☐ confident「自信にあふれた」
☐ masterly「巧みな、見事な」

第5段落

カルチャーショックに対する情緒的な反応は、極端なものになることがある。困惑、意気消沈、不安、そして憤りのすべてが、程度の差こそあれ入り込みかねない。身体を健康を損なうかもしれない。ちょっとしたことがひどく腹立たしく思える。侮辱されたと感じることで涙することになる。この時点で、多くの外国人は、孤立した外国人世界へ引きこもりたい誘惑に駆られる。▶3 アメリカ人の中で長く暮らした経験を持つ同じ国出身の人たちが、あなたが今感じているようにかつて彼らも感じたのだと安心させてくれるからだ。そうした人々は大きな慰めになり得るが、危険でもある。同胞の移住者のせいで、アメリカ人に関するあなたの否定的な感情が絶え間なく強くなるとしたら、あなたは外国人の小さな共同体へと入って行く可能性があり、そうなるアメリカ人はあなたにとって未知のままであろう。ショックは徐々に消えていくかもしれないが、居心地が悪く、望郷の念に駆られることに変わりはない。

▶3 (第7文) 形容詞句の並列 / 接続詞 as / 代動詞の do

Your own countrymen (with long experience) (among Americans) reassure you (that

s
↑
↑
v
O₁
O₂

they once felt [as you do now]).

「…するように」 = feel

reassure ~ that ... 「～に…と言って安心させる」

- ☐ resentment「憤り；敵意」
☐ to varying degree「程度の差こそあれ、多かれ」

- 少なかれ to ~ degree は「～の程度」という意味。
☐ annoying「いらいらさせる」

- ☐ insult 「侮辱」
- ☐ reduce A to B 「A を B の状態にする」
- ☐ be tempted to do 「…する気にさせられる、…したくなる」
- ☐ retreat to ~ 「～に退く」

- ☐ detached 「分離した、孤立した」
- ☐ countryman 「同国人、同郷人」
- ☐ emigrant 「(自国を出て行く) 移住者」
- ☐ move into ~ 「～に入る、～に移る」

第6段落

もっとよい解決法とは第3段階へと移ることであり、その段階では、ありのままのアメリカに自分が順応し始めるだろう。アメリカ人の「間違っている」ことを列挙するのではなく、文化の問題においては「正しい」と「間違っている」は意味のある言葉ではないと気がつくのである。逆に、**▶4 おそらく自分が好まないことの多くは自分が本当に好きなことと結び付いている**（例えば、家族の絆の弱さと自由、速いペースと機会）と悟って、アメリカ人を強く動かしているものを理解しようとする。

▶4（最終文）関係代名詞 what / 分詞構文 / 関係代名詞の省略

... you try to understand [what motivates Americans], (perhaps realizing [that many of
S V O 関係代名詞 (= the thing that) 分詞構文 「…だと悟って」 S'
the things [(that) you do not like] are related to the things [(that) you do like])) ...
V'
be related to ~ 「～と関係している、結び付いている」

- ☐ move on to ~ 「～に進む」
- ☐ adjust to ~ 「～に順応する、慣れる」

- ☐ remind oneself that ... 「自分に…を気づかせる」
→ 「…ということに気づく」

第7段落

偏見のない心を持ち続け、アメリカについて知ることに時間をかけ、さらにアメリカ人と交わろうとすると、満足のゆく進展が得られるだろう。**▶5 この段階で大事なものは、家に閉じこもって落ち込んでいないで、外へ出てやりたいことを見つけることである。**そして現地の言語を学習し続けることである。

▶5（第2文）形式主語 It / not A but B / 関係代名詞の省略

It is important at this stage not to stay at home and be depressed
形式主語 not A but B A
(真主語は not to stay 以下すべて)
but to get out and find things [(that) you like to do].
B

- ☐ mix with ~ 「～と付き合う」
- ☐ make progress 「進展する、進歩する」

- ☐ be depressed 「憂うつになる」
- ☐ keep on doing 「…し続ける」

第8 段落

(アメリカに)到着してから半年から1年以内に(さらに長くかかる人もいるが)、第4段階へと進んでいくはずである。この時点では、もはやアメリカ人の特異性について考えることはまったくない。あなたは彼らを個人として見るのである。居心地よく感じ始めており、物事のやり方もわかっているのである。自分の昔の文化を否定したのではなく、アメリカ的なやり方が根づいたのだ。この地での自分の未来に希望を感じるようになる。いまや、あなたはアメリカに本当に到着したのである。

□ **should**「(期待・可能性・推量)…するはずである、きつと…するだろう」

□ **peculiarity**「特質、特異性」

□ **settle upon (on)** ～「～にこびりつく；～に定着する」

読解 PLUS+ ONE 出題ポイントを押さえよう

字数制限なしの内容説明問題 — 書いてよいことと悪いことがあることを知ろう

今回は採点者の立場に立って内容説明問題の採点ポイントについてお話します。内容説明問題といっても、制限字数が指示されている問題と、制限字数のない問題がありますが、今回は後者のパターンについて考えてみます。重要なのは、解答のポイントとはならない事柄が解答に含まれている場合にどのように処理されるかということです。一言で言うと、本文に述べられていないことが解答に含まれていたり、本文に述べられていることであっても、その記述があるために解答の論旨が異なったものになる場合は大きな減点対象になり得るということです。

④ B. を取り上げて、この点について考えてみます。

④ 下線部(2)について下の問いに答えなさい。

B. Such people について、筆者は a danger と述べているが、その理由を日本語で具体的に説明しなさい。

解答 彼らのせいでアメリカ人に対する否定的な感情が強化されると、外国人の小さな共同体の中に入って行き、相変わらずアメリカ人がわからず、居心地が悪いと感じ続け、ホームシックから抜け出せないから。

「解説」にもあるように、解答の根拠になる箇所は第⑤段落第9～10文 (If your fellow ... uncomfortable and homesick.) です。最低限必要な情報は、**答案作成上のポイント**でも述べた①、④、⑤なので、「彼ら (= 同胞の移住者) がいるおかげで、アメリカ人のことがわからないままになり、居心地が悪くホームシックから抜け出せないから」ということになります。しかし、この情報だけでは、同胞の移住者がいることが、なぜアメリカ人のことがわからないままになることにつながるのか、という情報が欠けています。その部分をつなぐ情報が、「同胞の移住者がいることがアメリカ人に対する否定的な感情を強化し、外国人の小さな共同体の中に閉じこめることになるから」ということになります。この情報をすべて盛り込んだものが上に挙げた**解答**です。

では、①～⑤以外の情報が付け加わった答案例を見てみましょう。

答案例1

彼らのせいでアメリカ人に対する否定的な感情が強化されると、外国人の小さな共同体の中に入っていくことになり、その結果、ショックは徐々に消えていくかもしれないが相変わらずアメリカ人がわからず、居心地が悪いと感じ続け、ホームシックから抜け出せないから。

これは、第⑤段落第10文にある **The shock may wear off** という情報を入れた解答になっています。下線部分は、解答には不要な情報ではありますが、それが含まれていたところで、全体の論旨が大きく変わるわけではありません。したがって、採点上は減点の対象にはなりません。

答案例2

同胞の移住者はカルチャーショックの第2段階にあるあなたを大いに安心させてくれ、そのことによって、アメリカ人に対するあなたの否定的な感情が強化されることになり、あなたは外国人の小さな共同体の中に入って行き、相変わらずアメリカ人がわからず、居心地が悪いと感じ続け、ホームシックから抜け出せないから。

下線部分は、「同胞の移住者のせいでアメリカ人に対する否定的な感情が強化される」という箇所を、第7文 (Your own countrymen ... as you do now.) を根拠にしてより詳しく説明しているだけで、不必要ではありますが、全体の論旨を大きく変えてはいません。したがって、減点の対象にはなりません。

答案例3

あなたは、同胞の移住者もかつて自分が今感じているように感じたのだということがわかり、とてもショックを受け、それによってアメリカ人に対する否定的な感情を持つようになり、居心地が悪いと感じ、ホームシックから抜け出せなくなるから。

この解答の下線部分は、本文を断片的に解釈し、誤った因果関係でつなぐことによって、全体の論旨を歪めています。したがって、大きく減点の対象になります。

答案例4

同胞の移住者は、あなたにアメリカ人の欠点を吹き込み、それによってあなたはアメリカ人に対して否定的な感情を持つようになり、居心地が悪いと感じ、ホームシックから抜け出せなくなるから。

この解答の下線部分は、本文に述べられていない情報を勝手に想像によって盛り込み、そのために全体の論旨を大きく歪めています。したがって、これも減点の対象になります。

▶ 今回のポイント

字数制限のない内容説明問題であっても解答する上での必須ポイントは何かということをよく考え、情報の取捨選択を意識しよう。

5 動物の幸福とは

問題編 p.16

動物にとっての幸せとは何だろうか。その解明のためには動物が遭遇し得る経験についての動物の心の研究が必要である。

● 解答 正しい答えをチェック

- 1 動物保護に関心があるので、彼女はできるだけ危害を加えないでそのネズミを除去したいと思い、2つの選択肢について考える。
- 2 ア ② (イ) ②
- 3 ②
- 4 ③
- 5 捕獲されて動物園にいるカンガルーが、野生で出会うような苦難を経験せず快適に暮らしているという状況。(49字)
- 6 (A) ③ (B) ②
- 7 ① × ② × ③ ○ ④ ×

● 解説 考え方をチェック

1 文構造の把握

図解

(Concerned about animal welfare), she wants to remove the mouse as harmlessly
 分詞構文 S V₁ O₁
 as possible and considers two options.
 V₂ O₂

語句 ・ be concerned about 「～に関心がある」 ・ animal welfare 「動物保護、動物の幸福」
 ・ remove 「～を除去する」 ・ as ～ as possible 「できるだけ～」 ・ harmlessly 「無害に」
 ・ consider 「～をよく考える」 ・ option 「選択肢」

● Concerned about ～ は (Being) concerned about ～ の Being が省略された分詞構文。「～なので」、「～で」などと訳す。

● and は wants と considers を接続している。「～したいと思い、～を考える」

採点のポイント

配点 11点

- ① Concerned about animal welfare, ② she wants to remove the mouse
 (4点) (2点)
 ③ as harmlessly as possible ④ and considers two options.
 (3点) (2点)

① Concerned about animal welfare 「動物保護に関心があるので」(4点)

➡ 構文理解

分詞構文であることがとらえられていない場合は－4点とし、他に誤りがあってもこれ以上の減点はしない。

(×)「～に関心があること」, 「～に関心があるo」

➡ 分詞構文の訳(2点)

(○)「～に関心があるので」, 「～に関心があるあり」

(×)「～に関心がある時」, 「～に関心があるあれば」, 「～に関心があるが」

主文の she wants ... とのつながりが不自然。

(×)「～に関心があるったので」過去時制で訳している。

➡ concerned about(1点)

(○)「～に関心がある」, 「～を気にかける」(×)「～を心配する」

➡ animal welfare(1点)

(○)「動物保護」, 「動物の幸福」, 「動物の福祉」, 「動物愛護」(×)「動物の繁栄」

② she wants to remove the mouse 「彼女はそのネズミを除去したいと思う」(2点)

➡ wants to remove(1点)

(○)「除去したいと思う」, 「取り除きたいと思う」, 「移動させたいと思う」

(×)「殺害したいと思う」, 「持ち去りしたいと思う」

➡ the mouse(1点)

(○)「そのネズミ」, 「ネズミ」

③ as harmlessly as possible 「できるだけ危害を加えないで」(3点)

➡ 構文理解

この部分を remove にかけて訳していないものは－3点とし、他に誤りがあってもこれ以上の減点はしない。

(×)「できるだけ無害なネズミ」 the mouse を修飾するように訳している。

➡ as ~ as possible(2点)

(×)「できるだけ～」, 「できる限り～」 以外の訳と、訳出していないもの。

➡ harmlessly(1点)

(○)「危害を加えないで」, 「危害を与えることなしに」, 「害がないように」

(×)「損害を与えないで」, 「悪意を持たないで」

④ and considers two options 「2つの選択肢について考える」(2点)

➡ 構文理解

「2つの選択肢を考えたいと思う」のように訳しており、and が wants と considers をつないでいることがとらえられていない場合は－2点とし、他に誤りがあってもこれ以上の減点はしない。

➡ **considers** (1点)

(○)「考える」,「考慮する」,「検討する」 (×)「みなす」,「思いやる」

➡ **two options** (1点)

(○)「2つの選択肢」 (×)「2つ選択すること」,「2つのオプション」

2 文脈の把握

㌦ ①「したがって」 ②「あるいは」 ③「すなわち」 ④「要するに」

空所を含む英文の直前の英文 (This option ... painless death.) は「この選択肢 (= ネズミを即死させるわな) はほとんど苦痛を伴わないで (ネズミを) 殺すことができるとレイチェルは考えている。」という意味。また、空所の直後 (she can use ... release her) では a 'humane' trap (「人道にかなった」わな) について、それは、チーズでネズミを容器におびき寄せ、その後、ネズミを原っぱに連れて行って放してやることのできるわなであると述べられている。要するに、空所を挟んで、ネズミを除去するための対照的な2つのわなについて述べられているのである。したがって、空所に②を入れると自然な流れになる。(→全訳▶1)

㌦ ①「～を失う」 ②「～を取り戻す」 ③「～を提供する」 ④「～を浪費する」

空所を含む英文 (In the wild ... more fully.) は「野生にいれば、彼は自身に本来備わった能力、つまり、感覚能力や筋力や『機知』をより十分に発揮する機会を (イ) だろう。」という意味。ここで述べられている「彼」とは、捕らえられて動物園にいるカンガルーのことであり、この1文は、その「彼」が仮に野生に戻されたらどうなるかを述べた英文である。この想定のもとでの「彼」の状況については、さらに直後の英文 (He would reclaim ... a kangaroo.) でも言及されており、そこでは「彼は種に特有な高度な機能を取り戻し、より生き生きとカンガルー独自の生活を送ることだろう。」と述べられている。したがって、空所に②を入れると、「彼は動物園で失われた本来の自分を取り戻さだろうという一貫した流れになる。

3 文脈の把握

If not は、「もしそうでないなら」という意味であるが、既出の内容の反復を避けるために〈主語 + 動詞〉が省略されている。If not に続く部分 (then painlessly ... no harm) は「苦痛を与えることなくネズミを殺したとしても少しも危害を加えることにはならないだろう」という意味。また、直前の英文中の Rachel wonders whether painless death harms a sentient creature は「レイチェルは、苦痛を伴わない死が感覚を持った動物を痛めつけることになるのだろうかと思う」という意味。以上より、If not に直前の whether 節の内容が省略されており、If not = If painless death does **not** harm a sentient creature (苦痛を伴わない死が感覚を持った動物に害を与えるのでなければ) と考えれば If not を含む1文は、苦痛のない死がネズミに害を与えないならば、苦痛なしにネズミを殺しても危害を与えたことにはならない、という内容になり、文意が通る。したがって②が正解。

4 文脈の把握

下線部(3)を含む英文は「その場合には、『人道にかなった』わなには死という危害を回避するという利点があるだろう。」という意味。したがって、that case (その場合) の that が直前文の death harms a mouse (死がネズミに危害を加える)を受けていると考えれば、下線部を含む英文は、**死がネズミに危害を加えるのであれば、死を回避できる「人道にかなった」わなには利点がある**、という内容になり、文意が通る。したがって、③が正解。

5 内容の把握

下線部(4) His situation (彼の状況) の His は第②段落冒頭の A kangaroo を指す。そこで、このカンガルーの状況を第②段落の冒頭からたどってみると、次のようになる。まず、このカンガルーは捕らえられて何年間も動物園で快適に暮らしてきた(第1文)が、捕らえられた時の悲しみは消え去り(第2文)、ほどほどの望みを持つようになっている(第4文)。彼には野生にいと出会うような苦難はもはや存在しない(第5文)。以上より、下線部の内容は、①捕獲されて動物園で暮らしているカンガルー、②野生で出会うような苦難を経験しない、③快適に暮らしている、という3点から成っている。この3点を制限字数以内でまとめればよい。

採点のポイント

配点 10点

- ① 捕獲されて動物園で暮らしているカンガルー (3点)
- ② 野生で出会うような苦難を経験しない (3点)
- ③ 快適に暮らしている (4点)

要点理解

①と③が必須ポイントなので、このどちらか一方でも欠落しているか内容を読み誤っている場合には採点対象外、つまり0点とする。また、不要な情報のために、全体の趣旨を損ねているものも0点とする。

(×)「捕獲され、動物園で希望を失っているカンガルーが不自由な暮らしをしていること。」

下線部が③の内容を読み誤っていて、全体の趣旨を損ねることになっているので採点対象外。

(×)「野生の困難なしに動物園で快適な生活を送っているカンガルーが野生に戻されるべきかどうかという状況。」①～③のポイントは含むが、「野生に戻されるべきかどうか」という不要な情報のために全体の趣旨が損なわれている。

① 捕獲されて動物園で暮らしているカンガルー (3点)

「動物園にいるカンガルー」という趣旨のことが書いてあれば補足情報を加えていても、本文の内容と矛盾しない限り可。

(○)「動物園で飼育されているカンガルー」

(○)「動物園で愛する仲間と引き離された悲しみを忘れて暮らしているカンガルー」

(○)「動物園で、動物園から逃げ出す望みを持たずに飼育されているカンガルー」

② 野生で出会うような苦難を経験しない (3点)

「野生での苦難を味わうことがない」という趣旨のことが書いてあれば可。

- (○) 「天候の変化や病気の恐れなく」野生で経験する苦難 (changing weather, the threat of disease, predators) のどれかを具体的に挙げていても可。

③ 快適に暮らしている (4点)

「(動物園で) 快適に暮らしている」ということがわかる記述になっていれば可。

- (○) 「欲求を満たされて暮らしている」、「不満を持たずに暮らしている」、「満足している」、「簡単に充足できる望みを持って暮らしている」

- (×) 「(動物園で) 暮らしている」「快適に」に相当する表現がないが、③の趣旨には反していないので探点対象外にはせず、-4点にとどめる。

→文末表現・字数制限 (全体から減点)

- (×) 文末が「～(ということ)」、「～という状況」以外のもの (-1点)

- (×) 39字以下、51字以上のもの (-3点)

6 語句の意味の把握

- (A) ①「～に本質がある」 ②「～から成り立っている」

- ③「～を構成する」 ④「～の埋め合わせをする」

A constitute Bは「A(部分)がB(全体)を構成する」という意味。また、A make up Bも「A(部分)がB(全体)を構成する」という意味。したがって、③が正解。A consist of Bは「A(全体)がB(部分)から成り立っている」という意味なので②は不可。

- (B) ①「代わりに」 ②「同様に」 ③「逆に」 ④「それにもかかわらず」

Equivalentlyは「同様に」という意味。したがって②が正解。

7 内容の把握

- ①×「レイチェルが考える選択肢の1つは食器棚の中のネズミを即死させるわなを片づけることである。」

レイチェルの考えた選択肢は第①段落第3文 (She can leave ... backbreaking metal.)にある。死に至らせるわなを放置しておくか、第①段落第5文 (Alternatively she can ... release her.)にある「人道にかなった」わなを使うかのどちらかである。

- ②×「『人道にかなった』わなの問題点は、ネズミを野原に連れて行く間に当のネズミが死ぬ可能性があるということである。」

第①段落第10文 (During that time ... and frustration.)に、「その間、また原っぱへネズミを運んで行く間、ネズミが恐怖や不安や欲求不満といった不快な思いを経験するのは確かなことだろう」と述べられている。

- ③○「動物であっても、将来の希望がくじかれると、容易に充足できる適度な願望を持つようになる。」

第②段落第4文 (On the whole ... easily satisfied.)の内容に一致する。

- ④×「人間も動物も幸福の感じ方にはそれほど差はないので、動物に特有な心を研究してもあまり意味はない。」

第④段落最終文 (Before addressing ... component of well-being.) に「私たちは動物が遭遇し得る類の経験について知るために、動物の心を研究する必要がある」と述べられている。

全訳 英文内容をチェック

第1段落

ちょうど新しい家に引っ越した時に、レイチェルは食器棚の中に1匹のネズミを見つける。動物保護に関心があるので、彼女はできるだけ危害を加えないでそのネズミを除去したいと思い、2つの選択肢について考える。彼女はチーズが入った死に至らせるわなをそのまま置いておくことができる。この製品は、ひどく重い金属の突然の一撃で確実にネズミを即死させることができるものである。この選択肢はほとんど苦痛を伴わないで殺すことができるとレイチェルは考えている。あるいは、^{▶1} 彼女は「人道にかなった」わなを使用することもできる。それは、チーズが入っていて、チーズが動くとふたが閉まる容器へとネズミをおびき寄せるものである。そのあとで、彼女は容器に入っているネズミを原っぱに連れて行き、ネズミを放してやることことができる。これらの選択肢についてよく考えながら、レイチェルは、苦痛を伴わない死が感覚を持った動物を痛めつけることになるのだろうかと思う。もしそうでないなら、苦痛を与えることなくネズミを殺したとしても少しも危害を加えることにはならないだろう。しかし、^{▶2} なぜ「人道にかなった」わなが考慮に値すると自分は信じているのだろうか、とレイチェルは考える。というも、家の主人が仕事で家を離れていたり、夜眠っていたりする間、捕らえられたネズミは何時間もわなの中にいることになるだろうからだ。その間、また原っぱへネズミを運んで行く間、ネズミが恐怖や不安や欲求不満といった不快な思いを経験するのは確かなことだろう。^{▶3} 原っぱでわなから出された時には、ネズミは家族や他の仲間のネズミたちと引き離されていることにも悲しみを味わうかもしれない (ネズミの感情の範囲に悲しみというものが存在すればの話であるが)。「人道にかなった」わなは経験することで感じる危害をもたらずであろうから、死がネズミに危害を加える場合を除いて、それが一瞬のうちにネズミを殺すわなよりもひどいものであることは明らかである。その場合には、「人道にかなった」わなには死という危害を回避するという利点があるだろう。

▶1 (第5文) 分詞構文の挿入

... she can use a 'humane' trap [which, (loaded with cheese), entices a mouse
 S V O S' 受動態の分詞構文 V' O'
 into a container (that shuts (when the cheese is disturbed))] ...
 S' V''

▶2 (第8文) 中間的な話法

... why, she muses, does she believe the 'humane' trap is worth considering?

「…だと考える」

「…するだけの価値がある」

・本来は she muses why she believes ... であるが、伝達動詞 (muses) が伝達文 (why ... considering?) の中に挿入されており、伝達文が直接話法の語順 (does she believe) になっている中間的な話法。

▶3 (第11文) 副詞節における〈S + be 動詞〉の省略 / 受動態の動名詞

When (it is) released in the field, the mouse may also feel sad at

→①

S

V

C

being separated from family or other social group members ...

前置詞 (at) の目的語になっている受動態の動名詞

① 副詞節の中で〈S + be 動詞〉が省略されている。省略されている it は主節の主語 (the mouse) と同じ。

- ☐ move into ~ 「～に引っ越す」
- ☐ cupboard 「食器棚」
- ☐ lethal 「致命的な、致死性の」
- ☐ load A with B 「A に B を載せる」
- ☐ be relied upon to do 「確実に…できる」
- ☐ instantaneously 「即座に」
- ☐ crack 「激しい一撃」
- ☐ figure 「…だと考える」
- ☐ humane 「人道にかなった」
- ☐ release 「～を解放する」 release her の her はネズミを指している。

- ☐ reflect on ~ 「～を熟考する」
- ☐ after all 「というも…だからだ; そもそも; 結局」
- ☐ capture 「～を捕らえる」
- ☐ transport 「輸送」
- ☐ no doubt 「確かに」
- ☐ frustration 「欲求不満; 挫折」
- ☐ separate A from B 「A を B から引き離す」
- ☐ social 「社交の; 社会の」
- ☐ experiential 「経験から割り出した」

第2段落

1 頭のカンガルーが動物園で捕らわれた状態で何年間も快適に暮らしている。(捕獲された時に) 愛する仲間たちと引き離されたことに対するこのカンガルーの悲しみはほとんど消え去ってしまっている。彼はもはや動物園の敷地から逃げ出そうという望みは持っていない。だいたいのところ、期待がくじかれた結果、すぐに充足できる(食べ物や快適さや時折の刺激などに対する)ほどほどの望みを持つに至ったのである。▶4 もし野生に戻されたら、このカンガルーははるかに大きな自由を持つことになるだろうが、全般的に見ると、気候の変化や病気の恐れ(周りに獣医もいないのだ)、それに肉食動物のせいで、はるかに多くの苦難に遭遇することにもなるだろう。彼の状況は、動物にとっての自由の価値に関する問題を提起する。自由の制限、とりわけ厳しい制限は、動物(さらに人間)に悲しみと苦しみをもたらすことによってしばしば危害を加える。しかし、このカンガルーが捕らわれている状態は、今のところその点では彼を害するものではない。もし、仮にこのカンガルーが野生に戻されたとすれば、経験することで感じる幸福や生活の質は低下するだろう(そして、ことによると平均寿命も短くなるかもしれない)ということまでも想定してみよう。▶5 彼はそれでもなおよい恵まれることになるのだろうか。野生にいれば、彼は自身に本来備わった能力、つまり、感覚能力や筋力や「機知」をより十分に発揮する機会を取り戻すだろう。彼は種に特有な高度な機能を取り戻し、より生き生きとカンガルー独自の生活を送ることだろう。経験することで感じる幸福に与える影響は別として、こうしたことは重要なことなのだろうか。

▶4 (第5文) 副詞節における〈S + be 動詞〉の省略 / 比較対象の省略 / 共通部分の省略

If (he were) returned to the wild, this kangaroo would have much greater liberty

⇒①

仮定法過去の帰結節

⇒②

but, on the whole, (he would have) much more hardship as well ...

⇒③

⇒②

① 仮定法過去のif節(副詞節)の中で〈S + be 動詞〉が省略されている。

② 比較対象に当たるthan he has in the zooが文脈から明らかなので省略されている。

③ butで接続されている共通部分の反復を避けるためにS + Vが省略されている。

▶5 (第9文) if節の省略された仮定法 / 比較対象の省略

Might he be better off anyway (than he is in the zoo)?

well off「恵まれて」の比較級 比較対象の省略

・ 仮定法過去の帰結節。直前文のif節(if he returned to the wild)が条件節であると考えればよい。

- ☐ captivity「捕らわれの状態」
- ☐ distress「悲しみ；苦悩」
- ☐ loved one「愛する者」
- ☐ pass「(出来事・状態などが) 消え去る」
- ☐ ground「敷地」
- ☐ on the whole「だいたいのところ、概して」
- ☐ modest「ほどよい；控えめな」
- ☐ occasional「時折の」
- ☐ stimulation「刺激」
- ☐ ~ and the like「～など」
- ☐ veterinarian「獣医」
- ☐ predator「肉食動物、捕食動物」
- ☐ provoke「～を引き起こす」
- ☐ restriction「制限」

- ☐ cause O₁O₂「O₁にO₂をもたらす」
- ☐ suffering「苦しみ」
- ☐ in ~ way「～の点で」
- ☐ assume that ...「…を想定する」
- ☐ well-being「幸福」
- ☐ life expectancy「平均寿命」
- ☐ exercise「～(能力など)を発揮する」
- ☐ natural「生まれつきの」
- ☐ sensory ability「感覚能力」
- ☐ wit「機知」
- ☐ species-typical「種に特有な」
- ☐ robustly「元気に」
- ☐ apart from ~「～は別として」
- ☐ effect on ~「～への影響」

第3 段落

一般に、動物にとって何が危害であり、何が恩恵なのだろうか。何が主に動物のためになることなのだろうか。同様に、何が動物の幸せの本質なのだろうか。これらの問題を扱う前に、私たちは動物が遭遇し得る類の経験について知るために、動物の心を研究する必要がある。というのは、経験することで感じる幸福が幸福の主な構成要素だからである。

- ☐ in general「一般に」
- ☐ address「～(問題など)を扱う」

- ☐ sort「種類」
- ☐ component「構成要素」

Unit 2

6 心に傷を残すような体験の癒し方

問題編 p.20

心に傷を残すような体験を治療するには、他人に話すより、その体験について書く方が有効である。

● 解答 ◀ 正しい答えをチェック

- ① the break-up of a long-term relationship / the death of a loved one / getting fired
- ② ア ① (イ) ① (ウ) ③
- ③ 参加者たちは不愉快な気持ちになる体験を共有することはよいことだと思ったが、自分たちがどれほどうまく対処しているかということについて、そのことが生み出す違いという観点から見ると、彼らは普通の1日についておしゃべりをしていた方がよかったのである。
- ④ 心に傷を残すような体験について話してもほとんど効果がないのに、それについて書くことがなぜ著しい効果を生み出すのかということ。
- ⑤ ③
- ⑥ ① × ② ○ ③ × ④ ○

● 解説 ◀ 考え方をチェック

1 内容の把握

下線部(1)を含む英文のコロン(;)に注目。コロンのには具体的な例示の前に置かれるという機能があるので、その観点から下線部を含む英文を見ると、unpleasant and traumatic events (不快で心に傷を残すような出来事)の具体例がコロンの後ろに述べられていることがわかる。具体的には、the break-up of a long-term relationship (長期にわたる関係の破綻)、the death of a loved one (愛する人の死)、getting fired (解雇されること)である。続く on a really bad day, all three とは、「本当にひどい日には、その3つのすべてが一度に生じる」という意味になるので、three は上に挙げた3つの具体例であるとわかる。

2 文脈の把握

ア ①「ささいな」 ②「幸福な」 ③「わくわくする」 ④「非現実的な」

空所を含む英文の直前文(A group of... from their past.)では「参加者のグループは、自分の過去から不愉快な体験を選ぶように求められた。」と述べられており、空所を含む英文中の participants were asked 以下では「参加者たちは、電車に乗り遅れたり、駐車場を見つけられなかったりといった(ア)ことは避けて、その代わりに『人生で最も不愉快で心が乱れる出来事、つまり、今なお覚えていて、まだ話す必要のある出来事』について考える

ように求められた」と述べられている。不愉快な出来事の中でも「人生で最も不愉快で心が乱れる出来事」ではなく、「電車に乗り遅れたり、駐車場を見つけられなかったり」といった程度のことを表す言葉としては、①の trivial (ささいな) が最も自然である。(→全訳▶1)

(イ) ①「平凡な」 ②「空想的な」 ③「特別な」 ④「衝撃的な」

a far more (イ) topic (はるかに(イ)話題)の直後のダッシュ(一)に注目。ダッシュは直前に述べたことを言い直したりする場合に用いられることがあるので、a far more (イ) topic が a typical day in their life (人生の普通の1日)で言い直されていると考えられる。したがって、空所に①を入れると文意が通る。

(ウ) ①「退屈な」 ②「難しい」 ③「違った」 ④「こっけいな」

空所を含む英文は「しかし、さまざまなアンケートから、話は非常に(ウ)ものであることがわかった。」という意味。文頭の However に注目すると、この文は直前の文 (Participants who ... had been helpful.) から「逆接」でつながっていることがわかる。直前文は「自分たちの心に傷を残すような出来事について話すことに時間を費やした参加者たちは、おしゃべりは役に立ったと考えていた。」という意味。また、直後の文 (In reality ... impact at all.) は、「実際には、おしゃべりはまったく重大な影響を与えるものではなかった。」という意味なので、空所に③を入れると、「おしゃべりは役に立ったと考えられていた」→「しかしそうではなかった」→「おしゃべりは意味がなかった」となり、自然な流れになる。

3 文構造の把握

図解

Participants thought [that it was good to share their negative emotional experiences], but in terms of the difference ((that) it made on [how well they were coping]), they might just as well have been chatting about a typical day.

S V O

↑
関係代名詞の省略
= to share ... emotional experiences

語句 ・ negative 「不愉快な；よくない」 ・ in terms of ～ 「～の観点から」 ・ make a difference 「違いを生じる、重要である」 ・ cope 「対処する」 ・ might [may] (just) as well do (as ～) 「(～するぐらいなら) …する方がよい；(～するのは) …するのと同じだ」 ・ typical 「普通の；典型的な」 ・ chat about ～ 「～についておしゃべりをする」

● Participants(S) + thought(V) + that...(O)の文型。that節はit(形式主語)～to do(真主語)の構文。share their negative emotional experiencesは「不愉快な気持ちになる体験を共有する」の意味。

● the difference it madeは、the differenceとitの間に関係代名詞that〔which〕が省略されていて、「それが生み出す違い」という意味。itはto share their negative emotional experiencesを受けている。on～は「～について」という意味で、名詞節のhow well they

were coping (自分たちがどれほどうまく対処しているかということ) が '~' に当たる。

- might just as well have been chatting は might (just) as well do (…する方がよい) の do が have been chatting と完了進行形になったもので、「おしゃべりをしていた方がよかった」という意味になる。

4 内容の把握

下線部(3)を含む英文は「この結果(The results)は心理学者たちにちょっとした謎を残した」という意味。第⑤段落第1～2文(In several studies ... self-esteem and happiness.)より、The results とは、実験の参加者たちが、心に傷を残すような出来事についての考えや感想を日記に書いた(第1文)結果、心理的・身体的健康が著しく上向きになった(第2文)ことだとわかる。したがって、ポイントはこのような「結果」についての「謎」がどのようなものなのかということであるが、第⑤段落最終文(Why would talking ... such significant benefits?)を見ると、Why ...? という「謎」を問う疑問文になっていて、「心に傷を残すような体験について話すことがほとんど何の効果もなかったのに、その体験について書くことがなぜそれほど著しい効用を生み出すのだろうか。」と述べられているので、この内容をまとめればよい。

答案作成上のポイント

解答のポイントは、①心に傷を残すような体験、②①について話してもあまり効果がない、③①について書くことには効果がある、④なぜ効果があるのか、の4点。①、③は The results から直接導き出されることであり、④は mystery を説明するものなので、このうちの1つでも欠落していたり、間違えていると採点対象外になり得る。②は書くこととの比較で解答に含める必要はあるが、なくても全体の論旨に変更はないので部分減点にとどまる。なお、mystery (謎)の内容を問われているので、答えは「なぜ〔どうして〕…なのかということ」のようにまとめること。

5 文脈の把握

- (a) 「それとは対照的に、書くことは、人々がすでに起こったことを理解し、解決を目指して努力するのに役立つ話の筋と構成を作ることを促す。」
- (b) 「話すことは、いくぶん体系化されておらず、まとまりがなく、無秩序でさえあることが多い。」
- (c) 「要するに、話すことによって混乱しているという感覚が増大することがあるのに対して、書くことはもっと体系的で、解決に基づいた取り組み方を提供するのである。」

(a)は、書くことの効用について述べているが、In contrast ((それと)対照的に)に注目すると、この英文は直前文に対して対照的な内容になっていると判断できる。(b)は、話すことについて、あまり効果的ではないという点を指摘している。つまり、(a)と(b)は対照的な内容になっているので、(b)→(a)が自然な流れになる。(c)は In short (要するに) というディスコースマーカーで始まり、話すことのマイナス面と書くことのプラス面に言及され

ている。つまり、(b)→(a)の流れを要約する内容になっているので、(c)が一番後ろに置かれる。
以上より、③が正解。

6 内容の把握

- ①×「一般に、自分が出会った心が乱れるような体験を他の人たちと共有することは、不愉快な感情を取り去るのに役立つと言われているが、×これに疑いを持っている精神療法医は多い。」

第①段落第2文 (Both common sense ... pain with others.) で「常識と多くの種類の精神療法がともに示すところでは、最もよい方法は自分の痛みを他の人たちと分かち合うことである」と述べられている。

- ②○「ベルギーの研究者たちが行った実験に参加した人たちは、さまざまなアンケートに答えるために2度実験室に戻ってきた。」

第②段落最終文 (After one week ... their emotional well-being.) に After one week and again after two months の2回とあるのに一致する。

- ③×「自分の不愉快な感情を表さないことは、自分の心に傷を残すような出来事について誰か他の人に話すことより、×はるかによいことである。」

第④段落第1～2文 (So, if talking ... just as bad.) で、不愉快な体験について人に話すことは時間の無駄であるとした上で、「好ましくない思考を押さえつけようとしてもよくないことに変わりはない」と述べられている。

- ④○「自分が出会った悲惨な体験についての自分の考えや気持ちを日記に書くことは『筆記表出』と呼ばれている。」

第④段落最終文 (Instead, one option involves 'expressive writing'.) と第⑥段落第1文 (In several studies ... and professional lives.) の内容に一致する。

全訳 英文内容をチェック

第①段落

私たちは誰でも、生きている間に不快で心に傷を残すような出来事を体験するであろう。ことによると、それは長期にわたる関係の破綻であったり、愛する人の死であったり、解雇されるということであるが、本当にひどい日には、その3つのすべてということもある。常識と多くの種類の精神療法がともに示すところでは、最もよい方法は自分の痛みを他の人たちと分かち合うことである。この方法、つまり「問題は分かち合えば軽くなる」という方法をとる人たちは、感情を表すことは、好ましくない感情を解放して、前に進むことに役立つと考えている。これは名案であり、強烈に直感に訴えるものがある案である。実際、調査が示すところでは、一般の人たちの90パーセントは心に傷を残すような体験について誰か他の人に話すことが、痛みを和らげるのに役立つと考えている。しかし、これは本当に正しいのであろうか。

- ☐ break-up 「(人間関係の) 決裂, 破綻」
- ☐ long-term 「長期にわたる」
- ☐ fire 「～を解雇する」
- ☐ common sense 「常識」

- ☐ share A with B 「A を B と共有する」
- ☐ approach 「取り組み, 接近方法」
- ☐ lessen 「～を少なくする」
- ☐ tremendous 「(大きさ・量・強度が) 途方もな

く大きい」

☐ intuitive「直感の」

☐ the public「一般の人たち、大衆」

☐ ease「～（苦痛・不安など）を和らげる」

☐ the case「真相」

第②段落

それを調べるために、ベルギーの研究者たちがある重要な調査を行った。参加者のグループは、自分の過去から不愉快な体験を選ぶように求められた。▶¹ 調査をできるだけ現実的なものにするために、参加者たちは、電車に乗り遅れたり、駐車場を見つけられなかったりといったささいなことは避けて、その代わりに「人生で最も不愉快で心が乱れる出来事、つまり、今なお考えていて、まだ話す必要のある出来事」について考えるように求められた。死から離婚、病気から虐待まで、問題は深刻なものだった。その後、参加者の1つのグループは、実験の協力者とその出来事について長くおしゃべりをするよう求められ、一方、第2グループは、人生の普通の1日というはるかにありふれた話題についておしゃべりをするように促された。1週間後、そしてその後再び2カ月後に全員が実験室に戻ってきて、自分たちの情緒面の満足を測るさまざまなアンケートに答えた。

▶¹ (第3文) 副詞用法の不定詞 / make O as C as possible / 動名詞の否定 / and による接続 / 同格 / 関係代名詞の省略

(To make the study as realistic as possible), participants were asked

→①+②

S

V

to avoid the trivial stuff, (like missing a train or not being able to find a parking space),

↑

動名詞 (being) を否定

and and は to avoid と (to) think をつないでいる

think instead about 'the most negative upsetting emotional event in their life,

→③

one ((that) they still thought about and still needed to talk about'.

→③ thought about と talk about の目的語になる関係代名詞が省略されている
and は thought と needed を接続している

① 文頭の不定詞 to make は目的を表す副詞用法で「…するために」という意味。

② make のあとは、make the study (O) realistic (C) (調査を現実的なものにする) の C に as ~ as possible (できるだけ～) がかぶさっている。

③ the most negative upsetting emotional event と one they still ... talk about は同格。

☐ investigate「～を調べる」

☐ Belgium「ベルギー」

☐ carry out「～を実行する」

☐ stuff「(漠然と) こと」

☐ miss「～(乗り物)に乗り遅れる」

☐ upsetting「心が乱れるような」

☐ divorce「離婚」

☐ abuse「虐待」

☐ issue「問題」

☐ supportive「補助的な」

☐ invite ~ to do「～に…するよう依頼する」

☐ complete「～(アンケートなど)に記入する」

☐ well-being「満足(した状態)」

第③段落

自分たちの心に傷を残すような出来事について話すことに時間を費やした参加者たちは、おしゃべりは役に立ったと考えていた。しかし、さまざまなアンケートから、話は非常に異なったものであることがわかった。実際には、おしゃべりはまったく重大な影響を与えるものではなかった。参加者たちは不愉快な気持ちになる体験を共有することはよいことだと思ったが、自分たちがどれほどうまく対処しているかということについて、そのことが生み出す違いという観点から見ると、彼らは普通の1日についておしゃべりをしていた方がよかったのである。

- | | |
|--|---|
| ☐ spend ～ doing 「…することに～（時間）を費やす」 | ☐ significant 「重大な、重要な」 |
| | ☐ impact 「影響」 |

第④段落

では、不愉快な体験について、同情はしてくれるが訓練を受けていない人に話すことが時間の無駄であるとすれば、過去の痛みを和らげるのに役立てるには、どんなことができるのだろうか。▶² 好ましくない思考を押さえつけようとしてもよくないことに変わりはない。そうではなくて、選択肢の1つとして「筆記表出」がある。

▶² (第2文) 動名詞が主語 / 比較対象の省略

Trying to suppress negative thoughts can be just as bad.

S (動名詞)

V

C

・ as bad は as ～ as ... の比較対象 as ... が省略された形。'...' に当たるのは直前文の if 節の主語, talking about negative experiences to a sympathetic but untrained individual で、文脈から比較対象が明白なので省略されている。「～は不愉快な体験について、同情はしてくれるが訓練を受けていない人に話すことと同じくらいよくない」→「～がよくないことに変わりはない」となる。

- | | |
|---|---|
| ☐ sympathetic 「同情的な」 | ☐ involve 「～に関連する、～を含む」 |
| ☐ suppress 「～（感情・考えなど）を抑える」 | ☐ expressive writing 「筆記表出」 |

第⑤段落

いくつかの調査では、心に傷を残すような出来事を体験した参加者たちは、毎日ほんの数分間を使って、その出来事について最も深く考えていることや感じていること（その中には、その出来事が彼らの個人的・職業的生活にどのような影響を与えたかが含まれている）に関して日記に書くことを勧められた。この種の課題は迅速にできるし単純であるにもかかわらず、その結果、参加者たちは心理的・身体的健康が著しく向上になる体験をすることが明らかになったが、その中には、健康上の問題が減少し、自尊心と幸福感が増大することが含まれていた。この結果は心理学者たちにちょっとした謎を残した。心に傷を残すような体験について話すことがほとんど何の効果もなかったのに、その体験について書くことがなぜそれほど著しい効用を生み出すのだろうか、ということである。

- | | |
|---|--|
| ☐ affect 「～に影響を与える」 | ☐ self-esteem 「自尊心」 |
| ☐ reveal that ... 「…ということを明らかにする」 | ☐ leave A with B 「A に B を残す」 |
| ☐ boost 「押し上げること」 | ☐ something of a ～ 「ちょっとした～」 |
| ☐ reduction 「減少」 | ☐ yield 「～（利益など）を生む」 |

第6段落

心理学的観点から見ると、話すことと書くことは非常に異なっている。話すことは、いくぶん体系化されておらず、まとまりがなく、無秩序でさえあることが多い。それとは対照的に、書くことは、人々がすでに起こったことを理解し、解決を目指して努力するのに役立つ話の筋と構成を作ることを促す。要するに、話すことによって混乱しているという感覚が増大することがあるのに対して、書くことはもっと体系的で、解決に基づいた取り組み方を提供するのである。

- | | |
|--|---|
| ☐ perspective 「観点」 | ☐ story line 「話の筋」 |
| ☐ unstructured 「体系化されていない」 | ☐ make sense of ～ 「～を理解する」 |
| ☐ disorganized 「まとまりのない、整理されていない」 | ☐ add to ～ 「～を増大させる」 |
| ☐ chaotic 「無秩序な」 | ☐ systematic 「体系的な」 |
| | ☐ solution-based 「解決に基づいた」 |

読解 PLUS+ ONE 出題ポイントを押さえよう

コロンのみが宝じゃない——掘ればいろいろ出てくるよ

p.30 の読解 PLUS+ ONE でコロンがいかに重要かという話をしましたが（今回の①で重要性を再確認しておいてくださいね）、英語の句読点にはコロン以外にも大切なものはまだまだたくさんあります。今回はその話をしたいと思います。

● ダッシュの用法

まず、②の空所(イ)を見てください。

② 空所(ア)～(ウ)に入れるのに最も適当な語を1つずつ選び、番号で答えなさい。

..., while a second group were invited to chat about a far more (イ) topic — a typical day in their life.

- ① ordinary ② fantastic ③ special ④ shocking 解答 ①

この問題は、直後にあるダッシュ(→「—」)に注目することによって解答を導くことができます。そこで、ダッシュのはたらきについて確認しておきましょう。ダッシュは主に次のような場合に使われます。

- ① あとから思いついたことを付け足したり、言い直したりする場合
- ② 文中の語句の補足説明をする場合

上の問題の空所を見てください。ここでは、ダッシュがあることによって a typical day in their life が a far more (イ) topic の言い換えであることがわかり、正解を導くことができます(①の用法)。

ダッシュについてもう少し見ておきましょう。今回取り上げた英文の第①段落第3文を見ると次のように述べられています。

Those who adopt this approach — 'a problem shared is a problem lessened' — believe that ...
(この方法, つまり「問題は分かち合えば軽くなる」という方法をとる人たちは, ...と考えている)

ここではダッシュは文中にあり, ダッシュで囲まれた部分, つまり 'a problem shared is a problem lessened' は直前の this approach を補足説明しています。上に述べた②の用法ですね。出題者の立場に立てば, このようなダッシュの用法は非常に便利です。例えば, 「this approach の具体的な内容を説明しなさい」といった問題はすぐにできそうですね。

● セミコロン用法

次にセミコロン (→「;」) について確認しておきましょう。よく見かける記号だと思いますが, セミコロンは, 下のような形で意味上の関連が強い2つの節をつなぐ場合に使われます。

例 It's very cold; it may snow tonight.

→ and, or, but などの等位接続詞を用いないでつなぐ

I'm very tired now; however, I must complete the report by tomorrow.

→ ディスコースマーカーなどの接続語句を用いてつなぐ

● クエスチョンマーク

コロンやセミコロン, ダッシュなどを総称して「句読点; 句読法 (punctuation)」と言いますが, 最後に, もう1つ重要な句読点を紹介します。それはクエスチョンマークです。「エッ?」と思った人も大勢いるかもしれません。そうです, 「?」のことです。いわゆる疑問符ですが, 今回の英文の第①段落最終文を見ると, この「?」を用いて次のように書いてあります。

But is that really the case? (しかし, これは本当に正しいのであろうか。)

皆さんはこの文をどのように読みましたか? この英文の that は直前の内容, つまり「心に傷を残すような体験について誰か他の人に話すことが, 痛みを和らげるのに役立つ」という考えを指しています。では, この疑問文はこの考えが正しいかどうかを読者である皆さんにたずねているのでしょうか。もしそうなら, そんなことをたずねられても困りますよね。もちろん, そうではありません。実はこの文は本文の問題提起の部分になっているのです。つまり, 筆者は「これからこの考えが正しいかどうかについて検討していきます」と宣言しているのです。論説文では, このように疑問文の形式をとって本文の問題提起が行われることも珍しくないことを覚えておいてください。「クエスチョンマーク, 侮るべからず」です。

▶ 今回のポイント

句読点の用法を理解するだけで, 英文に対する理解力は倍増する。普段から, 句読点が出てきたら, どのような使い方をしているのかよく考えよう。

7 コアラの個体数の減少

問題編 p.23

コアラはオーストラリアの生物多様性の象徴であるが、農地開拓や都市化に伴う森林伐採の結果、今日その数は減少している。

● 解答 ◀ 正しい答え をチェック

- ① (ア) ④ (イ) ① (ウ) ② (エ) ④ (オ) ③
- ② ヨーロッパ人の入植以来、狩りや病気や森林火災などと相まって、農業のために生息地を開墾したことが結果として個体数の低水準化を招いた。
- ③ (A) ② (B) ①
- ④ ユーカリから得られるエネルギーは少ないので、コアラは1日の大半をあまり活動的に過ごすことができず、長時間眠らなければならない。(63字)
- ⑤ ③, ④

● 解説 ◀ 考え方をチェック

1 文脈の把握

- (ア) ①「～を越えた」 ②「～を除いた」 ③「～の外の」 ④「～の内部の」

空所を含む英文は「生物多様性とは、ある生態系（ア）あらゆる生物の多様性のことである。」という意味。直後の英文（Life forms ... the atmosphere.）では、生態系は生物と物理的環境から成っていると述べられている。つまり、生物は生態系の中に含まれると言えるので、空所に④を入れると文意が成立する。

- (イ) ①「言い換えれば」 ②「しかし」 ③「その上」 ④「他方」

空所の直前の英文（Scientists state that ... of the ecosystem.）では、「コアラはその生態系に属する他のそれほど知られていない部分に対する『旗艦』種」つまり、他の種を代表し、それに影響を及ぼす種であると説明されている。また、空所の直後（if its population ... is in trouble）では、「コアラの個体数が減った場合、それが意味するところは生態系の残りの部分も危険な状況にあるということである」と述べられている。これは、コアラが「旗艦」種であるということの意味を具体的に言い換えた内容になっているので、空所に①を入れると自然な流れになる。

- (ウ) ①「その上」 ②「しかし」 ③「したがって」 ④「例えば」

空所の直前の英文（Following the government's ... to increase again.）では、1930年代の政府によるコアラ狩りの禁止の結果、コアラの数は増加し始めた、と述べられている。また、空所の直後（recent urbanization and ... fragmented its habitats）では、「近年の都市化と農業の発達によって、コアラの生息地は縮小・寸断された」と述べられている。つまり、空所の前後は「逆接」の関係になっている。したがって、空所に②を入れると自然な流れになる。

下線部を含む英文は「ストレス、けが、えさ不足がコアラを病気に…にする」の意味。これは第⑩段落第2文中の further challenges（さらなる難題）の具体例なので、コアラを病気にかかりやすくなるという流れだと推測できる。したがって、①が正解。vulnerable to ～で「～に冒されやすい」の意。

4 内容の把握

設問文のポイントは「コアラがユーカリを主食とする」、「長時間眠る」という2点なので、この点を手がかりにして本文中の該当箇所を探すと、第③段落第3文に **Eating eucalyptus leaves**、第4文に **they ... must sleep** という表現が見られる。第3文では「ユーカリの葉を食べてもあまり多くのエネルギーを得ることができない」ということ、第4文では「コアラは1日の大半をそれほど活動的に過ごすことはできず、睡眠をとらなければならない」ということが述べられている。この2つの内容が Therefore でつながれているので、因果関係があることがわかる。したがって、第3～4文の内容を、因果関係を明示しながら、指定字数の範囲内でまとめればよい。

なお、第⑧段落第1文（There is ... eucalyptus leaves.）の内容は myth（俗説）だとされているので、これは解答には含めない。

答案作成上のポイント

答案に盛り込むべきポイントは①ユーカリから得られるエネルギーが少ない、②1日の大半をあまり活動的に過ごすことができず、眠らなければならない、③①と②をつなぐ因果関係を表す表現、である。①～③はすべて必須ポイントである。

5 内容の把握

- ①×「オーストラリア大陸には100万種を超える生物が存在するが、それらは×他の大陸にも存在している。」

第①段落第4文（In Australia ... nowhere else.）に、オーストラリア大陸に存在する100万種を超える動植物の多くは他の場所では見られない、と述べられている。

- ②×「×最も多かった年と比べると、オーストラリアにいる×コアラの数は80パーセント以上減少した。」

コアラの数が最も多かった年については本文に言及なし。また、第②段落最終文の with 以下では、80パーセントを上回るコアラの生息地が消滅したと述べられているが、コアラの減少数については言及されていない。

- ③○「コアラを保護することはオーストラリア政府が取り組むべき最も重要な問題の1つである。」

第④段落第1文に The protection ... national priority（この哺乳動物の保護は国家の優先事項の1つである）と述べられている。「この哺乳動物」とはコアラのことであり、「国家」とはオーストラリアを指しているため、一致する。

- ④○「コアラは音を出すことによって互いに情報を交換し合っているが、その音の1つは『うなり声』として知られている。」

第⑥段落第1～3文（An interesting fact ... as a "bellow".）の内容に一致する。

Unit 1
1
Unit 1
2
Unit 1
3
Unit 1
4
Unit 1
5
Unit 2
6
Unit 2
7
Unit 2
8
Unit 2
9
Unit 2
10
Unit 3
11
Unit 3
12
Unit 3
13
Unit 3
14
Unit 3
15

⑤×「コアラは夜行性の動物で、×屋間はいつもずっと眠っている。」

第⑦段落第3文 (Koalas, in contrast, ... in the daytime.) で、コアラは時には昼間に動き回ることであると述べられている。

⑥×「コアラの生息地の土壌が、×農業に適していないことは、×コアラにとって幸いなことである。」

第⑩段落第1～2文 (Many of the trees ... as choice fields.) で、コアラが好む木の多くが豊かな土壌にあり、その土壌が農業従事者によって優良な農地とみなされていることはコアラにとって不幸なことだと述べられている。

● 全訳 英文内容をチェック

第1段落

コアラはオーストラリアの国民的アイドルであるだけではなく、オーストラリアの生物多様性の象徴でもある。生物多様性とは、ある生態系内部のあらゆる生物の多様性のことである。生物には植物、動物、微生物が含まれるが、一方、生態系はこれらの生物に加えて、岩石、水源、大気といった物理的環境から成り立っている。▶¹ オーストラリアには100万種を超える動植物が存在しており、その多くは他の場所では見られない。実際、そこには多くの希少動物が存在しており、その中にはタスマニアンデビル、ワラビー、エミュー、ウォンバット、カンガルーが含まれている。

▶¹ (第4文) <some, many など + of + 非制限用法の関係代名詞 (whom / which)>

In Australia, there are more than one million species of plants and animals,

[many of which are found nowhere else].

S (= many of the species) V

・ which は species を先行詞とする非制限用法の関係代名詞。many は名詞で「多くのもの」という意味。

- ☐ icon 「アイドル、偶像」
- ☐ biodiversity 「生物多様性」
- ☐ variation 「変化の幅；多様性」
- ☐ life form 「生物」

- ☐ ecosystem 「生態系」
- ☐ micro-organism 「微生物」
- ☐ consist of ～ 「～から成り立つ」
- ☐ species 「(分類上の) 種」

第2段落

毎年、何百万という観光客がかわいくて珍しいコアラを見にオーストラリアを訪れるが、▶² 農業や住宅用に木が伐採されているためにコアラの数は減り続けている。オーストラリアの土地の開墾率は世界でも最高水準の1つで、▶³ 80パーセントを上回るコアラの生息地がすでに消滅している。

▶² (第1文) 前置詞の目的語としての動名詞と意味上の主語

... its numbers continue to decrease due to trees being cleared for farming and housing

「農業や住宅用に木が伐採されているために」

・ trees being cleared の being は前置詞 (due to) の目的語になる動名詞で、trees は動名詞の意味上の主語。being cleared は受動態の動名詞。

▶3 (第2文) 付帯状況を導く with

with over 80 percent of the koala habitat already having disappeared

〔with + A + 分詞〕「A が…して (されて) いる状態で」

・ここでは、文の動詞 (has) が表す時より以前のことなので、having disappeared と完了形になっている。意味は「80パーセントを上回るコアラの生息地がすでに消滅している状態で」。

☐ continue to do 「…し続ける」

第③段落

この哺乳動物の保護は国家の優先事項の1つであるが、それはコアラが、観光業にとって重要であるだけでなく、オーストラリアの天然資源の豊かさの象徴でもあるからである。科学者たちは、コアラはその生態系に属する他のそれほど知られていない部分に対する「旗艦」種であると言っている。言い換えれば、コアラの個体数が減った場合、それが意味するところは生態系の残りの部分も危険な状況にあるということである。コアラとその生息地を保護することは、同じ生態系内に生存する他の多くの動植物の種を保護することになるのである。

☐ mammal 「哺乳動物」

☐ priority 「優先事項」

☐ tourism industry 「観光業」

☐ represent 「～を象徴する」

☐ natural resources 「天然資源」

☐ lesser-known 「より知られていない」

第④段落

コアラを保護してきた歴史は長い、それにもかかわらず、今日コアラの数は着実に減っている。ヨーロッパ人の入植以来、狩りや病気や森林火災などと相まって、農業のために生息地を開墾したことが結果として個体数の低水準化を招いた。1930年代に政府が毛皮採取のための狩りを禁止した結果、コアラの数は再び増加し始めた。しかし、近年の都市化と農業の発達によって、コアラの生息地は縮小・寸断された。

☐ following ～ ④ 「～の結果」

☐ ban on ～ 「～の禁止」

☐ urbanization 「都市化」

☐ fragment 「～をばらばらに壊す」

第⑤段落

この動物はユーカリの木の葉しか食べないが、この木はより一般的には gum tree と呼ばれている。中には毎日最高1キログラムのユーカリの木の葉を食べるコアラもいる。オーストラリアには600種類を超えるユーカリの木がある。しかし、コアラは食べ物の好みによるさく、えさの大部分をほんのわずかな種類のユーカリの木から選ぶ。

☐ commonly 「一般的に」

☐ fussy eater 「食べ物の好みによるさい人」

☐ variety 「(同類の物の中の) 種類」

第⑥段落

コアラに関して興味深いことは、おかしな音を立てることによって木と木の間に互いにコミュニケーションをとることである。奇妙で意外な音の1つは大型犬のように大きく吠える声である。この声は「うなり声」としても知られている。

☐ **communicate with** ～「～とコミュニケーションをとる、情報を伝え合う」

☐ **bellow** 「うなり声」

第7段落

オーストラリアの多くの動物と同様、コアラは一般的には夜行性である。夜行性の動物は夜は目を覚ましていて昼間は眠っている。これに対し、コアラは夜の一部分を眠って過ごし、時には昼間に動き回ることもある。コアラはしばしば1日18時間から20時間眠る。

☐ **nocturnal** 「(動物が) 夜行性の」

☐ **in contrast** 「対照的に」

第8段落

▶4 コアラはユーカリの葉を食べて酔っ払うので一度に何時間も眠るのだという、多くの人が本当だと信じている俗説がある。ユーカリの葉は非常に毒性が強いが、コアラの消化器官はその毒素を排出してエネルギーとなる栄養素を最大限に吸収することができる。しかし、ユーカリの葉を食べてもあまり多くのエネルギーを得ることはできない。したがって、コアラは1日の大半をそれほど活動的であることはできず、睡眠をとらなければならないのである。

▶4 (第1文) 関係代名詞の **that** と同格の名詞節を導く **that**

There is **a myth** **(that many people believe to be true)**

目的格の関係代名詞

believe O to be true (O を本当だと信じる) の O が関係代名詞として前に出ている

同格

[that koalas sleep for many hours at a time (because they become drunk on eucalyptus leaves)].

☐ **myth** 「俗説：神話」

☐ **at a time** 「一度に」

☐ **toxic** 「有毒な」

☐ **digestive system** 「消化器官」

☐ **nutrient** 「栄養素」

☐ **can afford to do** 「…する余裕がある」

第9段落

コアラが好む木の多くは豊かな土壌に見られるが、それは、豊かな土壌の方がおいしい葉を確実に与えてくれるからである。コアラにとって不幸なことに、その同じ土壌が農業従事者によって最高の農地とみなされる。▶5 農業と住宅がコアラの生息地を侵食した結果、現在、多くのコアラは質の悪い森の小さく点在する区画で生活している。

▶5 (第3文) 前置詞の目的語としての動名詞と意味上の主語

As a consequence **of agriculture and housing encroaching on koala habitats**

意味上の主語

動名詞

☐ **ensure** 「～を保証する」

☐ **value A as B** 「A を B だと評価する」

☐ **choice** 「最高の、優良の」

☐ **as a consequence of** ～「～の結果(として)」

☐ **encroach on** ～「～を侵食する」

☐ **patch** 「小区画の土地」

第10段落

森林のある特定の区域がいっぱいになると、その場所を去って他の森を探さなければならなくなるコアラも出てくるかもしれない。こういうコアラは生存のためのさらなる難題に直面する。例えば、コアラが木を離れて空き地を歩いている時に、車にひかれたり、犬やキツネに襲われたりすることもある。ストレス、けが、えさ不足のせいで、コアラは病気にかかりやすくなるかもしれない。▶⁶木の伐採に関連したこれらの困難によって、中には危険にさらされて保護を必要とするようになったコアラもいる。

▶6（最終文）前置詞の目的語としての動名詞と意味上の主語

These difficulties (in connection with the clearing of trees) have led to some koalas
S 「～に関連して」 V 意味上の主語

becoming endangered in need of protection.
動名詞

- ☐ occupy 「～を占有する、ふさぐ」
- ☐ in search of ～ 「～を探して」
- ☐ open space 「空き地」

- ☐ run over ～ 「(車などが) ～をひく」
- ☐ lead to ～ 「～を引き起こす」
- ☐ endanger 「～を危険にさらす」

読解 PLUS+ONE 出題ポイントを押さえよう

余裕を持って下線部なしの内容説明問題に取り組もう

今回は下線部のない内容説明問題について考えてみましょう。このタイプの問題は一見難しそうに見えますが、実はこのタイプの問題はとても取り組みやすい問題なのです。このように言う、「エッ?」と思う受験生も多いかもしれませんが、よく考えてください。問題の指示文で述べられていることは確実に本文に書かれていることなのです。つまり、問題の指示文が大きなヒントになっているのです。まず、4を見てみましょう。

4 コアラがユーカリを主食とすることと長時間眠ることとの間の関係を、本文に即して、65字（句読点含む）以内の日本語で説明しなさい。

解答 ユーカリから得られるエネルギーは少ないので、コアラは1日の大半をあまり活動的に過ごすことができず、長時間眠らなければならない。(63字)

問題の指示文より、「コアラがユーカリを食べる」ということと「コアラが長時間眠る」ということは確実に本文で述べられていることがわかります。したがって、それが述べられている箇所を見つけ出すことができれば解答に近づいたと言えるわけです。本問の場合は、第8段落の **Eating eucalyptus leaves** と **they ... must sleep** という表現さえ見つければ、正解を導くことができます。

過去の入試問題からこの点を確認してみましょう。

例 最近の考え方を証明する研究として Veronique Izard 氏の行った実験結果とそこから分かることは何ですか。本文に基づいて、100 字以内の日本語で説明しなさい。句読点も字数に含めます。
(2012 年 広島大学 前期 [IV] 問 3)

この指示文のポイントは、固有名詞の Veronique Izard、彼女の行った「実験結果」、「そこからわかること」の3点で、それに当たる表現を手がかりに本文を探せば解答にたどり着くことができます。この問題では、第④段落に **Veronique Izard ... demonstrated ...** とあるので、この表現を手がかりに本文を読むと、その次の文から「実験結果」が述べられています。したがって、そこをまとめればよいとわかります。また、「そこからわかること」については、同じ段落の **Izard's study suggests that ...** という表現に注目し、... の部分が解答の該当箇所であると判断して解くことになります。

このように、このタイプの問題では、**実験や調査結果の説明**が問われたり、**ある人物の主張**などが問われることがよくありますが、前者では、**find [show / suggest] that ...**、後者では、**believe [think / suggest] that ...** などに注目すればよいでしょう。

例を挙げればまだまだありますが、今後このタイプの問題に出会った時には、指示文をじっくり読むことをお勧めします。

▶ 今回のポイント

下線部なしの内容説明問題では、指示文が大きなヒントになるので、それを手がかりに、解答の根拠となる箇所を本文の中に探すことが大切。

Unit 1
1

Unit 1
2

Unit 1
3

Unit 1
4

Unit 1
5

Unit 2
6

Unit 2
7

Unit 2
8

Unit 2
9

Unit 2
10

Unit 3
11

Unit 3
12

Unit 3
13

Unit 3
14

Unit 3
15

8 ニュース報道とは何か

問題編 p.27

ニュース報道においては、出来事が客観的に伝えられることはなく、いろいろな出来事の中から記者の主観による取捨選択が行われる。

● 解答 正しい
答え をチェック

1 (ア) ③ (イ) ① (ウ) ④

2 (A) ② (B) ③

3 ニュースを見るためにインターネットに接続した人は、従来のマスメディアによって提供される話題とは異なる話題にひかれた

4 ジャーナリストがいったんある出来事をニュースとして選ぶと、そのジャーナリストはその出来事の細部についても、見る価値があるもの、無視すればよいもの、また覚えておくべきものと忘れてもよいものを選ぶなければならないということ。

5 ④

● 解説 考え方 をチェック

1 文脈の把握

(ア) ①「法律用語によって定義されるもの」

②「表面的な現象の背後にあるもの」

③「ニュースの製作責任者とジャーナリストがニュースだと言うもの」

④「ある出来事がその本質的な属性として持っているもの」

空所を含む英文は「同様に、ニュースとは（ア）と言ってよいかもしれない。」という意味。Likewise に注目すると、これと同様なことがすでに述べられているとわかる。第②段落第2文（The law ... say it is.）を見ると、「法とは法廷が法であると述べるものである」と述べられているので、空所に③を入れると同様な内容になり、自然な流れになる。（→全訳▶1）

(イ) ①「かなり明白な点」 ②「かなり疑わしい点」

③「時代錯誤の考え」 ④「漠然とした考え」

空所を含む英文は「これは（イ）であるように思われるかもしれないが、ニュースは常に『その辺に』あり、寄せ集められたり収集されたりするのを待っていると信じている人がたくさんいるということは心に留めておくべきである。」という意味。文頭の This は直前文（An event becomes ... around us.）の内容、つまり、ある出来事がニュースになるのは、それがさまざまな出来事の中から私たちの注目を引くように選ばれるからであるということを示している。要するに、取捨選択が行われているということであるが、空所には、これについての評価を表す選択肢が入る。but 以降はこれと「逆接」の流れになっており、ここでは、ニュースは出来事の中に客観的に存在しているということを信じている人がたくさんいると

ということが述べられている。したがって、空所に①を入れると文意が成立する。

- (ウ) ①「すぐに」 ②「常に」 ③「しばしば」 ④「ごくまれにしか…ない」

空所を含む英文は「その研究では、ヤフーニュースでは、ヤフーの編集者がすでに選定した限られた記事一覧から選ぶ場合でさえ、ユーザーが選んだ最上位に入るいくつかの記事が報道の専門家が選んだいくつかの記事と一致することは（ウ）ことがわかった。」という意味。第④段落第1～2文（In September 2007 ... the mainstream media.）を見ると、オンラインのユーザーが選ぶ記事と主流のメディアが扱う記事の多くは異なる、つまり一致しないことが述べられているので、空所に④を入れると自然な流れになる。（→全訳▶4）

2 語句の意味の把握

- (A) ①「話言葉」 ②「殺害」 ③「醜聞」 ④「退職」

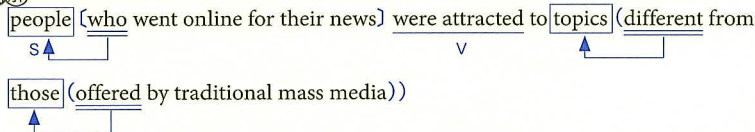
assassination は「暗殺」という意味。したがって、②が正解。

- (B) ①「事実を完全に変える」 ②「しぶしぶ事実を語る」
③「事実を正確に提示する」 ④「ただちに事実を手に入れる」

get ~ straight は「～を正しく理解する、明確にする」という意味なので、③が正解。

3 文構造の把握

図解



語句 ・ go online 「インターネットに接続する」 ・ attract A to B 「A を B に引きつける」

- who は関係代名詞で、関係詞節は who(S) + went(V) の形。for は「～を得るために、～を求めて」という意味。went online for their news で「ニュースを得るために〔見るために〕インターネットに接続した」。
- different from ～は後ろから topics を修飾している。
- offered は過去分詞で、by traditional mass media を伴って後ろから those を修飾している。those は既出の名詞（複数形）の反復を避ける代名詞で、ここでは topics の代わりに用いられている。

4 内容の把握

下線部(2)を含む英文は「これ（= This）は、あらゆる報道記事は、その記事を伝える記者が投影されたものであるということの別の言い方にすぎないのである。」という意味。したがって、This の指すものは、この英文の that 節の内容（＝報道記事とは、記者（の考え）が投影されたものであるということ）の言い換えであることがわかる。This は直前の内容を指すこ

とが多いので、直前文を見ると、「ジャーナリストがいったんある出来事をニュースに選ぶと、そのジャーナリストは、見るに値する細部、無視してもかまわない細部、覚えるに値する細部や忘れてもかまわない細部をも選ばなければならない」と述べられている。つまり、**ニュースは細部にいたるまでジャーナリストの取捨選択にかかっている**とされている。これは、下線部を含む英文の that 節とほぼ同意なので、この部分が This の指す内容になる。

答案作成上のポイント

上に示したように、直前文を抜き出してまとめればよい。字数制限がないのでほぼ全訳でもかまわないが、that 以下の関係詞節はそのまま訳すと若干わかりにくいものになるので、その点では少し工夫をした方がよい。This の指す内容が問われているので、文末は「…ということ」のようにまとめること。

5 内容の把握

- ①×「テレビの視聴者は、×政府の政策が適切かどうかを判断するために、ニュースとは何かについて考えるべきである。」

第①段落第2文 (We turn to ... by important advertisers.) に、ニュースとは何かということを考えるべき理由として、そうしないと、他人の定義を簡単に受け入れる危険があるからとされている。

- ②×「ニュース報道は信頼できると言ってもまず大丈夫だろう。というのは、×ジャーナリストだけでなく広告主も常にニュースとは何かについて真剣に考えているからである。」

第①段落最終文 (The question ... deeply about it.) に「多くのジャーナリストや広告主はそれについて深く考えたことすらないかもしれない」と述べられ、it は「ニュースとは何かということ」を受けている。

- ③×「2007年9月の調査によれば、×ユーザーが選んだニュースのサイトは主に、イラクや移民に関する議論のような一時的な話題を扱った。」

第④段落第5文 (In the week ... in net worth.) に「主流の報道機関はイラクや移民に関する議論に集中した」と述べられている。

- ④○「与えられた2つの出来事のどちらがニュース記事としてより重要であるかを定めることは非常に難しい。というのは、視聴者はジャーナリストとは考え方が違うかもしれないからである。」

第③段落第1～4文 (It can get ... become the news?) の内容と一致する。

● 全訳 ◀ 英文内容をチェック ▶

第①段落

ニュースは私たちの生活で重要な役割を果たしているが、ニュースとは実際どのような意味で用いられているのだろうか。私たちがこの問いに目を向けるのは、テレビの視聴者がこれについて考えたことがないと、視聴者はあまりにたやすく他人の定義を受け入れるという危険性があるからである。例えば、テレビ局のニュースの製作責任者によって与えられる定義や、さらに悪い場合には、有力な広告主によっ

て押しつけられる定義である。いずれにしろ、この問いは単純なものではないし、多くのジャーナリストや広告主はそれについて深く考えたことすらないかもしれない。

- ☐ play a ~ part in A「Aにおいて～な役割を果たす」
- ☐ turn to ~「～に目を向ける」
- ☐ be in danger of ~「～の危険がある」
- ☐ definition「定義」

- ☐ impose「～を押しつける」
- ☐ advertiser「広告主」
- ☐ in any case「いずれにしても」

第2段落

ニュースの極めて単純な定義は、オリバー・ウェンデル・ホームズ判事の有名な法の定義を言い換えることによって得ることができる。法とは▶¹ 法廷が法であると述べるものである、とホームズは言っている。それ以上ではないし、それ以下でもない。同様に、ニュースとはニュース製作責任者とジャーナリストがニュースであると述べるものであると言ってよいかもしれない。言い換えれば、テレビをつけて全国ネットのニュース番組や地方のニュース番組を見る時、▶² どんなものであれ放送されているものが、定義上、ニュースなのである。

▶1 (第2文) 連鎖関係代名詞節

... what (the courts say) it is
C (= the thing that) S (= the law) V

・ what ... it is が say の目的語にあたる(連鎖関係代名詞節)。直訳すると「法がそれであると法廷が言うもの」という意味。

▶2 (最終文) 名詞節を導く複合関係代名詞 whatever

(whatever is on) is, (by definition), the news
S V C

・ whatever = anything that 「…するものは何でも」。on は「放送されて」という意味の形容詞。whatever is on 「放送されているものは何でも」。

- ☐ simplistic「極めて単純な」
- ☐ draw「～(結論など)を引き出す」

- ☐ paraphrase「～を言い換える」
- ☐ court「法廷」

第3段落

出来事の中には、大統領の暗殺とか地震などのように、ほとんどすべての人の関心を引き、影響をもたらすものがある。しかし、大部分のニュースは出来事に本来備わっているものではない。ある出来事がニュースになるのは、私たちの周りでがやがや言っている混乱の中から私たちの注目を引くようにそれが選ばれるからである。これはかなり明白な点であるように思われるかもしれないが、ニュースは常に「その辺に」あり、寄せ集められたり収集されたりするのを待っていると信じている人がたくさんいるということは心に留めておくべきである。実際には、ニュースは寄せ集められるよりも作り出される場合の方が多いのである。▶³ そしてニュースは、ジャーナリストが重要だと考えること、あるいは読者や視聴者が重要だとかおもしろいと思うとジャーナリストが考えることに基づいて作られるのである。

▶3 (最終文) SVOCの関係代名詞節 / 連鎖関係代名詞節

And it is made on the basis of

(A) [what the journalist thinks important] or
O S V C

(B) [what the journalist thinks (the audience thinks) is important or interesting]
S'' S V S' V' V'' C''

(B) は次の文をベースにして、その中の it が関係代名詞 what になった連鎖関係代名詞節

the journalist thinks [① (that) the audience thinks [② (that) it is important or interesting]]
S V S' V' S'' V'' C''

・ that 節①は thinks (V) の目的語。that 節②は thinks (V') の目的語。「ジャーナリストが、読者や視聴者がそれが重要だとかおもしろいと思う、と考える」という意味。

☐ have ~ consequences 「～な影響をもたらす」

☐ near-universal 「ほぼ万人共通の」

☐ inherent in ~ 「～に本来備わっている」

☐ buzzing 「がやがや言う、ざわざわした」

☐ confusion 「混乱」

☐ keep in mind that ... 「…を心に留めておく」

☐ on the basis of ~ 「～に基づいて」

☐ audience 「視聴者、読者」

第4段落

2007年9月、「ジャーナリズムにおける優秀さを求めるプロジェクト」による研究では、ニュースを見るためにインターネットに接続した人は、従来のマスメディアによって提供される話題とは異なる話題にひかれることが示された。オンラインユーザーによって選ばれた記事の多くは、主流メディアの上位を占める記事の中のどこにも現れることがまったくなかった。その研究では、▶4 ヤフーニュースでは、ヤフーの編集者がすでに選定した限られた記事一覧から選ぶ場合でさえ、ユーザーが選んだ最上位に入るいくつかの記事が報道の専門家が選んだいくつかの記事と一致することはごくまれにしかないのであった。その調査は、「要するに、ユーザーが選んだニュースの題目は、少なくともこの1週間でざっと見てみると、主要報道機関のものよりも、多様で、断片的で、一時的なものであった」と結論づけた。調査された週では、「主流の報道機関はイラクや移民に関する議論に集中したのに、ユーザーが選んだニュースの主要な3つのサイトはアップルの新しいiPhoneの発売といった記事と、任天堂の純資産がソニーを上回ったという記事に集中した」のである。

▶4 (第3文) 接続詞付きの分詞構文 / 独立分詞構文における意味上の主語の省略 / 前出の名詞の

反復を避ける those / 過去分詞による後置修飾

..., even (when choosing from a limited list of stories) [(that) Yahoo! editors
= when users chose

had selected)], users' top stories only rarely matched those (picked by the
S V = the stories

news professionals)

・ when は分詞構文の意味を示する接続詞。choosing は独立分詞構文。文法的には例外的だが、文脈上意味上の主語が users であることが明らかなので省略されている。

- ☐ story 「記事」
- ☐ mainstream 「主流の」
- ☐ match 「～と一致する」
- ☐ survey 「調査」
- ☐ user-news 「ユーザーが選んだニュース」
- ☐ agenda 「題目」
- ☐ diverse 「多様な」

- ☐ fragmented 「断片的な」
- ☐ temporary 「一時的な」
- ☐ review 「～を調査する」
- ☐ immigration 「(国外からの) 移民」
- ☐ leading 「主要な」
- ☐ release 「(CD, 本などの) 発売」
- ☐ surpass 「～を上回る」

第5段落

問題はかなり複雑なものになり得る。北アイルランドでの殺人に関する題材はモロッコでの殺人に関する題材より重要なのだろうか。ジャーナリストはそうは思わないかもしれないが、読者や視聴者はそう思うかもしれない。どちらの事件がニュースになるのだろうか。そしていったん(題材が)選ばれたら、どのような観点や細部が含まれるべきなのだろうか。というのは、ジャーナリストがいったんある出来事をニュースに選ぶと、そのジャーナリストは、見るに値する細部、無視してもかまわない細部、覚えるに値する細部や忘れてもかまわない細部をも選ばなければならないからである。これは、あらゆる報道記事は、その記事を伝える記者が投影されたものであるということの別の言い方にすぎないのである。

▶5 何が「その辺に」あるかについての記者の事前の想定によって、記者がそこにあると考えることが編集されるのである。

▶5 (最終文) 無生物主語構文 / 連鎖関係代名詞節

The reporter's previous assumptions (about (what is "out there")) edit

無生物主語構文

「…想定が～を編集する」→「…想定によって～が編集される」

[what (he or she thinks) is there].

連鎖関係代名詞節

- ☐ pretty 「かなり」
- ☐ complicated 「複雑な」
- ☐ story 「報告のための題材・事件；新聞種」
- ☐ point of view 「観点」
- ☐ detail 「細部」
- ☐ choose ~ to be ... 「～を…に選ぶ」

- ☐ neglect 「～を無視する」
- ☐ reflection 「投影, 反映」
- ☐ previous 「事前の」
- ☐ assumption 「想定」
- ☐ edit 「～を編集する」

第6段落

したがって、ニュースの本当の意味は何かということに対する答えは、記者やジャーナリストの物の見方によって決まるのである。記者は自分たちの持つ想定とは関係なく、少なくとも事実を正しく伝えることができるかとあなたは考えるかもしれない。ニュース報道は、明らかにそれほど単純ではないのである。

- ☐ depend on ~ 「～次第である」

- ☐ regardless of ~ 「～と関係なく」

内容一致問題はストライクゾーンを読む

今回は内容一致問題について考えてみましょう。内容一致問題と言っても形式はさまざまですが、いずれのタイプにしても、本文の内容に一致していない選択肢とは次のようなものです。

- ① 本文に書いてあることと逆のこと、あるいは本文の内容とずれたことが書いてある選択肢
- ② 本文に書いてないことが述べられている選択肢

⑤を例にとってこの点を確認してみましょう。

⑤ 本文の内容と一致するものを次の中から1つ選び、番号で答えなさい。

- ① TV viewers should think about what news is, in order to judge whether government policies are appropriate or not.
- ② We can safely say that news reports can be relied on, for not only journalists but also advertisers always think seriously about what news is.
- ③ According to the survey in September 2007, user news sites mainly dealt with temporary topics like Iraq and the debate over immigration.
- ④ It's very difficult to conclude which of two given events is the more important as a news story, for the audience might think differently from the journalist.

解答 ④

①～③の下線を引いた部分が×の根拠なのですが、①は本文に記述されていない事柄、②は本文と逆の内容、③は本文とずれた内容になっています。

ところで、今回の問題は一致するものを1つ選ぶという問題ですが、正解の数が指定されている問題の場合、**グレーゾーンの選択肢（〇とも言えるし×とも言える選択肢）を含む問題**もよく見かけられます。出題者としてはできるだけ工夫を凝らした選択肢を作りたいという心理がはたらくのですが、そこに[●]出題者の主観が入りこむ可能性は十分にあり、受験生である皆さんの解釈と一致しないケースも出てきます。野球で言えば、[●]バッターが[●]ボールだと思って見逃した球を主審が[●]ストライクと判定するケースと似ています。野球の場合それを決めるのは審判ですが、入試問題の場合は出題者の側であって、皆さんではありません。では、どのように対処すればよいのでしょうか。グレーゾーンの選択肢を△だとして、仮に、一致・不一致の判断が①× ②× ③△ ④○ ⑤× ⑥× になったとしましょう。このケースで、問題の指示文が「内容と一致するものを1つ選びなさい」であれば、正解は④です。しかし、指示文が「2つ選びなさい」ということであれば正解は③と④になるでしょう。要するに、△より○を優先し、選ぶ個数に応じて正解を決めればよいのです。

▶ 今回のポイント

内容一致問題では、正解の数を決めるのは出題者（＝大学）の側。それを最大限に利用して解答しよう。

9 ユーモアの定義

問題編 p.30

ユーモアの定義において笑いは必要不可欠なものではないが、考慮すべき重要な要因である。

解答 正しい
答え をチェック

① ア ① イ ① ウ ② エ ③

② もしあなたが、真面目くさった顔をしたままの人たちの面前で自分のお気に入りの喜劇を見た場合、その喜劇をそんなにおもしろいと思わないこともある。

③ (聞き手は) 笑うことで集団に対する忠誠を表そうとする (ため。) (20 字)

④ ②

⑤ ① ○ ② × ③ × ④ ×

解説 考え方 をチェック

1 文脈の把握

ア ① 「例外」 ② 「意味」 ③ 「規則」 ④ 「用語」

第1文 (One definition ... or smile.) では、ユーモアの1つの定義について「人を笑わせるかはほえませるかするもの」と述べている。空所を含む英文の直後の英文 (It's possible ... not funny.) では、あることについて誰も笑わなくても、それをこっけいだと主張することは可能であるし、皆が笑っても、おかしくないと言い張る人がいることもよくあることだということが述べられている。要するに、ユーモアと笑いが結び付かないケースもあるということ、つまり、第1文で述べたことに対する例外に言及している。そこで、空所に①を入れて、Like all straightforward definitions, exceptions can be found. (あらゆる単純明快な定義と同様、例外は見つけられる。) とすれば自然な流れになる。

イ ① 「一緒にいること」 ② 「興奮」 ③ 「失望」 ④ 「秘密」

空所を含む英文の直後の文 (Research has shown ... full of people.) で、人は1人である時はまず笑うことはないが、同じユーモアでも人がたくさんいる部屋では笑う、ということが述べられているので、空所に①を入れて、People laugh in company. (人は人のいるところで笑う。) とすると自然な流れになる。in company で「人前で」の意。

ウ ① 「～とは異なる」 ② 「～次第である」

③ 「～から独立している」 ④ 「～に無関心である」

空所を含む英文中のダッシュより前の部分 (It is hard ... social groups) では「ユーモアが時間や社会集団の境界を越えるのは難しい」と述べられている。ダッシュには直前の語句を補足説明するという機能があるので、ダッシュの後ろでは時間や社会集団の境界を越える難しさについて補足されていると考えられる。そのうち、humour becomes ... fashion

は「時間の境界」について述べている。そこで、空所に②を入れると、humour ... is often dependent on particular cultures and attitudes (ユーモアは…特定の文化や考え方次第であることが多い) となり、「社会集団の境界」を述べることによって、文意が成立する。

- (イ) ①「目にふれないものは忘れられる→去る者日々とうとし」
 ②「勉強ばかりして遊ばないと子供はだめになる→よく学びよく遊べ」
 ③「何事にもふさわしい時と場所というものがある」
 ④「卵からかえらぬうちにひなを数えるな→捕らぬ狸の皮算用」

空所を含む英文は「『(工)』という警句はユーモアについても当てはまる。」という意味。直後の英文を見ると It (= humour) is not felt to be appropriate in certain situations (ある状況ではユーモアは適切であるとは感じられない) と述べられているので、空所に③を入れると自然な流れになる。

2 文構造の把握

図解

(If you watch your favourite comedy in the presence of people who remain straight-faced), it can stop you finding it so funny.

S V O
C' S V O

語句 ・ favo(u)rite 「お気に入りの」 ・ in the presence of ～ 「～の面前で」 ・ straight-faced 「真面目くさった顔の」 ・ stop ～ (from) doing 「～が…するのを妨げる」

- If 節は you (S) + watch (V) + your favourite comedy (O) の形。
- who は関係代名詞で、関係詞節は who (S) + remain (V) + straight-faced (C) の形。remain C は「C のままである」。people who remain straight-faced で「真面目くさった顔をしたままの人たち」となる。
- 主節の主語 it は If 節の内容 (you watch ... remain straight-faced) を指す。finding it so funny は、find O C (O を C だと思う) の構文で、O = it, C = funny. it は your favourite comedy を指している。以上より、it can ... so funny を直訳すると「そのこと (= 真面目くさった顔をしたままの人たちの面前で自分のお気に入りの喜劇を見ること) は、あなたがそれ (= 自分のお気に入りの喜劇) をおもしろいと思うことを妨げることがある」となる。いわゆる無生物主語構文なので、「そのために、あなたはその喜劇をそんなにおもしろいと思わないこともある」とするとこねた日本語になる。

3 内容の把握

下線部(2)を含む英文は「誰かが何かおもしろいことを言うつもりだということを示すと、聞き手はすぐに笑う態勢に入るのである。」という意味。直前の英文 (... humour is ... to a group.) を見ると、「…ユーモアは人がある集団への忠誠を示す1つの方法なのである」と述べられている。これは、ユーモアがある集団の中で果たす一般的な役割についての言及である

が、英文の展開は、これが原因となって下線部の聞き手の行動につながるという流れになっている。

答案作成上のポイント

下線部の直前で述べられている humor is ... to a group が、「笑う」という個々の聞き手の行動の理由を表す内容となるようにまとめる。attachment は「帰属；愛着」などとしてもよい。

4 語句の意味の把握

下線部(A)を含む英文は「ユーモアを…受け入れるのも難しい。」という意味。直後の英文の For example に注目すると、直後の few people ... of the day と、それに続く Even when ... in the right mood. が、下線部を含む英文の具体例だとわかる。そこで述べられている内容、つまり、朝一番で笑う人はいないので笑い番組はくつろげる時間帯に放送される、夜の催しも前座が必要な場合があるということをふまえると、下線部を②の意味にとれば、自然な流れになる。cold には副詞で「準備なしで」という意味がある。

5 内容の把握

①○「人はおびえたり当惑したりする時でさえ笑ったりほほえんだりすることがある。」

第①段落第4文 (Smiling and laughter ... fear or embarrassment.) の内容に一致する。

②×「コメディアンは、どこで冗談を言っても、常に観客を笑わせることができる。」

第②段落第6文 (The same joke ... place to another.) に、コメディアンはあちこちの場所を旅するうちに、同じ冗談が場面によってうけたりうけなかったりすることがあるとわかる。と述べられている。

③×「私たちは、どんな場合でも特定の人物や信念をユーモアの標的にすべきではない。」

第④段落第4文 (There may be ... is deadly serious.) に、「背後にある目的がひどく重大なものである場合、ユーモアには、人、制度、あるいは一連の信念といった標的があることもある」と述べられている。

④×「筆者によれば、笑いのないユーモアは想像できない。」

第⑤段落 (So, although laughter ... for a definition.) に、笑いはユーモアの必要条件でも十分条件でもない、と述べられている。

全訳 英文内容をチェック

第①段落

ユーモアの定義の1つは「人を笑わせるかほほえませるかするもの」である。あらゆる単純明快な定義と同様、例外は見つけられる。たとえその時に誰も笑わなかったとしても、あることがこっけいであると主張することは可能である。そして、人が笑っても、「それはおかしくない」と言い張る人がいることはよくあることである。ほほえみや笑いが恐れや困惑の表れであることもある。こうした異論にもかかわらず、その反応は、あることをユーモアであるとみなす場合には重要な要因である。そうだとすれば、その言葉を調べることは、人がなぜ笑うのかを説明するのに役立つ可能性がある。

- ☐ straightforward 「単純明快な」
☐ **claim that ...** 「…と主張する」
☐ embarrassment 「困惑」

- ☐ **objection** 「反対意見」
☐ **response** 「反応」
☐ count A as B 「A を B とみなす」

第2 段落

人は人のいるところで笑う。▶¹ 研究によって次のことが示されている。つまり、人は人がたくさんいる部屋ではあるユーモアで笑ったとしても、1人では同種のユーモアでめったに笑わないということである。ユーモアへの人々の反応の仕方には、はっきりとした社会的側面がある。もしあなたが、真面目くさった顔をしたままの人たちの面前で自分のお気に入りの喜劇を見た場合、その喜劇をそんなにおもしろいと思わないこともある。他の人たちがユーモアに反応しているのを感じ取ることが重要なので、テレビやラジオの喜劇では録音された笑い声が使われる。▶² 独演のコメディアンはあちこちの場所を旅するうち、同じ冗談がある場面では見事にうけるのに、別の場面ではまったくうけないことがあるとわかる。言葉が持つ他の側面と同様、ユーモアは人がある集団への忠誠を示す1つの方法なのである。誰かが何かおもしろいことを言うつもりだということを示すと、聞き手はすぐに笑う態勢に入るのである。▶³ この種の合図を与えられると、その冗談がわかったかどうかということにさえ関わりなく、人は笑うことが多い。

▶ 1 (第2文) 無生物主語構文 / 代動詞の do / 形容詞の後置修飾

Research has shown (that (when people are alone) they rarely laugh, (even though

S V O

無生物主語構文

「研究は…ということを示している」→「研究によって…ということが示されている」

the same example of humour makes them do so in a room (full of people)).

S' V' O' = laugh

「～でいっぱい」

▶ 2 (第6文) 関係代名詞 as / 分詞構文

The same joke can work brilliantly in one context and die in another, (as

↑

主節全体を先行詞としている非制限用法の関係代名詞

stand-up comedians find, (travelling from one place to another)).

S

V

分詞構文

▶ 3 (最終文) 副詞節における〈S + be 動詞〉の省略

People often laugh (when (they are) given this sort of signal)

= people

・ when 以下は副詞節。S + be 動詞 (they are) が省略されている。

- ☐ **respond to** ～ 「～に反応する」
☐ **sense** ～ **doing** 「～が…しているのを感じる」
☐ work 「うまくいく；作用する」

- ☐ **brilliantly** 「見事に」
☐ **context** 「状況」
☐ **regardless of** ～ 「～と関係なく」

第③段落

聞き手が話し手から距離をおきたいと思う場合は、反対のことが起こる。例えば、いったんある人のことを古臭いとかばかげているとか人種差別主義であると感じたら、あなたが笑うとは考えられない。ユーモアを生み出したり受け入れたりするのに、社会的な状況は重要である。ユーモアが時間や社会集団の境界を越えるのは難しい。ユーモアは流行と同じようにすぐに古臭くなるし、特定の文化や考え方にしかかっていることが多いからである。状況が重要となる場面は他にもある。「物事にはそれにふさわしい時と場所がある」という警句はユーモアについても当てはまる。ある特定の状況では、例えばユーモアが取るに足りないことに思えるか、あるいは深刻な問題から注意をそらすものであるなら、ユーモアは適切であるとは感じられない。また、ユーモアを「いきなり」受け入れるのも難しい。例えば、朝一番で笑う人はほとんどいない。だから、放送のお笑い番組は1日のうちでくつろげる時間帯に組まれているのである。お笑いの催しものが夜開かれる場合でさえ、観客をそれにふさわしい気分にするために、前座の芸人たちが使われることがよくある。

- ☐ distance A from B 「B から A を遠ざける」
- ☐ old-fashioned 「古臭い」
- ☐ racist 「人種差別主義の」
- ☐ cross a boundary 「境界線を越える」
- ☐ out of date 「時代遅れで」
- ☐ be true of ~ 「～に当てはまる」

- ☐ first thing in the morning 「朝起きてすぐに」
- ☐ broadcast 「放送の」
- ☐ be scheduled for ~ 「～に予定している」
- ☐ relaxing 「くつろがせる」
- ☐ warm-up artist 「前座の芸人」

第④段落

意図的であるかそうでないかは別として、ユーモアにはさまざまな効果がある。ユーモアとは笑いのためだけのものだと言うのは短絡的である。笑っておきながら、ある意味ではおもしろくないと認めることもあり得るのである。背後にある目的がひどく重大なものである場合、ユーモアには、人、制度、あるいは一連の信念といった標的があることもある。ユーモアは、死についての悪趣味な冗談のように、驚くほど深刻な状況において発せられることもある。

- ☐ intentional 「意図的な」
- ☐ in a sense 「ある意味では」
- ☐ institution 「制度」

- ☐ deadly 「ひどく」
- ☐ sick joke 「悪趣味な冗談」

第⑤段落

したがって、笑いはユーモアの必要条件でも十分条件でもないが、常識的な観点から言えば、それは定義のためには有効な出発点なのである。

- ☐ necessary condition 「必要条件」
- ☐ sufficient condition 「十分条件」

- ☐ from a ~ point of view 「～な観点から」
- ☐ commonsense 「常識的な」

和訳問題は採点のポイントをよく考えよう

今回は和訳問題について考えてみましょう。和訳問題の採点ポイントは次の2点です。

- ① 英文の構造が理解できているかどうか
- ② 適切な訳語を選択し、日本語として意味が通じるかどうか

まず、②を見てみましょう。

② 下線部(1)を和訳しなさい。

(1) If you watch your favourite comedy in the presence of people who remain straight-faced,
it can stop you finding it so funny.

解答 もしあなたが、真面目くさった顔をしたままの人たちの面前で自分のお気に入りの喜劇を見た場合、その喜劇をそんなにおもしろいと思わないこともある。

it can stop you finding it so funny の箇所は、「解説」にもあるように、「そのことは、あなたがそれをおもしろいと思うことを妨げることがある」という意味です。主語の it は直前の if 節の内容を指していますので、いわゆる無生物主語構文の英文で、ここに挙げた訳は「直訳」になります。では、この訳文はテストでは何点になるでしょうか。答えは満点です。上に挙げた採点ポイントをもう一度見てください。まず、①のポイントですが、この訳は、stop ~ (from) doing (~ が…するのを妨げる)、find O C (O を C だと思う) という構文上のポイントをクリアしています。では、②のポイントはどうか。指示文に「it の内容を明示しなさい」とはないので、2つの it を「そのこと」、「それ」と訳しても問題はありません。また、訳語の選択も問題なく、この日本語は日本語として十分に通用します。したがって、この答えは満点となるのです。もちろん、**解答**の訳文の方がよりこなれた日本語であることは確かです。しかし、大学入試の和訳問題は訳文の巧拙を競うものではありません。上の2つの基準さえ満たしていれば十分なのです。

しかしながら、稚拙な訳と誤訳は違います。誤訳とは、上に述べた2つの基準のどちらかを満たしていないか、両方を満たしていない訳文です。

例 We should cultivate the love of beauty. (私たちは美しいものを愛する心を養うべきだ。)

the love of beauty を「美の愛」と訳すと減点となるでしょう。ポイントの②を満たしていないからです。これは英語で表されている内容を理解しないで、機械的に英語を日本語に置き換えた結果生じた誤訳と言えます。英文を通じてその内容を理解することが和訳問題でも重要なのです。

▶ 今回のポイント

和訳問題では英文の構造と書かれている内容を理解しているということが伝わる答案を作成するよう心がけよう。

79

① (イ) he takes up a book, he immediately enters a different world ... は「彼が本を手
 取る (イ), すぐに別の世界に入り込み…」という意味。この英文は But で始まってい
 るので、直前文から「逆接」でつながっているとわかる。直前文 (From this prison there is
 no escape.) は「この牢獄から逃れる手段はない。」という意味で、this prison とは、第①段
 落第3～4文より、読書をしない人が日常生活の狭い範囲に閉じこめられている状態だとわ
 かる。したがって、自然な流れにするためには、空所を含む文を、本を手にとることと日常
 生活とは別の世界に入っていくという意味にすればよい。これに最も近い意味を表すように
 するには④の the moment (…するとすぐに) を入れればよい。

- 空所を含む英文 (He will force ... had "read" Hamlet.) は「彼は、ある晩、無理をしてシェークスピアの『ハムレット』を読むが、まるで悪夢から覚めたかのように、『ハムレット』を『読んだことがある』と言うことができる (ウ) を持って離れるだろう。」という意味。主語の He は、第③段落第5文 (He is ... an educated man.) で述べられている「教養を身に付けるために義務的に読書をする人」のことである。そして、そのような読書について、第③段落第4文 (One doesn't read ... reading is gone.) では、all the pleasure of reading is gone (読書の喜びはすべて消えてしまう) と述べられている。したがって、空所に②を入れると自然な流れになる。(→全訳▶3)

- 目的語の The tremendous amount of time (spent on newspapers) が長く、またそれを強調するために文頭に置かれ、O + S + V の語順になっている。
- spent は spend の過去分詞で、on newspapers を伴って、後ろから The tremendous amount of time を修飾している。「新聞に費やされる膨大な時間」という意味になる。
- not reading at all は regard A as B の B に当たる (A は The tremendous ... on newspapers)。reading は動名詞で not は reading を否定している。したがって、regard ~ as not reading at all は「～を少しも読書ではない〔読まないこと〕とみなす」→「～を少しも読書とはみなさない」となる。

採点のポイント

配点 13 点

- ① The tremendous amount of time spent on newspapers I regard as not
(10 点)
- ② reading at all.
(3 点)

- ① The tremendous amount of time spent on newspapers I regard as not 「新聞に費やされる膨大な時間を、私は～とはみなさない」 (10 点)

→ 構文理解

The tremendous amount of time (spent on newspapers) を regard の目的語ととらえていない場合は - 10 点とし、他に誤りがあってもこれ以上の減点はしない。

- (×) 「私が～とみなす新聞」 newspapers と I の間に関係代名詞が省略されているととらえている。
(×) 「私が～とみなす時間」 I の前に time を先行詞とする関係代名詞が省略されているととらえている。
(×) 「時間は～とみなす」 time を主語ととらえている。

→ The tremendous amount of time (2 点)

時間が非常に多いという趣旨の訳であればすべて可。

- (○) 「途方もなく多くの時間」, 「ものすごい量の時間」

→ spent on newspapers (4 点)

spent が time を修飾する過去分詞であることを理解していない場合は - 4 点。

- (○) 「新聞に費やされた」, 「新聞に費やした」, 「新聞に使われた」, 「新聞に使った」
(×) 「新聞に費やすので」, 「新聞に費やされれば」, 「新聞に費やすけれど」
time を修飾する訳になっていない。

→ I regard as not (4 点)

否定表現は「～とはみなさない」でも「～ではないとみなす」でも可。

regard の訳は下記でも可。

- (○) 「みなす」, 「思う」, 「考える」, 「評価する」, 「認める」

- ② reading at all 「まったく読書 (とは)」 (3 点)

→ reading (1 点) (○) 「読書」

→ at all (2 点)

- (○) 「まったく」, 「全然」, 「少しも」など、否定を強調する表現なら可。

4 語句の意味の把握

- ① 「退屈な」 ② 「難しい」 ③ 「いらいらさせる」 ④ 「不可欠な」

insipid は難語であるが、becomes insipid が () に入っていて、has no flavor (味わいがない) の「補足」になっている。したがって、insipid を①の意味でとらえると、has no flavor と becomes insipid がほぼ同義になる。insipid は「味の無い；退屈な」という意味。

5 内容の把握

下線部(3) the art of reading は「読書術」という意味。下線部(3)を含む英文のある第④段落は、まず第1文(The best formula ... Su Tungp'o.)で、読書の目的を表す最も素晴らしい基本原則は、黄山谷によって述べられているとされ、第3文(What he means, ... called an art.)で「彼(=黄山谷)が言いたいのは、読書は人にある魅力や味わいをもたらしてくれ、そのことが読書の目的のすべてであること、そしてこの目的を持った読書だけが術と呼ぶことができるということである」と述べられている。要するに、①読書は読む人に何らかの魅力や味わいをもたらしてくれる、②それを目的とした読書法が読書術である、とされているのである。したがって、この2点を制限字数以内でまとめればよい。

採点のポイント

配点 8点

- ① 読書は読む人に何らかの魅力や味わいをもたらしてくれる (6点)
- ② それを目的とした読書法 (2点)

→ 要点理解

①が必須ポイントなので、これが欠落しているか内容を読み誤っている場合には採点対象外、つまり0点とする。

(×)「教養のある人間になることを目的として行う読書の方法。」①の誤読のため採点対象外。

① 読む人に何らかの魅力や味わいをもたらすこと (6点)

「魅力 (charm)」や「味わい (flavor)」に相当する表現があり、それが身に付くという趣旨のことが書いてあれば可。「魅力」と「味わい」はどちらか一方でも可。

(○)「読む人を魅力的にすること」、「読む人に何らかの魅力や味を与えること」、「本を読んで魅力的な人間になること」

② (それを) 目的とした読書法 (2点)

「目的」と「読書法」に相当する表現があれば可。

(○)「(～を) 目指した読書術」、「(～の) ための読書法」

→ 文末表現・字数制限 (全体から減点)

(×) 文末が「読書法」、「読書の方法」、「読書 (の技) 術」、「読書の仕方」以外のもの (－1点)

(×) 24字以下、36字以上のもの (－3点)

6 内容の把握

- ①○「良書を読むことの利益の1つは、著者が悲しみや悩み、それに失望という感情を持っていることを知ることである。」

第①段落第7文 (This talker leads ... knows nothing about.) の unburdens to him some of his personal regrets の内容に一致する。

- ②×「×いわゆる古典的作品を読んでもむだである。というのは、×それは実用的な知識を私たちに与えてくれないからである。」

第①段落第8文 (An ancient author ... he was.) に、「大昔の著述家は、遠い昔に死んだ人の魂と心を通わせてくれる」と述べられている。また、for 以下に相当する記述は本文にない。

- ③○「読者は、本が物理的な事柄に関するものであったとしても、そこに書いてあることと間接的な関係しか持っていない。」

第②段落第3文 (Even if it ... a detached spectator.) に、ある本が物理的な事柄に関するものだとしても、その出来事を直接経験することと読書は異なると述べられており、その理由として、「本で読む場合には、その出来事は常に見世物という性質を帯び、読者は一步距離を置いた観客になるからである」(for then ... a detached spectator) と述べられている。これは出来事に対して読者が間接的な関わりを持つということなので、この選択肢は本文の内容に一致する。no more than ~ 「～しか (= only)」

- ④×「真の読者とは × 高度な教養を身に付けるためにだけ読書をする人 のことである。」

第③段落第4～6文 (One doesn't read ... never become educated.) に、教養を身に付けるための読書はおもしろくないし、教養も身に付かないと述べられている。

- ⑤×「真の読書と呼ぶことができるのは、× 仕事の助言や情報を得ることを目的とした読書 である。」

第④段落第9～10文 (This type of ... reading at all.) で、仕事上の目的を持った読書について「仕事の助言や情報を求めることであり、まったく読書ではない」と述べている。

全訳 英文内容をチェック

第①段落

読書、すなわち本を楽しむことは教養ある生活の持つ魅力の1つであると常に考えられてきたし、その特権をめったに得られない人々によって尊重され、うらやましがられている。このことは、本をまったく読まない人の生活と本を読む人の生活の違いを比べてみると容易に理解できる。読書の習慣がない人は、時間的にも空間的にも、目の前の世界に閉じ込められているのである。その人の生活は型にはまった日常生活に陥る。つまり、彼はわずかな友人や知人と接触したり会話をしたりするだけであり、ごく近くで起こることを目にするだけである。この牢獄から逃れる手段はない。しかし、こうした人が本を手にしたとたんすぐに別の世界に入り込み、もしそれが良書であれば、ただちに世界の最もすぐれた語り手の1人とふれることになる。▶¹ この語り手は、彼を異なる国や時代に導き連れて行ってくれるし、彼に自分の後悔を打ち明けたり、読者がまったく知らない人生についての特別な考え方やその側面について議論してくれたりする。大昔の著述家によって、彼は遠い昔に死んだ人の魂と心を通わせ、読み進むにつれて、彼はその大昔の著述家がどんな風貌をしていたのか、どんなタイプの人であったのかを想像し始める。孟子と中国で最も偉大な歴史家である司馬遷は2人とも同様の考えを述べていた。▶² さて、12時間のうち2時間を別の世界で暮らし、今要求されていることから自分の思考を切り離すことができるのは、もちろん、自分の肉体の牢獄に閉じ込められている人にうらやましく思われる特権である。そのような環境の変化は、心理的な効果において、旅と実によく似ている。

▶1 (第7文) and と or による接続 / 共通関係 / 前置詞の目的語になる関係代名詞

This talker leads him on
and
carries him } (into a different country or a different age),
leads him on と carries him の両方につながる

or
unburdens (to him) some of his personal regrets,
O (unburdens の O が後置されている)

or
discusses (with him) some special line or aspect of life
O (discusses の O が後置されている)
[that the reader knows nothing about].
that は about の目的語になる関係代名詞

・主語は This talker で、動詞は leads, carries, unburdens, discusses が and と or で接続されている。unburden O to ~ 「O を～に打ち明ける」 discuss O with ~ 「O について～と議論する」

▶2 (第10文) 長い主語 / 形容詞用法の不定詞 / 過去分詞による後置修飾

Now (to be able to live two hours out of twelve in a different world and
S
(to be able to) take one's thoughts off the claims of the immediate present) is,
V

(of course), a privilege to be envied by people shut up in their bodily prison.
C ↑ 形容詞用法 ↑ 過去分詞による後置修飾

- ☐ cultured 「教養のある」
- ☐ envy 「～をうらやむ」
- ☐ compare the difference between A and B 「A と B の違いを比べる」
- ☐ imprison 「～を閉じ込める」
- ☐ immediate 「すぐそばの」
- ☐ in respect to [of] ～ 「～に関して」
- ☐ limit A to B 「A を B に限る」
- ☐ acquaintance 「知人」
- ☐ escape 「逃れる手段, 逃亡」
- ☐ immediately 「ただちに」

- ☐ put A in touch with B 「A を B とふれさせる」
- ☐ regret 「後悔; 悲しみ」
- ☐ aspect 「側面」
- ☐ ancient 「大昔の」
- ☐ communion 「心の交流」
- ☐ take one's thoughts off ～ 「～から '人' の注意をそらす」
- ☐ claim 「要求」
- ☐ the present 「現在」
- ☐ shut up ～ 「～を閉じ込める」
- ☐ psychological 「心理的な」

第2段落

しかし、読書にはこれ以上のものがある。読者は常に思索と熟考の世界に引き込まれる。たとえそれが物理的な事柄に関する本だとしても、そういった出来事をじかに見たり経験したりすることと、それらについて本で読むこととの間には違いがある。というのは、本で読む場合には、その出来事は常に見世物という性質を帯び、読者は一步距離を置いた観客になるからである。したがって、最良の読書とは、私たちをじっくり物を考える気分にさせるものであり、出来事の報告だけで占められているものではない。新聞に費やされる膨大な時間を、私はまったく読書とはみなさない。というのは、新聞の普通の読者は主に、じっくり考える価値がない出来事や事件についての報告を得ることに関心があるからである。

- ☐ reflection 「熟考」
- ☐ physical event 「物理的な事柄」
- ☐ in person 「じかに、みずから」
- ☐ live through ～ 「～を経験する」
- ☐ assume 「～（性質など）を帯びる」
- ☐ spectacle 「見世物」
- ☐ detached 「一歩距離を置いた」

- ☐ spectator 「観客」
- ☐ contemplative 「熟考する」
- ☐ mood 「気分」
- ☐ average 「普通の、平均的な」
- ☐ be concerned with ～ 「～に関心がある」
- ☐ happening 「事件、出来事」

第③段落

私の考えでは、読書の目的を表す最も素晴らしい基本原則は、宋代の詩人で蘇東坡の友人である黄山谷によって述べられたものである。彼は、「3日間何も読んでいない文人は、自分の話にまったく味わいがなく（退屈なものになり）、自分の顔を（鏡で）見るのが嫌になる」と言った。もちろん彼が言いたいのは、読書は人にある魅力や味わいをもたらしめてくれ、そのことが読書の目的のすべてであること、そしてこの目的を持った読書だけを術と呼ぶことができるということである。人は「知性を磨く」ために読書をするのではない。なぜなら、知性を磨こうと考え始めると、読書の喜びはすべて消えてしまうからである。そういった人は、「教養のある人になることができるように、シェークスピアを読まなければならない、ソフォクレスを読まなければならない、『エリオット博士の5フィートの本棚』をすべて読まなければならない」と心の中で考えるようなタイプの人である。私は、こうした人は決して教養が身に付くことはないと確信している。▶³ 彼は、ある晩、無理をしてシェークスピアの『ハムレット』を読むが、まるで悪夢から覚めたかのように、『ハムレット』を「読んだことがある」と言うことができる程度の取るに足りない成果しか持たないで離れるだろう。義務感を持って本を読む人は誰であれ、読書術を理解していないのである。仕事上の目的を伴うこの種の読書は、上院議員が演説をする前に資料や報告書を読んで調べることに少しも違わないのである。それは、仕事の助言や情報を求めることであり、まったく読書ではないのである。

▶³ (第7文) as if 節中での省略 / 〈no + 比較級 + than ～〉

He will force himself one evening to read Shakespeare's *Hamlet* and come away,
force oneself to do 「無理に…する」 「去る」

as if (he came away) from a bad dream, with no greater benefit than that he is
as if 節（仮定法過去）の中で S + V が省略されている no + 比較級 + than ～

able to say that he had “read” *Hamlet*.

・ no greater benefit than ～ は 〈no + 比較級 + than ～〉 の構文で、no が比較級を強く否定し「～よりも大きな利益では少しもない」→「～程度の取るに足りない利益」という意味になる。

Ex. This fish is *no bigger than* a thumb. (この魚は親指ほどの大きさしかない。)

- ☐ formula 「基本原則；解決法、秘訣」
- ☐ scholar 「（人文系の）学者」
- ☐ hateful 「不愉快な」
- ☐ art 「術」
- ☐ improve one's mind 「知性を磨く」
- ☐ be gone 「消える」

- ☐ educated 「教養のある」
- ☐ obligation 「義務」
- ☐ in no way … 「少しも…ない」
- ☐ senator 「上院議員」
- ☐ read up on ～ 「～について読んで調べる」
- ☐ ask for ～ 「～を求める」

MEMO

Unit 3

11 科学を正しく導くためになすべきこと

問題編 p.37

科学の進歩を止めることはできないので、それを正しい方向に導くために一般の人たちは科学についての基礎知識を身につけるべきである。

● 解答 正しい
答え をチェック

- 1 ②
 2 (A) ③ (B) ① (C) ②
 3 (1) the public (2) science
 4 この興味を利用して一般の人々に、酸性雨、温室効果、核兵器、遺伝子工学のような話題について、情報に基づく決定を行うのに必要な科学の背景知識を与えるために何ができるのであろうか。
 5 文明は私たちの段階に達すると自滅する傾向があるということ。(29字)
 6 ① ○ ② × ③ ○ ④ ×

● 解説 考え方 をチェック

1 文脈の把握

- ①「～を促進する」 ②「～を止める」 ③「～に適応する」 ④「～を利用する」

空所を含む英文は「この変化を（ ア ），もっと純粋でもっと単純だと考えられている世界に戻りたいと思う人たちがいる。」という意味。「この変化」とは、直前文より、「私たちが住んでいる世界の変化」だとわかる。空所を含む英文の and 以下は、以前の世界に戻るという内容であり、（ ア ）these changes から「順接」でつながっているので、空所に②を入れると文意が成り立つ。

2 語句の意味の把握

- (A) ①「非科学的方法論と価値観を拒否する精神」
 ②「蓄積された情報に繰り返し疑いを持つ精神」
 ③「未知のことを熱心に研究したいと思う人たち」
 ④「脳の機能とはたらきを研究する人たち」

inquiring は「探究心のある」という意味の形容詞。mind には「(知性の持ち主としての)人間」という意味があり、inquiring minds で「探究心のある人たち」という意味になる。これに最も近いものは③である。下線部を含む英文は、basic science (基礎科学) について考える人たちのことを述べており、特に脳の研究に従事している人について言及しているわけではないので、④は不可。

Unit 1
1
Unit 1
2
Unit 1
3
Unit 1
4
Unit 1
5
Unit 2
6
Unit 2
7
Unit 2
8
Unit 2
9
Unit 2
10
Unit 3
11
Unit 3
12
Unit 3
13
Unit 3
14
Unit 3
15

- (B) ①「相反する」 ②「一貫した」 ③「楽観的な」 ④「悲観的な」

ambivalent は「(感情・性質・態度などが) 相反する」という意味なので、①が正解。下線部を含む英文の直後の文 (It has come ... doesn't understand it.) で、a rather ambivalent attitude toward science の具体的な内容が述べられており、一般の人たちは、一方で科学技術の発展の成果である生活水準の向上を歓迎するとともに、他方では科学に不信感を持っていると述べられているので、下線部に①を代入しても自然な流れになるとわかる。

- (C) ①「～を適用する」 ②「～を伝える」 ③「～を編集する」 ④「～を公表する」

put across ～は「～(考え・計画など) を伝える」という意味なので、②が正解。下線部を含む英文の直前文 (But the rate ... or university.) では、科学の進歩が非常に速いので、学生時代に学んだことより新しい発展が常にあるということが述べられている。したがって、下線部に②を代入しても、Popular books ... new developments は、一般大衆向けの本や雑誌の科学記事が、その新しい発展を伝える助けになり得る、という自然な流れになる。

3 内容の把握

下線部(1)、(2)を含む英文の直前文 (At the moment ... attitude toward science.) では、the public (一般の人たち) が「科学に対してかなり相反する考えを持っている」ということが述べられ、下線部(1)、(2)を含む英文はそれの具体的な展開になっている。まず、It has come to ... to continue の It は単数扱いの the public を受けており、一般の人たちが科学に期待しているということが述べられている。これが「相反する考え」のうちの一方の考えである。but 以下は、「相反する考え」のもう一方の考えについて述べていて、it also distrusts science (科学に対する不信感を持っている) と述べられている。したがって、この it も the public を受けている。because 以下は、「一般の人たちが科学に対する不信感を持っている」理由について述べているので、下線部(1)の it は the public、下線部(2)の it は science を受けていると考えれば「一般の人たちは科学を理解していないので」という意味になり、文意が成立する。

4 文構造の把握

図解

What can be done (to make use of this interest and give the public
S V
the scientific background) ((that) it needs to make informed decisions on
O S V
subjects (like acid rain, the greenhouse effect, nuclear weapons, and genetic engineering))?

語句 ・ make use of ～「～を利用する」 ・ background「背景的情報」 ・ informed decision「情報に基づく決定」 ・ subject「話題」 ・ acid rain「酸性雨」 ・ greenhouse effect「温室効果」 ・ nuclear weapon「核兵器」 ・ genetic engineering「遺伝子工学」

- What can be done ...? (何がなされ得るか) が文の基本部分。
- to make ... the scientific background は副詞用法の不定詞 (目的) で、「…するために」という意味。and は不定詞の make と give を接続している。
- the scientific background と it の間に needs の目的語になる関係代名詞 that [which] が省略されている。to make informed decisions ... は副詞用法の不定詞 (目的) で、「…するために」という意味。like は「～のような」という意味の前置詞で、like acid rain ... genetic engineering が subjects を修飾している。

5 内容の把握

下線部(4)を含む英文は「しかし私は、一般の人たちの良識を十分信頼しているので、私たちはこれが間違っていると証明できるだろうと信じている。」という意味。要するに、this は「間違っていると証明できる」事柄であり、しかも、それは一般の人たちに良識があるということが根拠になっている。この2点を手がかりにして直前の文 (There's a black joke ... reach our stage.) を見ると、civilizations tend to destroy themselves when they reach our stage (文明は私たちの段階に達すると自滅する傾向がある) と述べられているので、この箇所をまとめればよい。

答案作成上のポイント

上に指摘した箇所をそのまま全訳しても制限字数以内に収まるので、答案作成上で特に工夫すべき点はない。ただし、「…というブラックジョーク」として、直前文の a black joke ... reach our stage を解答の内容とした場合は、大きく減点される可能性がある。というのは、ジョークは間違っていることを証明すべき事柄ではなく、まして、一般の人々の良識を根拠にして証明すべき事柄ではないからである。なお、this の具体的な内容をたずねられているので、文末は「…ということ」とすること。

6 内容の把握

- ①○「歴史は私たちに、過去は一般の人たちにとってそれほど素晴らしいものではなかったということを示しているが、それは、彼らにとっては、人生が多くの点で容易なものではなかったからである。」

第①段落第3文 (But as history ... that wonderful.) 及び、第5文 (However, for the vast ... harsh, and short.) の内容と一致する。

- ②×「科学と技術は人類のために進歩することになっているので、私たちは科学についての知識をいくらか身に付け、残りは専門家に任せればよい。」

第②段落第2文 (In a democratic society ... hands of experts.) で、一般の人たちは、専門家の手に決定を委ねないようにするために、科学について基本的な理解を持つ必要があると述べられている。be destined to do 「…するように運命づけられている」

- ③○「テレビには、一般の人たちに科学の発展について知らせるという大きな責任がある。なぜなら、テレビは最も多くの人々の目に触れることができ、また科学には常に何らかの新しい進歩があるからである。」

第⑥段落第2文 (But the rate ... school or university.), 第4～5文 (Only television can ... just entertain it.) の内容と一致する。reach out to「～に接触する；～に働きかける」

- ④×「私たちは、すべての政府がもっと簡単に核兵器を廃棄できるように、それを削減することについて情報に基づく決定を下すべきだ。」

第⑥段落では、核兵器の危険性とその削減について述べられているが、この選択肢で述べられているような内容には言及されていない。abolish「～を廃止する、撤廃する」

全訳 英文内容をチェック

第1段落

▶1 好むと好まざるとにかかわらず、私たちが生きている世界はこの100年で大きく変化し、次の100年ではさらに大きく変化しそうである。この変化を止めて、もっと純粋でもっと単純だと考えられている世界に戻りたいと思う人たちがいる。しかし、歴史が示すように、過去はそれほど素晴らしいものではなかった。特権のある少数の人たちにとっては、過去はそれほど悪くはなかった。もっとも、彼らにいたところで現代の医学なしでやっていかなければならなかったし、女性にとって出産は非常に危険なものであったのだが。しかしながら、大多数の人にとっては、人生は不快で、厳しく、短いものであった。

▶1 (第1文) 譲歩の副詞節 / 関係代名詞の省略 / 比較対象の省略

[Whether we like it or not], the world [(that) we live in] has changed a great
whether ... or not S ↑ V

「…であろうとなかろうと」

in の目的語になる関係代名詞の省略

deal in the last hundred years, and it is likely to change even more in the next hundred.

比較対象 (than in the last hundred years) が省略されている

- ☐ see A as B 「AをBとみなす」
☐ that 「(形容詞・副詞を修飾して) それほど」
☐ privileged 「特権的な」
☐ minority 「少数 (の者)」
☐ do without 「～なしでやっていく」

- ☐ majority 「大多数 (の人々)」
☐ the population 「人々」
☐ nasty 「不快な」
☐ harsh 「厳しい」

第2段落

いずれにせよ、望んだところで、時計の針を昔に戻すことはできないだろう。知識と技術を忘れることなどできない。将来のさらなる進歩を妨げることもできない。さらに、探究心のある人たちが、それによって報われるか報われないかに関わりなく、基礎科学について考えることをやめさせることはできない。

- ☐ prevent 「～を妨げる」
☐ advance 「進歩」

- ☐ stop ~ (from) doing 「～が…するのをやめさせる」

第③段落

科学と技術が世界を変えることを止められないということを認めるとしても、少なくとも私たちは科学と技術がもたらす変化が確実に正しい方向に向いているようにしようとすることはできる。民主主義社会では、このことは、一般の人たちが情報に基づく決定を下すことができ、専門家の手に決定を委ねないようにするために、科学について基本的な理解を持つ必要があるということの意味する。今のところ、一般の人たちは科学に対してかなり相反する考えを持っている。▶² 彼らは科学と技術の新しい発展がもたらした生活水準の着実な上昇が続くことを期待するようになったが、また科学を理解していないために科学に対する不信感を持っているのである。しかし、一般の人たちはまた、科学、特に天文学に大いに興味を持ってゐる。

▶2 (第4文) 長い目的語

It has come to expect (the steady increase (in the standard of living)

= the public

(that new developments (in science and technology) have brought)) to continue, ...

O

S

V

・ expect ~ to do (～が…することを期待する) の～(目的語) が the steady increase ... have brought.

☐ **prevent ~ from doing** 「～が…するのをやめさせる」

☐ **ensure that ...** 「確実に…するようにする」

☐ the public 「一般の人たち」

☐ at the moment 「今のところ、目下」

☐ **come to do** 「…するようになる」 do は状態動詞

☐ **steady** 「着実な」

☐ standard of living 「生活水準 (=living standard)」

☐ distrust 「～を信用しない」

☐ astronomy 「天文学」

第④段落

この興味を利用して一般の人たちに、酸性雨、温室効果、核兵器、遺伝子工学のような話題について、情報に基づく決定を行うのに必要な科学の背景知識を与えるために何ができるのだろうか。明らかに、その基礎は学校で教えられることにあるに違いない。

☐ lie in ~ 「(事実・原因・関心などが) ~にある」

第⑤段落

人々が学校で学ぶ理科は基礎的な枠組みを与えてくれる。しかし、現在は科学の進歩の速度がとても速いので、小・中・高校生や大学生であった頃以降に生じた新しい発展が常にある。科学に関する一般大衆向けの本や雑誌の記事は、新しい発展を伝える助けになり得るが、最も成功した一般大衆向けの本でさえ、ごくわずかの割合の人々によってしか読まれていないのである。本当に多くの視聴者の目に触れることができるのはテレビだけである。テレビ番組の制作者は、一般の人たちを楽しませるだけではなく、彼らを教育する責任があることをはっきり理解すべきである。

☐ **framework** 「枠組み」

☐ **rate** 「速度；割合」

☐ popular 「一般大衆向けの」

☐ **article** 「記事」

☐ **proportion** 「割合」

☐ **realize that ...** 「…ということを(はっきり)理解する」

☐ **responsibility** 「責任」

第6段落

一般の人たちが近い将来に決断を下さなければならない科学に関連した問題は何だろうか。すばぬけて緊急性の高いものは、核兵器の問題である。食料供給とか温室効果といった他の地球規模の問題は影響が比較的ゆっくり現れるが、核戦争が起これば数日以内に地球上の全人類の生命が終わることになる可能性があるだろう。一般の人たちがその危険をはっきり理解し、すべての政府に大規模な軍縮に同意するよう圧力をかけることが極めて重要である。核兵器を完全に排除することはおそらく現実的ではないが、兵器の数を削減することによってその危険を軽減することはできる。

- ☐ science-related 「科学に関連した」
- ☐ urgent 「緊急の」
- ☐ global 「地球上の；全世界的な」
- ☐ slow-acting 「遅効性の；ゆっくりと働く」

- ☐ put pressure on ~ to do 「～に…するよう圧力をかける」
- ☐ arms cut 「軍縮」
- ☐ practical 「現実的な」

第7段落

もし私たちが核戦争を何とか避けることができるとしても、私たちすべてを滅ぼす可能性のある危険が他にもまだ存在している。地球外文明が私たちの所へやってきたことがない理由は、文明が私たちの段階に達すると自滅する傾向があるからだというブラックスジョークがある。しかし私は、一般の人たちの良識を十分信頼しているので、私たちはこれが間違っていると証明できるだろうと信じている。

- ☐ manage to do 「何とか…する」
- ☐ alien 「地球以外の；異星人の」
- ☐ sufficient 「十分な」

- ☐ faith in ~ 「～への信頼」
- ☐ good sense 「良識」
- ☐ prove O C 「OをCだと証明する」

読解 PLUS+ ONE 出題ポイントを押さえよう

内容一致問題は「変幻自在」の問題形式

p.72 の読解 PLUS+ ONE では、内容一致問題について、主に正解の数に着目して考えてみましたが、再度、出題者の視点から内容一致問題について考えてみましょう。

他の出題形式（空所補充問題、語句・文整序問題、和訳問題など）の場合、1つの英文中で出題できる箇所はかなり限定されています。例えば空所補充問題の場合、本文中に正解の手がかりがまったくない箇所を空所にすると誰も解答できなくなります。それに対し、内容一致問題の場合は選択肢を○にするか×にするかは出題者の側で調整が可能です。今回はどのようにして内容一致問題の選択肢を作り上げるのかという点について見ていきますので、皆さんはこの問題形式に対処するためにどのようなことに注意すればよいか、考えてみてください。

● 本文の内容に一致する選択肢

まず、○の選択肢を作成する場合の代表的な方法としては以下のようなものがあります。

① 同意の他の語句を用いて言い換える

例えば、本文で regard A as B が用いられていれば、選択肢では see A as B / think of A as B / look on A as B などが用いられます。単語・熟語を覚える時は同意表現もまとめて覚えてください。

② 文法・構文を用いて言い換える

この場合、よくねらわれるのは**比較構文**です。本文で最上級で述べられている内容を比較級や as ... as 構文を用いて言い換えたり、not as [so] ... as ~を less ... than ~で言い換えたりします。仮定法⇨直説法の書き換えもよく利用されます。無生物主語構文もよく利用されます。

③ 本文の英文を組み合わせる

1つの英文を言い換えるのが難しい場合、本文で用いられている英文をほぼそのまま複数組み合わせで正解の選択肢にするという方法もよく用いられます。

● 本文の内容に一致しない、または本文にない選択肢

×の選択肢ですが、上に述べたことを少し変えるだけで×の選択肢になるものもたくさんあります。例えば not as [so] ... as ~を more ... than ~とすれば簡単に×の選択肢になりますし、比較級や倍数表現の場合、比較対象を入れ替えれば×になります。しかし、最も手っ取り早い方法は**本文で肯定的に述べられていることを否定すること**です。(もちろん、逆もあります。)あるいは本文で用いられている語の反意語や、doubt と suspect など、まぎらわしい語句の使い分けなどもよく利用されます。また、本文中の複数の箇所の表現を組み合わせ、全体としては本文の内容には合致しない選択肢としたのが、「本文に記述なし」です。

最後に**6**を取り上げて内容一致問題の選択肢をチェックしておきましょう。

6 次の各文のうち、本文の内容に一致するものに○、一致しないものに×をつけなさい。

- ① History tells us that the past was not so wonderful for people in general, since for them life was not easy in many ways.
- ② Since science and technology are destined to make progress for mankind, all we have to do is to gain some knowledge of science and leave the rest to experts.
- ③ Television has a great responsibility to let the public know about scientific developments, because television can reach out to the greatest number of people and there is always some new progress in science.
- ④ We should make informed decisions on reducing nuclear weapons so that all governments can more easily abolish those weapons.

解答 ① ○ ② × ③ ○ ④ ×

①と③は本文の複数の箇所を組み合わせで○にしています。②は本文で否定されている事柄を肯定することによって本文と逆の内容にしています。④は「本文に記述なし」の選択肢です。

▶ 今回のポイント

単語・熟語を覚える時は同意語・反意語も含めて覚えよう。また、文単位でも同意表現をよく覚えよう。

12 祖父の最後の贈り物

問題編 p.40

人には惜しみなく愛情を注ぎながら、人からの贈り物を受け取るのが苦手だった筆者の祖父が、筆者に最後にくれた贈り物とは？

● 解答 正しい
答え をチェック

1 (A) ④ (B) ①

2 ア ⑤ イ ② ウ ③ エ ① オ ④ カ ⑥

3 祖父はひげをそっておらず、鼻に管を入れたまま椅子の上で座り直した。

4 筆者が亡くなった祖父に贈ったキーホルダーを祖父がずっと使っていたことがわかったから。(42字)

5 ① ○ ② × ③ × ④ ○

● 解説 考え方 をチェック

1 語句の意味の把握

(A) ①「義務」 ②「(電話の) 通話」 ③「声」 ④「天職」

calling は「天職」という意味。したがって、④が正解。

(B) ①「(儀式) に参列した」 ②「(会など) を催した」

③「(機会) を逃した」 ④「(業務など) を行った」

show up for ～は「～に姿を見せる」という意味。したがって、①が正解。

2 文脈の把握

①「身なりは彼にとっては常に大事なことだった」

②「彼の鍵はポケットかどこか私の見えないところにあった」

③「私は喜んでその仕事を引き受けた」

④「私が彼を車で迎えに行く必要があるだろう」

⑤「それは彼の流儀にすぎなかった」

⑥「私は心を引き裂かれた」

ア 空所の直前の英文 (One can only ... set it aside.) では、筆者が祖父にクリスマスプレゼントを渡した時の祖父の受け取り方についてがっかりしたと述べられている。また、空所の直後では、筆者は幼すぎて、あらゆるプレゼントが、必ずしもお祝いの手段にならないのはなぜかということが理解できなかった、ということが述べられている。これは空所と but でつながれ、空所の内容に対する「逆接」になっているので、⑤を入れて、大人になった現在では祖父の流儀が理解できるが、当時は理解できなかったという流れにする。

イ 空所を含む英文は「しかし、見るたびに (イ)」という意味。直前の英文 (But I always ...

Unit 1
1
Unit 1
2
Unit 1
3
Unit 1
4
Unit 1
5
Unit 2
6
Unit 2
7
Unit 2
8
Unit 2
9
Unit 2
10
Unit 3
11
Unit 3
12
Unit 3
13
Unit 3
14
Unit 3
15

for my brothers.) では、祖父が筆者の家に来るといつも筆者は、**自分が祖父に贈ったキーホルダーを祖父が持っていないかと探した**、ということが述べられている。空所を含む英文はこれに対する**「逆接」**になっているので、空所に②を入れると自然な流れになる。

(ウ) 空所の直前の英文 (My father asked ... working then.) では、筆者の父親が筆者に、健康状態の衰えた祖父の体力回復の手伝いをできるかどうかをたずねたということが述べられている。したがって、空所には、**これに対する筆者の返答**を表す③を入れると自然な流れになる。

(エ) 空所の直前の since に注目すると、空所は主節 (I had never ... such shoddy clothing) で述べられていることの**「理由」**を表す内容であるとわかる。主節部分は「私は祖父がひげもそらず、あんなにみすぼらしい服を着ているのを見たことがなかった」という意味なので、空所に①を入れると文意が成り立つ。

(オ) 空所は祖父が筆者に語った内容であり、ダッシュの直後の since he could not drive (彼 (= 祖父) はもう運転ができないので) がその**「理由」**になっている。また、and の直後の that I should use his car (私が彼 (= 祖父) の車を使うように) も tell の目的語で、祖父の語った内容であることをも考慮すると、空所に④を入れると文意が成立する。(→全訳▶4)

(カ) 空所の直前の英文 (Then he said ... when I die.) を見ると、筆者の祖父が「私が死んだら車はお前 (= 筆者) が持っているように」と言った、と述べられている。また、空所の直後では「祖父のいない生活など想像もつかなかった。」と述べられているので、**祖父が亡くなることを想像した時の筆者の悲しみ**について言及している⑥を空所に入れると自然な流れになる。なお⑥は空所(カ)に入れても不自然ではないが、⑤は空所(カ)以外には入らないので、空所(カ)の解答が⑤であることが確認できる。

3 文構造の把握

図解

Grandpa sat up in his chair (with a tube in his nose), (unshaven).
 S V with + (代) 名詞 + 前置詞句 分詞構文

語句 ・ sit up 「背筋を伸ばしてきちんと座る」 ・ unshaven 「ひげをそっていない」

- Grandpa sat up in his chair は、筆者が病室に入って来たのを見て、「椅子の上できちんと座った」ということなので「椅子の上で座り直した」と訳すとよい。
- with a tube in his nose は、付帯状況を表す〈with + A ((代) 名詞) + X〉(A が X である状態で) のパターン。A = a tube, X = in his nose なので、「管が鼻の中に入った状態で」→「鼻に管を入れたまま」となる。
- unshaven は being unshaven の being が省略された分詞構文で、付帯状況を表す。訳す時は、with a tube in his nose より前に出す方が日本語としては自然な流れになる。

4 内容の把握

下線部(2)は第⑧段落第3文中の an old gray key chain (古い灰色のキーホルダー) を指して

Unit 1	1
Unit 1	2
Unit 1	3
Unit 1	4
Unit 1	5
Unit 2	6
Unit 2	7
Unit 2	8
Unit 2	9
Unit 2	10
Unit 3	11
Unit 3	12
Unit 3	13
Unit 3	14
Unit 3	15

おり、次の第4文（If you looked ... “Grandpa” used to be.）で述べられていることから判断すると、それは第③段落第4～5文（But Grandpa’s I bought. ... said “Grandpa”.）で述べられている、筆者が初めて祖父に贈ったものだとわかる。筆者が祖父に贈ったものがなぜ「祖父が筆者にあげた贈り物」になるのかを考える。第⑤段落第7文（One can only ... set it aside.）を見ると、筆者が祖父にキーホルダーを贈った時の祖父の態度がとても素っ気なく、そのことに筆者ががっかりしたと述べられている。また、第④段落では、その後も祖父がそのキーホルダーを使っている様子がなかったと述べられている。しかし、第⑥段落最終文（In his hand ... gray key chain.）で、筆者は、祖父がそのキーホルダーを亡くなるまで使っていたことを知るのである。以上のことより、筆者にはキーホルダーが祖父からの贈り物のように思われたのである。

答案作成上のポイント

いわば行間を読んで解答を導くタイプの問題であり、本文の一定の箇所を抜き出して書くタイプの問題ではないので、関係している箇所をうまくまとめる工夫が必要。解答に盛り込むべき必須ポイントは、①祖父に贈ったキーホルダー、②祖父がずっと使っていた、の2点。なお、「理由」をたずねられているので、文末は「…から」とか「…ので」とすること。

5 内容の把握

- ①○「筆者は、自分の祖父が町のほとんどの人たちを大変よく知っていたということは注目すべきことだと考えている。」 第①段落第2文（His knowledge ... was really great.）の内容に一致する。
- ②×「筆者の祖父は、自分が周りの人たちに親切にしたことに対して、彼らが感謝の気持ちを表さなかった時には、よく不平を言っていた。」

第①段落第3文（Growing up ... being returned.）に、筆者の祖父は愛情に対するお返しなどまったく必要とせずに、周りの人たちに愛情を差し出した、と述べられている。

- ③×「筆者はクリスマスプレゼントとして祖父に、手作りのキーホルダーを贈った。」

第④段落第3～5文（Most of my gifts ... simply said “Grandpa”.）に、筆者のプレゼントは大半が手作りであったが、祖父のプレゼントは購入した、と述べられている。（→全訳▶3）

- ④○「筆者の祖父は、自分が死んだあとは筆者に自分の車を保有するようと言って、その夜亡くなった。」

第⑥段落第7文（Then he said ...when I die.”.）及び第⑦段落第2文（He became unconscious ... later that night.）の内容に一致する。

全訳 英文内容をチェック

第①段落

祖父のルイは、私の幼い目で見た中で本当に最も立派で最もよく知られた人物だった。祖父は町のほとんどすべての人を知っていたが、それはたいしたものだった。▶¹ 成長するにつれ、私は、祖父があらゆる質問に参考資料、知性、裏づけをもって答え、愛情に対するお返しなどまったく必要とせずに、すべての人一人ひとりに無理にでも愛情を差し出す姿を見た。彼は、50年近くもボランティアとして熱心に子供たちの指導に努めた。人を愛することは間違いなく祖父の天職だった。

▶1 (第3文) 分詞構文 / 〈知覚動詞 + O + do〉 / and による接続 / 動名詞の意味上の主語

(Growing up), I watched him
 分詞構文 S V (知覚動詞) O
 「成長するにつれて」

answer every question (with references, intellect and backing)

and thrust his love upon each and every person

〈知覚動詞 + O + do〉の2つのdoがandでつながれている

(without any need of the love being returned).

意味上の主語 受動態の動名詞

- ☐ positively 「本当に」
☐ reference 「参考文献」

- ☐ backing 「裏打ち」
☐ thrust A (up) on B 「AをBに押しつける」

第②段落

しかし、祖父のルイは愛情を返してもらうことになる、自分が人にしたようにはできず、お礼であれ何かの贈答の行事であれ、贈り物をもらってもうまく受け取れないことがよくあった。

- ☐ occasion 「行事；機会」 | ☐ have trouble (in) doing 「…するのに苦労する」

第③段落

私がまだとても幼かった頃のあるクリスマスに、私は家族の一人ひとりに贈り物をできるようになりたいと強く思った。▶2 年が年だったので、私は自分のお金などたいして持っていなかった。プレゼントはほとんど手作りだった。しかし、▶3 祖父のは買った。それは赤色のつやのあるキーホルダーで、「おじいちゃん」とだけ書いてあった。そのごくささやかなプレゼントに使ったお金が多かったか少なかったかを私は覚えていないが、私はとても誇らしかった。祖父があの特徴な半ばしかめ面をしてそれを開き、私に向かってうなずき、それからそれを脇に置いた時に私がどれだけがっかりしたかは想像してもらうしかない。それは彼の流儀にすぎなかったのだが、あらゆるプレゼントが必ずしもお祝いの手段になるとは限らないのはどうしてなのかということを理解するには、私は幼すぎた。

▶2 (第2文) 分詞構文 / 関係詞節中で補語の役割をする that の省略

(Being the age (that) I was), I didn't have much money of my own.
 分詞構文 C S V of one's own 「自分自身の～」
 「…なので」 関係代名詞がbe動詞の補語になっている場合、省略できる

▶3 (第4文) 目的語の前置

Grandpa's I bought
 O (= grandpa's gift) S V

・目的語を強調するために文頭においた場合、O + S + V の語順になる。

- ☐ glossy 「つやのある」
☐ key chain 「キーホルダー」
☐ say 「(～と) 書いてある」
☐ recall 「…を思い出す」

- ☐ characteristic 「独特な」
☐ nod at ～ 「～にうなずく」
☐ set ～ aside 「～を脇に置く」
☐ celebration 「祝賀」

第4段落

年月が過ぎたが、どういうわけか私は祖父の鍵もキーホルダーも目にすることは一度もなかった。あのささやかな赤いクリスマスプレゼントがどうなったのか、私は怖くてとても聞くことはできなかった。しかし、祖父は車に食料品（母には果物と野菜、私にはアイスクリーム、弟たちにはキャンディー）をいっぱい積みこんで家によくやってきたが、その時私はいつもちらっとでも見えるのではないかと探した。しかし、見るたびに鍵はポケットかどこか私の見えないうちに消えていった。

☐ pass 「(時が) 過ぎる」

☐ be afraid to do 「怖くて…できない」

☐ look for ～ 「～を探す」

☐ glimpse 「ちらりと見えること」

第5段落

祖父は年をとって、時とともに健康が衰えた。ある日、それまでになかったほど具合が悪そうだったので、私たちはすぐに祖父を病院に連れて行った。検査を受けたあと、祖父は健康を取り戻すために私たちの家族が経営する農場に戻った。父は私に、当時私が働いていた地元のスポーツジムで祖父が体力を取り戻すのを手伝うことができるかとたずねた。私は喜んでその仕事を引き受けた。

☐ decline 「衰える」

☐ check out ～ 「～を検査する」

☐ regain 「～を取り戻す」

☐ local 「地元の」

第6段落

その次の週末、祖父はまだ健康が回復していなかったが、それでも私はリハビリの個人レッスンについて話をするために祖父のところに行った。祖父はひげをそっておらず、鼻に管を入れたまま椅子の上で座り直した。身なりは祖父にとっては常に大事なことであったので、私は祖父がひげもそらず、あんなにみすばらしい服を着ているのを見たことがなかった。何かがしっくりこなかったが、とにかく祖父はほほえんだ。祖父は、私が彼の専属トレーナーになると聞いていると言った。それは私をうれしくさせた考えであった。▶⁴ それから祖父はさらに続けて、自分にはもう運転ができないので、私に（16歳を過ぎて運転免許を取ったばかりの私に）車で迎えに来てもらわなければならないと言ひ、さらに祖父の車を使うようにと言った。それからまた祖父は「私が死んだら車はお前が持っているように」と言った。私は心を引き裂かれた。祖父のいない生活など想像もつかなかった。それから祖父はポケットの中に手を伸ばし、手を差し出し、車に慣れておくようにと言った。▶⁵ 祖父の手には、古い灰色のキーホルダーが付けられた車の鍵の束が光っていた。

▶4 (第6文) that で導かれる目的語の並列

Then he proceeded to tell me that I would need to pick him up

— me, who had just turned sixteen and got a driving license —
me の補足説明

[since he could not drive], and that I should use his car.

tell の O₂ ②

O₂ が2つあることに注意

▶5 (最終文) 〈場所を表す副詞句 + V + S〉の倒置 / 過去分詞による後置修飾

(In his hand) shined a set of car keys (accompanied by an old gray key chain).

場所を表す副詞句 V S 過去分詞による後置修飾

・運動の方向や場所を表す副詞 (句) が文頭に置かれると V + S の倒置が起こる。

- ☐ nonetheless 「それにもかかわらず」
- ☐ dressed in ~ 「～の服を着て」
- ☐ shoddy 「みすばらしい」
- ☐ beam at ~ 「～にこやかにほほえむ」
- ☐ proceed to do 「続けて…する」
- ☐ turn 「～(年齢) になる, ～を過ぎる」

- ☐ driving license 「運転免許」
- ☐ reach into ~ 「(物を取ろうとして) ～に手を突っ込む」
- ☐ bring forth ~ 「～を持ち出す」
- ☐ get acquainted with ~ 「～に慣れる」
- ☐ accompany 「～に付いている, 付属する」

第7段落

祖父はその日遅くに再び入院した。その夜遅くになって意識がなくなり亡くなった。町の人たちが大勢葬式に参列した。

- ☐ unconscious 「意識を失った」
- ☐ hundreds upon hundreds of ~ 「莫大な数の」

- ☐ funeral 「葬式」

第8段落

私とは言えば、祖父の車を運転して葬式に行った。ハンドルの主軸部分には私の鍵の束が古い灰色のキーホルダーにしっかり取り付けられてぶらさがっていた。▶6 注意して見れば、かつて「おじいちゃん」という言葉があったところにこの何年もの間ずっと染みついていた赤い塗料がぼつぼつとあるのが今でも見えるだろう。

▶6 (最終文) 仮定法過去 / 前置詞と目的語の間への副詞句の挿入 / 関係副詞 where の先行詞の省略

[If you looked closely enough] you could still see

仮定法過去

the very little red spots of paint [that had clung on (all of those years)]

副詞句の挿入

on の目的語は where 以下

(the place) [where the word "Grandpa" used to be]].

先行詞の省略 関係副詞

- ☐ attach 「～を取り付ける」
- ☐ firmly 「しっかりと」

- ☐ spot 「染み」
- ☐ cling on ~ 「～にしがみつく」

第9段落

それは私が祖父にあげた最初の贈り物であり、祖父が私にくれた最後の贈り物だった。

物語・小説——Read between the lines.

今回は「行間を読む (read between the lines)」ということについて考えてみましょう。大学入試で最もよく出題される論説文の場合、英文の流れをつなぐのは論理的なつながりですが、物語や小説などの場合は、情景描写や登場人物の心情が話の展開の中心になります。4を例にとってその点を見てみましょう。

4 下線部(2)について、本文では「祖父が筆者にあげた最後の贈り物」と述べられているが、なぜそのように言っているのか、その理由を45字(句読点含む)以内の日本語で説明しなさい。

解答 筆者が亡くなった祖父に贈ったキーホルダーを祖父がずっと使っていたことがわかったから。(42字)

この問題では、キーホルダーという「物」にまつわる筆者の心情を読み取る必要があります。しかし、それはある1カ所に説明的に述べてあるのではなく、筆者と祖父とのさまざまな関係を通じて語られています。いわば「行間を読む」という作業が必要になります。

ほぼ毎年物語が出題されている東大の問題でその点を見てみましょう。

例 下線部(10)の go back home という表現から、実家滞在中の Rebecca に大きな心境の変化があったことが読み取れる。その心境の変化とはどのようなものか。40～50字の日本語で説明せよ。
(2007年 東京大学 前期 5(10))

これはレベッカというニューヨーク在住の女性が自分の生まれ育った町で生活するつもりで戻って来るが、以前とは雰囲気も人も様変わりした故郷の町に自分の居場所を見つけることができず、ニューヨークに戻って行くという話です。設問で問われている「心境の変化」とはその部分に関するものですが、そこに至るレベッカの心情を、故郷の町並みの変化、高校時代の友人との再会、母親や継父との会話などから読み取ることがポイントになります。

このように、物語などでは、与えられている記述から、本文で直接述べられていないことを読み取ることが1つのポイントになります。まさに「行間を読む」必要があるわけです。そのためには、人間関係、登場人物の性格、彼らが置かれている状況などに注意を払いながら読むことが重要です。

▶ 今回のポイント

物語などでは、登場人物の心情が情景描写や登場人物同士の会話などを通じて述べられていることがよくあるので、その点に注意しながら読むことが重要。

13 人はなぜ物語に熱中するのか

問題編 p.43

人は物語に熱中するが、その根底には想像力という不思議な力がある。

● 解答 ◀ 正しい答え をチェック

1 (ア) ② (イ) ①

2 (A) ④ (B) ② (C) ③

3 私たちは物語を語る必要性をあまりにも当然のことと思っているので、私たちにはそのような疑問はほとんど思い浮かぶことさえない。

4 物語と呼ばれる心的パターンの形成は、私たちの生活において非常に深くて重要な目的に役立つということ。(49字)

5 ③

● 解説 ◀ 考え方をチェック

1 文脈の把握

(ア) ①「～を編集すること」 ②「～を追うこと」 ③「～を終えること」 ④「～を否定すること」

We spend a vast amount of our lives (ア) stories は「私たちは生活の膨大な時間を物語を (ア) で過ごす」という意味。直後のコロンの(:)に注目。コロンは具体的な例示の前に置かれることがあるので、コロンの直後 (telling them ... on a stage) の「物語を語り、それを聞き、それを読み、テレビの画面や映画や舞台でそれが演じられているのを見る」は、(ア) stories の具体例だと考えられる。この具体例は、私たちがいろいろな形で物語と関わっているという内容なので、空所に②を入れると文意が通る。

(イ) ①「～にちなんで」 ②「～の前に」 ③「～の上に」 ④「～の下に」

四解

... we find we have named many of the most conspicuous heavenly bodies

S

V

O

— Venus, Mars, Jupiter, Orion, Perseus, Andromeda —

(イ) characters from stories.

(イ)のある第④段落のトピックは、私たちにとって物語がいかに重要であるかということであり、第3文以下はその具体例である。after には「～にちなんで」という意味があり、name A after B で「B にちなんで A の名前を付ける」という意味になる。そこで、空所(イ)に①を入れると、「最も人目を引く天体の多く(…)を、物語の登場人物にちなんで名付けたことに気がつく」という意味になり、物語がいかに重要であるかということの具体例として自然な流れになる。

2 語句の意味の把握

- (A) ①「常に」 ②「今のところ」 ③「大部分は」 ④「**はるかに**」

far and away は、主に最上級の前で「はるかに：断然」という意味になる。したがって、

④が正解。

- (B) ①「(…すること)に慣れている」 ②「**(…すること)で占められている**」

③「(…すること)に影響される」 ④「(…すること)によって妨げられる」

take up A with B は「B で A を占める」という意味。したがって、taken up with *doing* で「…することによって占められる」となるので、②が正解。

- (C) ①「数字」 ②「形」 ③「**人物**」 ④「輪郭」

figure はいわゆる多義語で、「人影」、「人物」、「数字」、「図」、「形」などの意味があるが、certain men and women ... should come to be regarded as among the best-known figures in the world は「…ある特定の人たちが、世界で最も有名な figures の 1 人に入るとみなされるようになる」という意味なので、ここでは「人物」という意味で用いられているとわかる。したがって、③が正解。

3 文構造の把握

図解

So much do we take our need to tell stories for granted that such questions scarcely even occur to us.

助動詞 S V O ▲ S'

V'

語句 ・ take ~ for granted 「～を当然だと思う」 ・ scarcely 「ほとんど…ない」

・ occur to ~ 「～の心に浮かぶ」

- so ~ that ... (とても～なので…) の構文。So が文頭に出たために〈助動詞 (do) + S + V〉という倒置が起こっている。通常の語順にすると、We take our need to tell stories for granted so much that ... となる。to tell stories は our need を修飾する形容詞用法の不定詞で、「物語を語る必要性」という意味。

4 内容の把握

まず、the first crucial step towards bringing this into view is to recognize that ... は「このことを理解するための最初の重要な 1 歩は、…を認識することである」という意味。this は比較的近くにある既出のものを指すことが多いので、直前の英文 (The making of ... scarcely be exaggerated.) を見ると「これらのパターンを作ることは、私たちの生活において、私たちが実感しているよりもはるかに深くて重要な目的に役立つ。実際、それはその重要性を誇張してもしきれないほどの目的である。」と述べられている。これは、第⑤段落第 2 文で述べられている問題提起、What real purpose does it serve? (それは現実にはいかなる目的に役立つのだ

ろうか。)に対する結論(=英文の主題)である。下線部(2)が含まれている英文はこの結論の補足であり、thisにこの箇所を当てはめるとそのことがわかる。したがって、解答としてはこの第⑨段落第1文をまとめればよい。ただし、these patterns(このパターン)は、第⑨段落最終文のthese mental patterns we call stories(私たちが物語と呼ぶこの心的パターン)を受けているので、この点を具体的に書く必要がある。

答案作成上のポイント

these patternsの内容を具体的に述べるのが1つのポイント。この点を具体的に述べていないと減点の可能性がある。第⑨段落第1文のコロン以下の内容(indeed ... be exaggerated)はa far deeper and more significant purpose in our livesの補足なので、解答に含めなくてもよい。また、比較級の意味合いも補足なので、解答に含める必要はない。したがって、必須ポイントは、①物語と呼ばれる心的パターンの形成、②生活における深くて重要な目的に役立つ、の2点。なお、thisの内容を問われているので、文末は「…すること」とすること。

5 内容の把握

- ①×「×物語から成り立っている歴史書はほとんどない。というのは、歴史的事実はあるがまさに記述すべきだからである。」

第⑥段落第3文(Our history books are largely made up of stories.)に「歴史の本は大部分、物語で成り立っている」と述べられている。

- ②×「子供の頃は、私たちは誰でも物語を語ってほしいという願望を持っているが、×大きく
なるにつれて物語に対する興味を失う。」

第④段落第2文(So deep and our dying day.)で、「物語に対する必要性」について、「死ぬ日まで続きそうな欲求の証拠として」(as evidence of to our dying day)と述べられている。(→全訳▶1)

- ③○「私たちが物語を語ることが好きなのは、想像力があるからである。」

第⑥段落(In fact what ... of our eyes.)の中で、「物語を語る情熱は別の能力から始まっている」(our passion for storytelling begins from another faculty)と述べられ、そのanother facultyについて、「『想像する』能力」と述べられているので一致する。

- ④×「現在では、言葉で表現されるものが頭のどこで心像として生み出されるかということが
×十分に解明されている。」

第⑦段落第2～3文(Somewhere inside produced or perceived.)に、「私たちの頭の中のどこかで、その言葉がきっかけとなって、こうしたものの1つ1つの心像が心に浮かぶことがあるのだ。その心像がどこで、あるいはどのようにして生み出され認識されるのかは、誰も正確には知らない。」と述べられている。

- ⑤×「私たちは実際に存在する人やものの像を心の中で生み出すことはできるが、架空の動物の像は生み出すことができない。」

第①段落最終文 (But we have physically at all.) に「私たちは…火を吹く竜といったようなまったく物理的に存在したことがないものの心像さえ思い起こす能力を持っているのである」と述べられている。(→全訳▶2)

● 全訳 英文内容をチェック

第①段落

どの瞬間においても、世界中で、何億もの人々が、あらゆる種類の人間の活動のうちで最もなじみがあるものの1つに没頭していることだろう。何らかの形で、人々は私たちが物語と呼んでいる、心像が奇妙につながったものの1つに注意を集中させていることだろう。

- | | |
|---|--|
| ☐ be engaged in 「～に没頭している」 | ☐ focus A on B 「A を B に集中させる」 |
| ☐ familiar 「なじみの」 | ☐ sequence 「連続、つながり」 |
| ☐ in one way or another 「何らかの形〔方法〕で」 | ☐ mental image 「心像、心の中の映像」 |

第②段落

私たちは生活の膨大な時間を物語を追って過ごす。つまり、物語を語り、それを聞き、それを読み、テレビの画面や映画や舞台でそれが演じられているのを見る。物語は、私たちの日々の生活のうちでとびぬけて最も重要な特徴の1つである。

- | | |
|--|---|
| ☐ a vast amount of 「膨大な量の～」 | ☐ existence 「生活」 |
| ☐ act out 「～を演じる」 | |

第③段落

架空の物語は、小説、劇、映画、オペラ、漫画のようなもの、あるいはテレビの「メロドラマ」のようなものでさえ、私たちの生活で重要な役割を果たしている。新聞やテレビを通して、ニュースは「物語」という形をとって私たちに紹介される。歴史の本は大部分、物語で成り立っている。私たちの会話の多くでさえ、日々の生活の出来事を物語という形式で語ることで占められている。この系統立てて作られている心像のつながりは実際、私たちの生活の中で起こるほとんどすべてのことを説明するのに私たちが知っている最も自然な方法である。

- | | |
|---|---|
| ☐ fictional 「架空の、虚構の」 | ☐ narrate 「～を語る」 |
| ☐ play a ~ role (part) in A 「A において～な役割を果たす」 | ☐ structured 「系統立てられた」 |
| ☐ comic strip 「漫画」 (= comic) | ☐ imagery 「心像」 |
| ☐ be made up of 「～で成り立っている」 | ☐ describe 「～を説明する」 |

第④段落

しかし、私たちが最も普通に物語のことを考えるのは、明らかに虚構の表現形式においてである。

▶¹ 私たちが物語を必要とする気持ちはとても深くまた本能的なものなので、幼い子供の時、私たちは話せるようになるたびに物語を話してほしいと言いだすが、それは死ぬ日まで続きそうな欲求の証拠である。物語は歴史上のあらゆる社会において非常に中心的な役割を果たしてきたので、私たちは当然のことながらホメロスやシェークスピアのような偉大な物語作家は史上最も有名な人物の1人に入ると考えている。現代では、チャーリー・チャップリンやマリリン・モンローのようなある特定の人たちが、物語の登場人物を映画のスクリーンで演じたというだけの理由で、世界で最も有名な人物の1人に入るとみなされるようになるのを、私たちは奇妙だと思ったことはない。私たち自身の世界から宇宙に目を向けても、最も人目を引く天体の多く（ヴィーナス〔金星〕、マーズ〔火星〕、ジュピター〔木星〕、オリオン（座）、ペルセウス（座）、アンドロメダ（座））を、物語の登場人物にちなんだ名付けたことに気がつく。

▶ 1 (第2文) so ~ that ... の文での倒置 / no sooner ~ than ... / 形容詞の後置修飾

So deep and so instinctive is our need for them that, [as (we are) small children],

→① C V S →① (S + be)の省略

we have no sooner learned to speak than we begin demanding to be told stories,
no sooner ~ than ... 「～するとすぐに…」

as evidence of an appetite likely to continue to our dying day.

「～として」 ↑ likely to do 「…しそうな」が an appetite を後ろから修飾している

① so ~ that ... の構文の so ~ の部分を文頭に置いて強調したため、C + V + S と倒置されている。

- ☐ obviously 「明らかに」
- ☐ instinctive 「本能的な」
- ☐ demand to do 「…するように要求する」
- ☐ evidence 「証拠」

- ☐ appetite 「欲求；食欲」
- ☐ character 「(劇・小説・漫画などの) 登場人物」
- ☐ conspicuous 「人目を引く」
- ☐ heavenly body 「天体」

第⑤段落

しかし、驚くべきことは、私たちがこの奇妙な形式の活動になぜふけるのかについて私たちがいかに無関心であるかということである。それは現実にはいかなる目的に役立つのだろうか。私たちは物語を語る必要性をあまりにも当然のこととと思っているので、私たちにはそのような疑問はほとんど思い浮かぶことさえない。

- ☐ astonishing 「驚くべき」
- ☐ indifferent 「無関心な」

- ☐ as to ~ 「～に関して」
- ☐ indulge in ~ 「～にふける」

第6段落

実際には、私たちがここで見ているものは、実はある別の謎の上に築かれた謎なのである。というのは、物語を語る情熱は別の能力から始まっているからであるが、その能力自身があまりに私たちの生活の一部になっているので、それがいかに奇妙であるかを私たちは理解できないのである。その能力とは、「想像する」能力、実際には目の前には存在しない物の姿を意識的な知覚にまで引き上げる能力である。

- ☐ passion 「情熱」
- ☐ faculty 「能力」
- ☐ fail to do 「…できない〔しない〕」
- ☐ bring A up to B 「A を B にまで引き上げる」

ここでは A に当たる the images ... our eyes が長いので後ろに置かれている。

- ☐ conscious 「意識的な」
- ☐ perception 「知覚」

第7段落

もし誰かが私たちに「アルプス」…、「シマウマ」…、「お宅の台所のテーブル」…、「火を吐く竜」…などと言うと、何か非常に奇妙なことが起こる。私たちの頭の中のどこかで、その言葉がきっかけとなって、こうしたものの1つ1つの心像が心に浮かぶことがあるのだ。その心像がどこで、あるいはどのようにして生み出され認識されるのかは、誰も正確には知らない。^{▶2}しかし、私たちは、身体感覚ではそこに存在していない場所や人や物の心像だけでなく、例の火を吹く竜といったようなまったく物理的に存在したことがないものの心像さえ思い起こす能力を持っているのである。

▶2 (最終文) not only A but B / 関係代名詞と先行詞の間への挿入

But we have this capacity to conjure up the inward images

S V

O

not only (of places, people and things) not present to our physical senses,

→①

but even (of things), such as that fire-breathing dragon, which have never

→①

A such as B 「B のような A」

existed physically at all].

① of places ... things と of things は not only A but B でつながれており、どちらも the inward images を修飾している。

- ☐ peculiar 「奇妙な」
- ☐ trigger off ~ 「～のきっかけとなる」
- ☐ perceive 「～を知覚する」

- ☐ inward 「心の；内部の」
- ☐ physical 「身体の；物理的」

第8段落

^{▶3}そして、もちろん、映画のように私たちの心の目の前で展開するような心像がつながったものの全体を呼び起こすこの能力こそが、私たちが眠っている時には夢を見ることを可能にし、目が覚めている時には私たちが物語と呼ぶこの心的パターンに注意を集中することを可能にするのである。

▶ 3 強調構文 / 形容詞用法の不定詞 / 現在分詞による後置修飾 / and による接続

And it is (of course) this ability to conjure up whole sequences of such images,

→①

(unfolding before our inner eye (like a film)),

現在分詞 unfolding が before ... を伴って whole sequences of such images を修飾

which enables us to have dreams (when we sleep),

→①

and (when we are awake) to focus our attention on

and は enable O to do の2つの to do (to have dreams と to focus ...) をつないでいる

these mental patterns [(that) we call stories].

① it is ~ which ... (…なのは～；～こそ…) の強調構文。this ability ... like a film が強調されている。

☐ unfold 「展開する」

☐ inner 「内部の；心の」

第9段落

これらのパターンを作ることは、私たちの生活において、私たちが実感しているよりもはるかに深く重要な目的に役立つ。実際、それはその重要性を誇張してもしきれないほどの目的である。そして、このことを理解するための最初の重要な1歩は、世界中で人々が物語を語ってきた所ではどこでも、彼らの想像力に浮かんでくる物語は、著しく似たやり方で具体化する傾向があったことを認識することである。

☐ exaggerate 「～を誇張する」

☐ take shape 「具体化する」

☐ crucial 「重要な」

☐ remarkably 「著しく」

☐ imagination 「想像（力）」

読解 PLUS+ ONE 出題ポイントを押さえよう

内容説明問題の制限字数は出題者からのメッセージ

p.39 の読解 PLUS+ ONE で字数制限なしの内容説明問題のポイントについて述べましたが、今回は字数制限付きの内容説明問題のポイントについて考えてみましょう。内容説明問題の字数制限は、出題者が、皆さんに解答として書いてほしいと思っている事柄の範囲を知らせているメッセージなのです。皆さんはこのメッセージを受け取って答案を作成する必要があります。

出題者は適当に字数を指定しているのではなく、いろいろな解答を考えた上で、適正だと思われる字数を指定しています。皆さんは答案に盛り込むべき情報に序列を付け、絶対に書かなくてはならない必須ポイントを確定した上で、字数不足の場合は重要度がそれより下位の情報を盛り込み、字数がオーバーした場合は、どの点を削除したらよいかということを考えてください。では、4を取り上げてこの点を見てみましょう。

4 下線部(2)の指す内容を50字(句読点含む)以内の日本語で説明しなさい。

解答 物語と呼ばれる心的パターンの形成は、私たちの生活において非常に深く重要な目的に役立つということ。(49字)

「解説」にもあるように、この問題の場合は these patterns を具体化した上で第⑨段落第1文の内容をまとめればよいのです。その部分をそのまままとめた答案例が以下です。

答案例

物語と呼ばれる心的パターンを作ることは、私たちの生活において、① 私たちが実感しているよりもはるかに深く重要な目的、② つまり、その重要性を誇張してもしきれないほどの目的に役立つということ。(92字)

指定字数は「50字(句読点含む)以内」なので42字もオーバーしています。したがって、字数を削除しなければならないのですが、まず、コロンの直後で述べられていることは、a far deeper and more significant purpose in our lives than we have realized を詳しく説明しているだけなので、②の部分(25字)を削除します。(p.30の読解 PLUS+ONE のコロンの用法を参照。)次に、①の比較級の部分ですが、解答としては「私たちの生活において深く重要な目的」ということが明示されていれば内容は伝わりますので、比較級の内容を特に明示する必要はありません。したがって、この箇所を削除します。これではほぼ50字程度になりますが、もしまだ字数がオーバーしているようなら「パターンを作ること」→「パターンの形成」といったように日本語を微修正すれば50字以内での解答が作成できます。出題者は必ず、解答可能な範囲の字数を指定していますので、皆さんは何が必須情報で、何が付随情報であるかをよく考えるようにしてください。

ところで、今回の英文はやや抽象度の高い英文でしたが、この設問の解答の根拠となる第⑨段落第1文がこの英文の主題に当たる部分だということが読み取れたのでしょうか？ この英文の流れがうまく理解できなかった人のために、その点について少し解説をしてみましょう。まず、第⑤段落第2文を見てください。What real purpose does it serve? と述べられていますね。p.57の読解 PLUS+ONE でも述べましたが、論説文中の疑問文は本文の問題提起なので、筆者はここでこの英文の問題提起をしています。(逆に言えば、第①～④段落は問題提起のための前置きになっています。)それに対する答えがこの第⑨段落第1文の内容というわけです。その際、筆者は、物語を作ることを可能にするのが私たちの「想像力」なのだということを根拠にして論理を展開しています。英文の流れがうまく把握できなかった人は、この点に注意しながらもう一度読み返してください。目から鱗が落ちたように英文の流れがよく理解できますよ。

▶ 今回のポイント

字数制限のある内容説明問題は、実際に解答を作ってみて、情報を膨らませたり削ったり、また表現を調整することによって最終的に字数を整えるようにしよう。

14 脳の知的技術への適応

問題編 p.47

人間の脳は新しい知的技術に柔軟に適応するが、最も新しい知的技術であるインターネットに対して私たちの脳がどのように適応していくかは現在のところ未知である。

● 解答 正しい答えをチェック

1 flexible

2 時計は人間の営みと時間を切り離すので、数学的に測定可能な連続体という独立した世界への信仰が生まれ、分割された時間という抽象的な枠組みが私たちの思考と行動の基準になるということ。

3 (ア) ③ (イ) ② (ウ) ③

4 ①

5 今日インターネットが果たしているほど多くの役割を、通信システムが私たちの生活において果たしたことはないし、私たちの思考にこのような広範な影響を及ぼしたこともない。

6 ③

● 解説 考え方をチェック

1 語句の意味の把握

下線部(1)を含む英文はジェームズ・オールズの考えを紹介しており、even the adult mind “is very plastic” は「成人の頭でさえ『非常に plastic である』」という意味。オールズは、第①段落第2文 (People used to ... we reached adulthood.) で述べられている「人間の脳は、私たちが成人するまでには**固定 (fixed) する**」という考え方を否定する第3文 (But researchers ... not the case.) を根拠づけるための研究者として紹介されている。したがって、**plastic は fixed とは逆の意味だと考えられる**。第①段落第1文を見ると、The human brain is almost infinitely flexible. (人間の脳はほぼ無限に**柔軟である**。) と述べられているので、flexible が plastic とほぼ同意だと判断できる。plastic 「思うままの形にできる」(→全訳▶1)

2 内容の把握

下線部(2)を含む英文は「私たちが、社会学者のダニエル・ベルが『知的技術』——身体能力よりも知能を拡大する道具——と呼んだものを用いる時、私たちは必然的にこれらの技術の特質を身に付けるようになるのである」という意味。下線部を含む第①段落を見ると、第1～6文で、**脳は非常に柔軟性を持っている**と述べられている。脳がこのような柔軟性を持っているからこそ、私たちは知的技術に適応し、その特質を身に付けることになるのである。したがって、問題のポイントは、知的技術の1つである機械時計がもたらす変化に脳がどのように適応

Unit 1	1
Unit 1	2
Unit 1	3
Unit 1	4
Unit 1	5
Unit 2	6
Unit 2	7
Unit 2	8
Unit 2	9
Unit 2	10
Unit 3	11
Unit 3	12
Unit 3	13
Unit 3	14
Unit 3	15

し、時計の持つ特質を私たちがどのように身に付けるかという点をまとめることにある。そこで、下線部を含む英文の直後の英文（The mechanical clock ... a compelling example.）を見ると、「機械時計は、説得力のある事例を提供してくれる」と述べられ、第9～10文でその点が具体的に展開されている。第9文（In *Technics and Civilization*, ... measurable sequences.）では、時計は人間の出来事から時間を分離し、数学的に測定可能な連続体という独立した世界への信仰を生み出すということ、第10文（The “abstract framework ... both action and thought.”）では、分割された時間という抽象的枠組みが行動と思考の両者の判断基準となるということが述べられている。解答は以上の点をまとめればよい。

答案作成上のポイント

答案に含めるべきポイントは、①時計は人間の営みと時間を切り離す（知的技術がもたらす変化）、②数学的に測定可能な連続体という独立した世界への信仰（脳の適応）、③分割された時間という枠組みが思考と行動の基準になる（知的技術の特質を身に付ける）、の3点。解答の中心ポイントは③なので、この点は外せない。

3 文脈の把握

㍿ ①「(…すること)をよく考えた」 ②「(…すること)を楽しんだ」

③「(…すること)をやめた」 ④「(…すること)を練習した」

空所を含む英文は「いつ食事をし、いつ働き、いつ眠り、いつ起きるかを決めるのに、私たちは自分の感覚に耳を傾けるのを（ア）、時計に従うようになったのである。」という意味。直前の英文を見ると、時間を計測する道具である時計の出現によって生じる世界観について、it rests on a rejection of those direct experiences that ...（その世界観は…直接的経験を拒否することに基づいている）と述べられている。したがって、空所を含む英文を、食事、労働、睡眠、起床をいつ行うかを決めるのに、直接的経験である自分の感覚に頼らないで、時計に従うようになるという意味にすれば自然な流れになる。この流れに合う選択肢は③である。rest on ～「～に基づく」（→全訳▶2）

㍿ ①「～を増やす」 ②「～を妨げる」 ③「～を維持する」 ④「～を必要とする」

空所を含む英文の直前の文（A new email ... a newspaper's site.）は「例えば、新聞のサイトで最新の見出しにざっと目を通して時、新しい電子メールが届いたという知らせがあるかもしれない。」という意味。空所を含む文はその結果（The result）について to scatter our attention and（イ）our concentration と述べている。scatter our attention は「私たちの注意を分散させる」という意味なので、空所に②を入れて interrupt our concentration（私たちの集中力を妨げる）とすると文意が通る。

㍿ ①「(O₁にO₂が)かかる」 ②「(O₁にO₂を)持ってくる」

③「(O₁にO₂を)経験させないようにする」 ④「(O₁にO₂を)示す」

空所を含む英文は、『ニューヨーク・タイムズ』が第2・3ページを記事の要約にあてると決めた時の担当責任者の説明を述べた箇所。

図解

the “shortcuts” would give busy readers a quick “taste” of the day’s news,

= 「第2・3ページを記事の要約にあてること」

(ウ) them the “less efficient” method of turning the pages and reading the articles

分詞構文

O₁

O₂

選択肢がすべて ing 形であることから、空所(ウ)は the “shortcuts” を意味上の主語とする分詞構文であると考えられる。また、the “shortcuts” (近道)とは、「第2・3ページの記事の要約にあてる」ということの比喩的な表現なので、空所に③を入れると、「この『近道』は忙しい読者にその日のニュースについての迅速な『味わい』を与え、彼らにページをめくって記事を読むという『効率的でない』方法を経験させないようにする」という内容になり、文意が成立する。

4 文脈の把握

theoretical machine は「理論上の機械」という意味。したがって、下線部を含む英文 (In a paper ... other information-processing device.) は「1936年に発表された論文で、イギリスの数学者アラン・チューリングは、当時は理論上の機械としてしか存在していなかったデジタル・コンピュータが、他のどんな情報処理装置の機能をも果たすようにプログラムできることを証明した。」という意味になる。直後の英文 (And that’s what we’re seeing today.) を見ると、「そして、それが私たちが今日目にしているものである。」と述べられているので、1936年当時はその存在が理論の上でしか可能でなかったコンピュータの果たす機能が、現在は現実的なものになっているという流れであることがわかる。したがって、①が正解。

5 文構造の把握

図解

Never has a communications system played so many roles in our lives — or

助動詞

S

V

O

(a communications system has) exerted such broad influence over our thoughts

— as the Internet does today.

代動詞

語句 ・ communications system 「通信システム」 ・ play a ~ role in A 「Aにおいて～な役割を果たす」 ・ exert influence over ~ 「～に影響を及ぼす」

- ダッシュの部分は補足なので、これを除いた Never has a communications system played so many roles in our lives as the Internet does today. についてまず考える。
- Never ... played は、否定の副詞 (Never) が文頭に置かれたために〈助動詞 (has) + S (a communications system) + V (played)〉と倒置されている。倒置されない語順は A communications system has never played ... となる。

Unit 1	1
Unit 1	2
Unit 1	3
Unit 1	4
Unit 1	5
Unit 2	6
Unit 2	7
Unit 2	8
Unit 2	9
Unit 2	10
Unit 3	11
Unit 3	12
Unit 3	13
Unit 3	14
Unit 3	15

- Never has a communications system played so many roles in our lives as ～ は、〈否定語 + so ... as ～〉(～ほど…ない) の構文。したがって、「～ほど、通信システムが私たちの生活で多くの役割を果たしたことはない」という意味になる。
- the Internet does today の does は代動詞で plays の代わりに用いられている。
- 以上より、ダッシュを除いた部分は「今日インターネットが果たしているほど多くの役割を通信システムが私たちの生活において果たしたことはない」という意味になる。
- or exerted such broad influence over our thoughts は、補足的な部分。or は文頭の Never と結び付いて〈否定語 ～ or ...〉(～でもなければ…でもない) という意味になる。したがって、「(今日インターネットが及ぼしているような) 広範な影響を (通信システムが) 私たちの思考に及ぼしたこともない」という意味になる。

6 内容の把握

「筆者はおそらく、私たちには _____ がまだわかっていないということに同意するだろう。」

- ① 「人間の脳が柔軟であるかどうかということ」
- ② 「私たちが従来のメディアに適應できるかどうかということ」
- ③ 「インターネットが私たちの思考にどのような影響を及ぼすかということ」
- ④ 「インターネットが他の技術を吸収できるかどうかということ」

第⑦段落第2文 (Yet, for ... reprogramming us.) に「しかし、これまでインターネットについて書かれてきたものはあるが、インターネットが、正確に言えばどのように私たちのプログラムを作り直しているかを考察しているものはほとんどない。」と述べられているので、③が正解。①は第①段落第1文 (The human ... flexible.) の「人間の脳はほぼ無限に柔軟である。」と矛盾する。②は本文に記述のない内容。④は、第④段落第4文 (The Internet ... intellectual technologies.) の「計り知れないほど影響力のあるコンピュータシステムであるインターネットは、他の知的技術の大部分を吸収しつつある。」という内容と矛盾する。

全訳 英文内容をチェック

第①段落

人間の脳はほぼ無限に柔軟である。▶¹ 頭の中の1千億くらいのニューロンの間で形成される密集した連結である人間の脳は、私たちが成人するまでには固定すると、以前は考えられていた。しかし、研究者たちはそうではないことを発見した。ジョージ・メイソン大学の高度研究のためのクラスノウ研究所の所長で神経科学の教授であるジェームズ・オールズは、成人の頭でさえ「非常に柔軟である」と言っている。神経細胞は定期的に古い連結を壊し、新しい連結を形成する。オールズによれば、「脳は自分のプログラムを作り直す能力を持ち、機能する方法を変える」とのことである。私たちが、社会学者のダニエル・ベルが「知的技術」——身体能力よりも知能を拡大する道具——と呼んだものを用いる時、私たちは必然的にこれらの技術の特質を身に付けるようになるのである。14世紀に一般に用いられる

ようになった機械時計は、説得力のある事例を提供してくれる。歴史家で文化評論家であるルイス・マンフォードは『技術と文明』において、時計がいかにして「人間の出来事から時間を分離し、数学的に測定可能な連続体という独立した世界への信仰を生み出すのに役立った」かを説明している。「分割された時間という抽象的枠組み」が、「行動と思考の両者の判断基準」となったのである。

▶ 1 (第2文) 同格 / 過去分詞による後置修飾 / by the time S + V

People used to think (that the human brain, the dense connections (formed
 S V O S' among the 100 billion or so neurons (inside our heads)), was fixed
 among the 100 billion or so neurons (inside our heads)) V'
 by the time we reached adulthood).
 「…する頃までには」

- ☐ infinitely 「無限に」
- ☐ flexible 「柔軟な」
- ☐ dense 「密集した」
- ☐ connection 「連結」
- ☐ adulthood 「成人(期)」
- ☐ direct 「～を指揮管理する」
- ☐ nerve cell 「神経細胞」
- ☐ routinely 「決まって、いつものように」
- ☐ reprogram 「～のプログラムを作り直す」

- ☐ alter 「～を変える」
- ☐ function 「機能する」
- ☐ sociologist 「社会学者」
- ☐ intellectual 「知性の」
- ☐ come into use 「使われ始める」
- ☐ compelling 「説得力のある」
- ☐ disassociate A from B 「B から A を分離する」
- ☐ abstract 「抽象的な」
- ☐ framework 「枠組み」

第②段落

時計の規則的なカチカチという音は、科学的な精神と科学的な人間を生み出すのに役立った。しかし、それが奪ったものもあった。今は亡きマサチューセッツ工科大学のコンピュータ科学者ジョセフ・ワイゼンバウムが1976年の著作『コンピュータ・パワーと人間の理性: 判断から計算へ(邦題: コンピュータ・パワー 人工知能と人間の理性)』で述べているように、▶² 時間を計測する道具の広範な使用から生じた世界観は「古い世界観の劣化版のままである。というのは、その観念は、古い現実の基礎を成し、実際にその現実を構成していた直接的経験を拒否することに基づいているからである。」いつ食事をし、いつ働き、いつ眠り、いつ起きるかを決めるのに、私たちは自分の感覚に耳を傾けるのを止めて時計に従うようになったのである。

▶2 (第3文) 目的格関係の A of B / 前出の名詞の反復を避ける one / and による接続

...the conception of the world that emerged from the widespread use of
 timekeeping instruments) “remains an impoverished version of the older one,
 for it rests on a rejection of those direct experiences
that formed the basis for, and indeed constituted, the old reality.”

①・② 目的格関係の A of B. 「BをAすること」と考える。
 ③ andは formed と constitutedをつないでいる。that が共通の主語で、the old reality は for と constituted の共通の目的語。

- ☐ methodical 「規則的な」
- ☐ ticking 「(時計などの) カチカチという音」
- ☐ bring ~ into being 「~を生み出す」 '～' に当たる部分が長いので into being の後ろに置かれている。
- ☐ late 「(限定用法で) 故～」

- ☐ observe 「…と述べる」
- ☐ conception 「観念, 概念」
- ☐ timekeeping 「時間の計測」
- ☐ impoverished 「貧弱になった」
- ☐ constitute 「～を構成する」

第3段落

新たな知的技術に適応する過程は、私たちが自分自身を自分に説明するのに用いるイメージが変化することに反映されている。機械時計が現れた時、人々は脳を「時計仕掛けのように」作動すると考え始めた。今日のソフトウェアの時代では、私たちは脳を「コンピュータのように」作動すると考えるようになった。しかし、神経科学が語るところによれば、変化ははるかに深くにまで進むのである。脳が柔軟であるために、適応は生物学レベルでも生じるのである。

- ☐ adapt to ~ 「～に適応する」
- ☐ reflect 「～を反映させる」
- ☐ think of A as B 「AをBとみなす」
- ☐ operate 「作動する」

- ☐ clockwork 「時計仕掛け」
- ☐ adaptation 「適応, 順応」
- ☐ biological 「生物学(上)の」

第4段落

インターネットは認知に対してとりわけ広範囲にわたる影響を及ぼすことになりそうである。1936年に発表された論文で、イギリスの数学者アラン・チューリングは、当時は理論上の機械としてしか存在していなかったデジタル・コンピュータが、他のどんな情報処理装置の機能を果たすようにプログラムできることを証明した。そして、それが私たちが今日目にしているものである。計り知れないほど影響力のあるコンピュータシステムであるインターネットは、他の知的技術の大部分を吸収しつつある。インターネットは、私たちの地図や時計、印刷機やタイプライター、計算機や電話、そしてラジオやテレビになりつつあるのだ。

- ☐ promise to do 「…しそうである」
- ☐ far-reaching 「広範囲にわたる」
- ☐ paper 「(可算名詞で) 論文」

- ☐ at the time 「当時は」
- ☐ information-processing device 「情報処理装置」
- ☐ immeasurably 「計り知れないほど」

第5段落

インターネットがある情報媒体を吸収すると、その情報媒体はインターネットの概念で再現される。インターネットはその情報媒体の内容にハイパーリンクや点滅する広告、それに、他のデジタルの特徴を注ぎ込み、インターネットが吸収した他のすべての情報媒体の内容で、その内容を取り囲む。例えば、新聞のサイトで最新の見出しにざっと目を通している時、新しい電子メールが届いたという知らせがあるかもしれない。その結果、私たちの注意は分散し、集中がとぎれることになる。

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ☐ medium 「情報媒体」 ☐ re-create 「～を再現する」 ☐ inject A with B 「A に B を注入する」 | <ul style="list-style-type: none"> ☐ blink 「点滅する」 ☐ glance over ～ 「～にざっと目を通す」 ☐ scatter 「～を分散させる」 |
|---|---|

第6段落

インターネットの影響は、コンピュータの画面の末端で終わるわけでもない。人々の頭がインターネットメディアをよく知るようになるにつれて、従来のメディアは読者や視聴者の新しい期待に適応しなければならない。テレビ番組はテロップや画面にボンと現れる広告を加え、雑誌や新聞は記事を短くし、短い要約を入れ、拾い読みしやすい情報の断片をページにぎっしりと詰め込んでいる。今年の3月に『ニューヨーク・タイムズ』がすべての版の第2・3ページの記事の要約にあてると決めた時、紙面構成担当責任者のトム・ボドキンはこの「近道」によって忙しい読者はその日のニュースをすばやく「味わう」ことができ、紙面をめくって記事を読むという「効率的でない」方法をとらずに済むことができると説明した。古いメディアは新しいメディアの規則に従う以外にはほとんど選択の余地がないのである。

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ☐ band of text 「字幕、テロップ」 ☐ pop-up 「ポップアップ式の、ボンと現れる」 ☐ summary 「要約」 ☐ crowd A with B 「A に B を詰め込む」 ☐ browse 「拾い読みする」 ☐ devote A to B 「A を B にあてる」 | <ul style="list-style-type: none"> ☐ turn a page 「ページをめくる」 ☐ have little choice but to do 「ほとんど…するより仕方がない」 but は「～を除いて」の意味の副。 ☐ play by ～ rules 「～の規則に従って行動する」 |
|---|--|

第7段落

今日インターネットが果たしているほど多くの役割を、通信システムが私たちの生活において果たしたことはないし、私たちの思考にこのような広範な影響を及ぼしたこともない。しかし、これまでインターネットについて書かれてきたものはあるが、インターネットが、正確に言えばどのように私たちのプログラムを作り直しているかについてはほとんど考察されていない。これに関する倫理は不明確なままである。

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ☐ for all (that) ... 「…にもかかわらず」 ☐ consideration 「考察」 | <ul style="list-style-type: none"> ☐ ethics 「倫理 (複数扱い)」 |
|---|---|

森の中で迷わないために

今回で最後となる読解 PLUS+ ONE では②を取り上げて、抽象度の高い論説文の読み方についてお話しします。

2 下線部②の具体的内容を「時計」に即して日本語で説明しなさい。

解答 時計は人間の営みと時間を切り離すので、数学的に測定可能な連続体という独立した世界への信仰が生まれ、分割された時間という抽象的な枠組みが私たちの思考と行動の基準になるということ。

解答の導き方については、「解説」及び「答案作成上のポイント」を参照していただくとして、下線部②を含む1文が本文の主題を表しているということを読み取ることができたでしょうか？

p.22 の読解 PLUS+ ONE で英文の論理的な展開を把握するためには、隠れたディスコースマーカーを探すことが重要、と述べましたが、抽象度の高い英文には特にそのことが重要です。

今回の英文の場合、第①段落第1～6文では、「脳が柔軟性を持っている」ということが述べられているのに、気がついてみると時計やインターネットの話になっていて、「どうなってるの？」と思った人もいます。英文という森の中で迷子になってしまったようですね。どこで道が見えなくなってしまったのでしょうか？ 実は、それが下線部②の部分である可能性が高いのです。第①段落第7文のダッシュに注目し、「知的技術」が「『知能』を拡大する道具」であり、その点で、「脳が柔軟性を持っている」というそれまでの展開と結びつくことが読み取れた人は、第6文と第7文の間に隠れている「したがって」というディスコースマーカー（標識）を見つけ出すことに成功し、森の外に出る道が見えているのです。この点を理解すれば、時計の話もインターネットの話も、柔軟性を持っている脳がいかにか知的技術に適応しているかを述べているものであることが見えてきます。

その観点で各段落を見てみましょう。第②段落は、時計という知的技術についての‘補足’です。第③段落では、コンピュータという知的技術が現れると今度は脳はそれに適応するようになると述べられ、それを受けて、第④～⑥段落では、インターネットという知的技術への脳の適応による変化が述べられ、最終段落は、私たちの脳がインターネットに適応することに関する倫理はまだ不明であると述べた‘まとめ’になっています。

どうでしょうか？ 重要な標識はいつも目に見えるところに立っているわけではありません。森の中で迷わないためには、目に見える標識だけでなく、英文と英文の論理関係や段落相互の関係をも意識しながら、隠れた標識にも大いに注意を払うことが肝心です。

▶ 今回のポイント

たった1つの標識を見失ただけで英文全体が見えなくなることがあるので、特に抽象度の高い英文の場合、その論理展開をよく考えるようにしよう。

15 進化論を信じるアメリカ人が少ない理由

問題編 p.51

アメリカで進化論を信じている人が少ない理由としては、宗教上の問題が考えられるが、同時にアメリカの保守層の持つ価値観も関係しているかもしれない。また、「知的設計論」という考え方も疑似科学ではあるが、反進化論の根拠として多くの人が支持している。

● 解答 正しい答えをチェック

- 1 神がすべての生物を創造したという聖書の記述を真実だと信じている人たちが、すべての生物が自然に進化したという進化論に反対するということ。(67字)
- 2 Darwin's theory of natural selection
- 3 ②
- 4 2006年に『サイエンス』誌に発表されたミラーとスコットと岡本による研究が示唆しているところによれば、この問題の核心にあるのは、実は宗教的信念であるということである
- 5 ア ② (イ) ④
- 6 ③
- 7 懐疑的なアメリカ人が、実際のところ、一体進化論のどの側面に同意しないのかということは必ずしも明らかではない。
- 8 ②

● 解説 考え方をチェック

1 内容の把握

下線部(1)を含む英文は「しかし、この疑問にはそれ以上のことがある。」という意味。第①段落を見ると、現代における不思議な異常事態の1つとして、科学技術の最先進国の1つであるアメリカに、いくつかの科学理論に反対するキリスト教徒が非常に多いといったことが述べられているので、これが this question の内容であると考えられる。したがって、that はその疑問を説明する答えであると判断できるが、「それ以上のことがある」と言っていることから、that (=それ)は「さしあたり考えられ得る答え」であるとわかる。この観点から、直前文(On a simple ... billions of years.)を見ると、まず、On a simple level (簡単に言えば)と断った上で、「神がどのようにして世界のあらゆる生物を一挙にこしらえたかを記述している聖書を文字通りに真実だと信じている人たちが、世の中のあらゆる生物は何十億年にもわたって自然に進化してきたと言っている進化論に反対せざるを得ないのは必然的なことである」と述べられている。これは、上に見た this question に対する答えとして自然なものなので、この内容を指定字数以内にまとめればよい。解答のポイントは、「聖書の記述を真実だと信じている人たちが進化論に反対するということ。」(33字)であるが、制限字数を考慮して、「聖書の記述」と「進化論」の具体的な内容を解答に含める必要がある。(→全訳▶1)

採点のポイント

配点 11 点

- ① 神がすべての生物を創造したという聖書の記述を真実だと信じている人たち (6 点)
- ② すべての生物が自然に進化したという進化論に反対する (5 点)

▶ 要点理解

①, ②ともに必須ポイント。「①聖書の記述 (またはその内容) を真実だと信じている人たちが、②進化論 (またはその内容) に反対するということ」の 2 点が書かれているものを採点対象にし、このどちらか一方でも欠落しているか内容を読み誤っている場合には採点対象外、つまり 0 点とする。

(×) 「アメリカ人がいくつかの科学理論に反対し、とりわけすべての生物が長い年月をかけて自然に進化したという進化論に反対するということ。」アメリカ人が全員進化論に反対しているわけではないので①の内容に抵触する。

(×) 「神がすべての生物を創造したという聖書の記述を真実だと信じている人たちでも、進化論に反対しなければならないという必然性は理解できない。」②の内容を読み誤っている。

(×) 「神がすべての生物を創造したという考え方は科学の進歩を否定するもので、とりわけ長年かけて進歩してきた進化論に対立するという点で無意味だということ。」

①, ②の内容が欠落しており、不要な情報が入っているので趣旨がまったく異なったものになっている。

① (a) 神がすべての生物を創造したという (b) 聖書の記述を真実だと信じている人たち (6 点)

(a) 「神が生物を創造した」という趣旨の事柄と、(b) 「聖書の記述を信じている人たち」という趣旨の事柄がつかないで書かれていれば可。(a) が欠落していたり、誤っている場合は - 2 点。

(○) 「神が世界のすべての生物を創ったと信じている人たち」, 「神が生物を一挙に創ったと信じている人たち」 神が生物を創造したということが聖書の記述なので、そのことが書かれていれば「聖書の記述」という表現はなくても可。

(○) 「神がいかにして生物を創造したかという聖書の記述に疑いを持っていない人たち」

(○) 「神がすべての生物を創造したということを文字通りに信じているキリスト教徒 [アメリカ人]」

以下は(a)が欠落しているので - 2 点。

(△) 「聖書の記述に疑いを持っていない人たち」, 「聖書に述べられていることを文字通りに信じている人たち [キリスト教徒]」, 「いくつかの科学理論を認めないアメリカ人」

② (a) すべての生物が自然に進化したという (b) 進化論に反対する (5 点)

(a) 「生物が進化した」という趣旨の事柄と、(b) 「進化論に反対する」という趣旨の事柄がつかないで書かれていれば可。(a) が欠落していたり、誤っている場合は - 2 点。

(○)「すべての生物が長い年月をかけて進化したということに反対する」,「生物が何十億年にもわたって進化したということを認めない」生物が進化したということが進化論の内容なので、そのことが書かれていれば「進化論」という表現はなくても可。

(○)「すべての生物が進化したという考え方に反対する」

以下は(a)が欠落していたり誤っているので-2点。

(△)「進化論に反対する」,「進化したという考え方に反対する」(a)の欠落

(△)「すべての生物が何十億年も前に進化したということに反対する」(a)の読み誤り

→ 文末表現・字数制限 (全体から減点)

(×) 文末が「～(という)こと」以外のもの(-1点)

(×) 55字以下, 71字以上のもの(-3点)

2 内容の把握

下線部(2)を含む英文は「しかし、この考えは、科学者たちの間では、ほぼ1世紀近くの間受け入れられてきたのである。」という意味。接続詞 Yet で始まっているので、この1文は直前の文に対して「逆接」の関係にあるとわかる。直前文では Darwin's theory of natural selection (ダーウィンの自然淘汰説) について、それを受け入れるアメリカ人がいかに少ないかということが述べられている。したがって、下線部が Darwin's theory of natural selection を指していると考えれば自然な流れになる。

3 語句の意味の把握

①「説得力のある」 ②「動揺させるような」 ③「快適な」 ④「容易な」

下線部(A)を含む英文は「科学についての知識が多ければ多いように見えるほど、人は進化という考えを unnerving なものとは思わないのである。」という意味。科学理論である進化論に反対するアメリカ人が多いのはなぜか(第①段落)という問いに対し、第④段落第1文(It may be ... sufficiently educated.)では、アメリカ人の多くが十分な教育をまったく受けていないからではないかと述べられている。したがって、unnerving が②の意味だと考えれば、下線部を含む英文は、十分な教育によって科学についての知識が増えれば、進化論についても動揺するようなことはなくなるのであるという意味になり、直前の文からの流れが一貫したものになる。unnerving は「不安にさせるような」という意味。(→全訳▶2)

4 文構造の把握

図解

a study (by Miller, Scott and Okamoto) (published in 2006 in Science),

s

suggests [that it really is religious beliefs that are at the heart of the issue]

v

○ 強調構文

語句 ・ study 「研究」 ・ publish 「～を発表する」 ・ suggest that ... 「…ということを示唆する」
 ・ at the heart of ～ 「～の核心に」 ・ issue 「問題」

- by ... Okamoto は形容詞句で、a study を修飾。published は過去分詞で in 2006 in *Science* を伴って a study を修飾。「2006 年に『サイエンス』誌に発表されたミラーとスコットと岡本による研究」となる。
- it really is religious beliefs that ... は、it is ～ that ... (…なのは～である) の強調構文で、ここでは religious beliefs が強調されている。したがって、「…なのは実は宗教的信念である」という意味になる。

探点のポイント

配点 10 点

- ① a study by Miller, Scott and Okamoto published in 2006 in *Science*, suggests that (6 点)
 ② it really is religious beliefs that are at the heart of the issue (4 点)

- ① a study by Miller, Scott and Okamoto published in 2006 in *Science*, suggests that 「2006 年に『サイエンス』誌に発表されたミラーとスコットと岡本による研究は…ということを示唆している」(6 点)

→ 構文理解

a study(S) + suggests(V) + that ... (O) の構文がとらえられていない場合は -6 点とし、他に誤りがあってもこれ以上の減点はしない。

(×) 「ミラーとスコットによる研究と岡本が 2006 年に『サイエンス』誌に…ということを発表した」 a study と Okamoto を主語ととらえ、published を述語動詞として訳している。

→ a study (1 点)

(○) 「研究」, 「研究論文」, 「調査」 (×) 「勉強」, 「学習」

→ by Miller, Scott and Okamoto published in 2006 in *Science* (4 点)

この部分が a study を修飾する訳になっていない場合は -4 点。

(○) 「ミラーとスコットと岡本によって 2006 年に『サイエンス』誌に発表された(研究)」

(○) 「ミラーとスコットと岡本が 2006 年に『サイエンス』誌に発表した(研究)」

(×) 「ミラーとスコットと岡本による(研究)が 2006 年に『サイエンス』誌に発表されていれば[発表されたので / 発表されたけれど]」published を分詞構文として訳している。

→ suggests that (1 点)

(○) 「…ということを示唆している」, 「…ということを示している」, 「…と言っている」, 「示唆しているところによれば…である」

(×) 「…ということを提案している」, 「…ということを勧めている」

- ② it really is religious beliefs that are at the heart of the issue 「この問題の核心にあるのは、実は宗教的信念である」(4点)

→ 構文理解

it really is religious beliefs that ... が it is ~ that ... の強調構文であることが理解できていない場合は-4点とし、他に誤りがあってもこれ以上の減点はしない。

- (○) 「…なのは実は宗教的信念である」, 「実は宗教的信念こそ…である」
(×) 「それは実は…である宗教的信念である」 that を関係代名詞として訳している。
(×) 「…であることは実は宗教的信念である」 形式主語構文として訳している。

→ really (1点)

- (○) 「実は」, 「実際には」, 「本当は」, 「現実には」

→ religious beliefs (1点)

- (○) 「宗教的信念」, 「宗教的信心」, 「信仰心」, 「宗教心」
(×) 「宗教的信用」, 「宗教についての見解」

→ at the heart of (1点)

- (○) 「～の核心に」, 「～の中心に」, 「～の根幹に」
(×) 「～の心」, 「～の心臓に」

→ the issue (1点)

- (○) 「問題」, 「論点」
(×) 「流出」, 「発行」, 「刊行物」

5 文脈の把握

(㍿) 空所を含む英文は「教育の有無にかかわらず、日頃教会に行かないアメリカ人の半数を超える人たちが進化論を信じており、(ア), 教会に通う人たちのうちで、進化論を信じているのは4分の1にも満たないのである。」という意味。これは、空所を挟んで「日頃教会に行かないアメリカ人」と「教会に通う人たち」の進化論を信じている割合を比べている1文である。前半では over ~ (～を超える) を用いているのに対し、後半では less than ~ (～未満) を用いており、前半は「数が多い」という意味合いが強く、後半は「数が少ない」という意味合いが強い。したがって、空所に「対照」を表す② while (一方) を入れると文意が通る。

- (イ) ①「議論されるべきである」 ②「注意を払われるべきである」
③「もっと多くの生徒を引きつけるべきである」 ④「適当な位置を占めるべきではない」

空所を含む部分、it's no more a scientific idea than basic Creationism and so (イ) in the science curriculum は「基礎的な創造説と同様、それは科学思想ではなく、したがって、(創造説と同じく)理科の教科課程の中に(イ)」という意味。it は Intelligent Design (知的設計論) を指しており、it's ... Creationism において、それは「科学思想ではない」と述べられているので、空所に④を入れると「それは…(創造説と同じく)理科の教科課程の中に適当な位置を占めるべきではない(=教えられるべきではない)」となり、文意が成立する。(→全訳▶7)

6 内容の把握

下線部(4)は「虹を解きほぐす」という意味で、それを含む they are wary of science's tendency to hubris ... or the way it threatens to ... 'unweave the rainbow' の部分は「彼らは、科学が傲慢になる傾向にあること…や、あるいは…『虹を解きほぐす』恐れのある科学のやり方を警戒している」という意味。they は第⑤段落第1文の so many Americans, つまり、「(科学に不信感を持っている) 多くのアメリカ人」を指しているの、下線部は「(科学に不信感を持っている) 多くのアメリカ人」が警戒していることだとわかる。この観点から下線部に続く箇所を見ると take the magic and mystery out of life (人生から不可思議な力や神秘的なものを取り除く) と述べられている。したがって、「虹を解きほぐす」とは、科学によって虹の持つ不可思議な力や神秘的なものが明らかにされるという内容だとわかる。これに最も近い選択肢は③である。(→全訳▶3)

7 文構造の把握

図解

It's not always clear just [(what aspect of evolution) unconvinced Americans actually disagree with].
 S V C S'

語句 ・ just 「(疑問詞を強めて) 一体」 ・ aspect 「側面」 ・ unconvinced 「納得していない」
 ・ disagree with ～ 「～に同意しない」

- It は形式主語, what aspect ... disagree with が真主語。not always ... は「必ずしも…とは限らない」という意味の部分否定。
- what aspect ... disagree with は間接疑問の形。what は aspect を修飾しており, what aspect of evolution は「進化論のどの側面」という意味で, unconvinced Americans(S) + actually disagree(V) with の with の目的語に当たる。

採点のポイント

配点 8 点

- ① It's not always clear
(2 点)
- ② just what aspect of evolution unconvinced Americans actually disagree with.
(6 点)

- ① It's not always clear 「(…ということは) 必ずしも明らかではない」 (2 点)

構文理解

It が形式主語, (just) what 以下が真主語の形式主語構文であることが理解できていない場合は - 2 点とし, 他に誤りがあってもこれ以上の減点はしない。

(×) 「それは…必ずしも明らかではない」 It を既出のものを指す代名詞として訳している。

➡ not always (1点)

(○)「必ずしも…ではない」,「常に…であるとは限らない」

(×)「常に…ではない」,「…であることはまったくない」部分否定であることが理解できていない。

➡ clear (1点)

(○)「明らかな」,「はっきりとした」,「明白な」 (×)「明るい」,「鮮やかな」

- ② just what aspect of evolution unconvinced Americans actually disagree with 「懐疑的なアメリカ人が、実際のところ、一体進化論のどの側面に同意しないのかということ」(6点)

➡ 構文理解

unconvinced Americans が主語, disagree が動詞, what aspect of evolution が with の目的語であることが理解できていない場合は-6点とし、他に誤りがあってもこれ以上の減点はしない。

(×)「懐疑的なアメリカ人たちが同意しない進化論のどんな側面」

aspect of evolution と unconvinced Americans の間に関係代名詞が省略されているとして訳している。

(×)「進化論のどんな側面がアメリカ人たちを懐疑的にさせ、同意させないのか」

what aspect of evolution を主語, unconvinced を動詞として訳している。

(×)「懐疑的なアメリカ人たちが進化論の側面について同意しないこと」

what を関係代名詞のようにとらえている。

(×)「アメリカ人を説得しなかった進化論のどんな側面が同意しないのか」

what aspect of evolution が主語, unconvinced が evolution を後置修飾しているようにとらえている。

➡ just (1点)

(○)「一体」,「そもそも」

(×)「ただ」,「ほんの」,「ちょうど」,「正確に」 what を強調する訳になっていない。

➡ what aspect of evolution (2点)

(○)「進化(論)のどんな面」,「いかなる進化(論)の面」,「進化(論)のどんな点」

(×)「進化論の側面の何」,「進化論の側面とは何」

what を単独の疑問詞ととらえ, aspect を修飾するように訳していない。

➡ unconvinced Americans (1点)

(○)「懐疑的な〔半信半疑の〕アメリカ人(たち)」,「納得できないアメリカ人(たち)」

➡ actually (1点)

(○)「実際」,「現実」,「本当のところ」など、広く認める。

➡ disagree with (1点)

(○)「同意しない」,「反対する」,「賛成しない」,「意見が異なる」,「異議がある」

(×)「体質に合わない」,「適合しない」

8 内容の把握

下線部(6)は「知的な根拠に基づいて進化論に異議を唱えること」という意味。これを含む英文の主語 This は直前の文にある the concept of 'Intelligent Design'（「知的設計論」という考え）を受けている。したがって、ポイントは「『知的設計論』という考え」の「知的な根拠」の内容がどのようなものであるかという点にある。直後の英文（In essence ... by God.）を見ると、「…地球上のほとんどの生物の驚くべき複雑さと環境への適応性は、これらの生物が知的に、つまり神によって設計されたということを示している…」と述べられているので、これが知的設計論の知的根拠であるとわかる。したがって、②が正解。on intellectual grounds は進化論を理解するための根拠を述べているのではないので①は不可。知的設計論者が進化論の根拠を述べているという記述はないので③は不可。知的設計論が擬似科学であるという理由は、それが聖書に由来する考え方ではないという点にあるとは述べられていないので、④は不可。（→全訳▶5、▶6）

全訳 英文内容をチェック

第1段落

あらゆる国家のうちで、最も科学技術の進歩した国の1つであるアメリカ合衆国に、最もゆるぎのない科学理論のいくつかに異議を唱える頑固なキリスト教徒が非常に多く存在しているということは、現代世界の考えられない不思議な事柄の1つである。

☐ advanced 「進歩した」

☐ uncompromising 「頑固な」

☐ well-established 「ゆるぎのない、確証された」

第2段落

▶1 簡単に言えば、神がどのようにして世界のあらゆる生物を一挙にこしらえたかを記述している聖書を文字通りに真実だと信じている人たちが、世の中のあらゆる生物は何十億年にもわたって自然に進化したのだと言っている進化論に反対せざるを得ないのは必然的なことである。しかし、この疑問にはそれ以上のことがある。これまでにも激しい論争はあったけれども、世界中には、自分たちの根本的な信仰が傷つけられたと感じることなく、喜んで進化論を受け入れているキリスト教徒は大勢存在している。

▶1（第1文）those who / 非制限用法の関係代名詞

(On a simple level), those (who believe in the literal truth of the Bible), which describes (how God made all the world's creatures at a stroke)], must inevitably disagree with the theory of evolution, which suggests (that all the world's living things evolved naturally over billions of years)].

those who ... 「…する人々」
非制限用法の関係代名詞
非制限用法の関係代名詞
非制限用法の関係代名詞

- ☐ believe in ～「～の価値〔正しさ〕を信じる」
☐ **literal** 「文字通りの」
☐ **creature** 「生物」
☐ at a stroke 「一挙に、一気に」
☐ **evolution** 「進化（論）」

- ☐ **evolve** 「進化する」
☐ **billions of** ～「何十億もの～」
☐ be happy to do 「喜んで…する」
☐ **compromise** 「～（名誉・体面）を傷つける」

第3段落

しかしながら、アメリカ合衆国の場合はこれとは違っている。最近の調査によれば、全アメリカ人の半数を超える人が進化という考えをまったく受け入れないということが示されている。実際、合衆国にヨーロッパの32カ国とトルコと日本を加えた調査では、トルコを除く他のいかなる国と比較しても、アメリカには進化論を受け入れる人の数が少ないということが判明した。そして、進化が（まったく神の存在抜きに）もっぱら自動的・機械的に進むとされるダーウィンの自然淘汰説を受容するということになると、その数はさらに少なくなり、その説に同意するアメリカ人は14パーセントしかいないのである。しかし、この考えは、科学者たちの間では、ほぼ1世紀近くの間受け入れられてきたのである。

- ☐ **entirely** 「まったく」
☐ **notion** 「考え、論」
☐ it turns out that ... 「…であることが判明する」
☐ when it comes to ～「～ということになると」
☐ **acceptance** 「受け入れること」
☐ natural selection 「自然淘汰〔選択〕」

- ☐ **progress** 動「進む」 図「進歩」
☐ **automatic** 「自動的な」
☐ **mechanical** 「機械的な」
☐ ～ -free 「～のない」
☐ **shrink** 「減る」
☐ not far short of ～「～に近い、ほぼ～」

第4段落

多くのアメリカ人が十分な教育をまったく受けていないということなのかもしれない。▶2 科学についての知識が多ければ多いように見えるほど、人は進化という考えを厄介なものだとは思わないのである。しかし、2006年に『サイエンス』誌に発表されたミラーとスコットと岡本による研究が示唆しているところによれば、この問題の核心にあるのは、実は宗教的信念であるということである。教育の有無にかかわらず、日頃教会に行かないアメリカ人の半数を超える人たちが進化論を信じており、一方、教会に通う人たちのうちで、進化論を信じているのは4分の1にも満たないのである。しかしながら、進化論を信じないのは、非常に保守的な政治的立場や妊娠中絶を認めない立場、さらには霊的なものというよりむしろ道徳的確信と密接な関係があるように思われる。したがって、アメリカ人の進化論に対する不信は、ことによると純粋に宗教的であるのと同じくらい文化的なものであるかもしれないように思われるのである。アメリカの社会には、進歩を疑い、よそ者を疑い、そして科学を疑う広い範囲の階層が存在しているのである（2008年にバラク・オバマが当選したことによって、こうした階層が少なくともしばらくの間は少数派であることが証明されたのだが）。

▶2（第2文）〈the + 比較級 ～, the + 比較級 …〉

The more people seem to know about science, the less unnerving they find the notion of evolution.

know の目的語

S

V

C

S

V

O

・〈the + 比較級 ～, the + 比較級 …〉「～すればするほど…」

- ☐ it may be that ... 「…ということかもしれない」
- ☐ churchgoer 「日頃教会へ行く人」
- ☐ go hand-in-hand with ~ 「～と密接な関係がある」
- ☐ conservative 「保守的な」
- ☐ politics 「政治の立場；政治（学）」
- ☐ stance 「立場」

- ☐ certainty 「確信」
- ☐ spirituality 「精神性、霊性」
- ☐ distrust 図 「不信」 働 「～を疑う」
- ☐ section 「階層」
- ☐ be in a minority 「少数派である」
- ☐ election 「当選；選挙」
- ☐ outsider 「よそ者」

第⑤段落

一体なぜそんなに多くのアメリカ人が科学を信用しないのかということは言いがたい。もしかすると、彼らは科学を、根本的な信仰に対してだけではなく、大事にしている価値観にとっても危険なものであるとみなしているのかもしれない。あるいは、ひょっとすると、彼らは科学が持つ民主化を進める力が嫌いなかもしれない。それはちょうど、社会の保守的な分子が、18世紀における人間の論理が神の靈感よりも優位にあるということに不信感を抱いたのと同じであるが、この人間の論理がフランス革命と、そして皮肉にもアメリカ独立革命を推し進めるのに役立ったのである。あるいは、ことによると、
 ▶3 ヨーロッパの非常に多くの人たちと同様、彼らは、科学が傲慢になる傾向にあること——科学から連想される欠陥のある葉や思い上がった要求といった好ましくないこと——や、あるいは、キーツが言っているように、「虹を解きほぐし」人生から不可思議な力や神秘的なものを取り除く恐れのある科学のやり方を警戒しているのかもしれない。しかし、逆説的なことに、反進化論者の中には喜んで GM の技術を受け入れる人もいるのである。

▶3 (第4文) or による接続 / the way S + V / 不定詞の中への節の挿入

... (in common with so many people in Europe),

they are wary of science's tendency to hubris ...

or (of) the way (it threatens to, [as Keats put it],
 ➡① ▲ ➡② 「…するように」

the way S + V 「…する方法」 'unweave the rainbow'

and

take the magic and mystery out of life)

- ① or は science's tendency to hubris と the way を接続。どちらも wary of ~ の of の目的語に当たる。
 ② to は to 不定詞の to で、to 'unweave the rainbow' and ... out of life と続く。as Keats put it は to と動詞の原形の間への副詞節の挿入。

- ☐ cherished 「大事にしている」
- ☐ fundamental 「根本的な」
- ☐ democratise 「《英》～を民主化する」
- ☐ element 「(社会の) 一分子；要素」
- ☐ divine 「神の」
- ☐ inspiration 「靈感」
- ☐ spur 「～を促す；～を駆り立てる」
- ☐ ironically 「皮肉にも」
- ☐ revolution 「革命」

- ☐ in common with ~ 「～と同様」
- ☐ association 「連想；関連」
- ☐ failed 「欠陥のある、失敗した」
- ☐ inflated 「思い上がった」
- ☐ threaten to do 「…する恐れがある」
- ☐ put 「～を述べる」
- ☐ paradoxically 「逆説的なことに」
- ☐ anti-evolutionist 「反進化論者」
- ☐ embrace 「～を受け入れる」

第6段落

懐疑的なアメリカ人が、実際のところ、一体進化論のどの側面に同意しないのかということは必ずしも明らかなわけではない。彼らにたずねてみると、決して全員というわけではないが、ほとんどの人が創造説論者なのである。つまり、彼らは、神がこの地上のすべての生き物を創造したと信じているのである。しかし、彼らは、地上のあらゆる生物が今日そうであるような完全な姿で創造されたと信じているかどうか、あるいはまた、いろいろな種が現れたり消えたりしたのかどうか、そして

▶4 もしそうならどのようにしてか、ということについて必ずしも常に明確であるわけではない。

▶4 (最終文) 代用の so / 重複を避けるための S + V の省略

... if so, how?

① ②

① = if they (= species) have come and gone so が直前の whether 節の内容を代用している。

② = how have they come and gone? 重複を避けるために S + V が省略されている。

☐ by no means 「決して…でない」

☐ Creationist 「創造説論者」

☐ specific about ~ 「～について明確な」

第7段落

アメリカで進化論に異議を唱える人々の間にある1つの強力な勢力は「知的設計論」という考えを推進する人々から生まれた。▶5 これは、聖書から生まれた考えではまったくなく、見かけは知的な根拠に基づいて進化論に異議を唱えることを目的とする擬似科学的な考え方なのである。本質的には、この考えは▶6 地球上のほとんどの生物の驚くべき複雑さと環境への適応性は、これらの生物が知的に、つまり神によって設計されたということを示しているに違いないというものである。

▶5 (第2文) not A but B / 過去分詞による後置修飾

This is not an idea (that has come from the Bible) at all, but

↑ S' V'

not A but B 「AではなくてB」

a pseudo-scientific notion (aimed, (apparently,) at challenging evolution on

↑ be aimed at doing 「…することを目指す」

intellectual grounds).

▶6 (第3文) 共通関係

the astonishing complexity

and

aptness for their circumstances (of most life forms on earth) ...

・ of most life forms on earth は the astonishing complexity と aptness の両方につながる。

☐ promote 「～を推進する」

☐ concept 「考え」

☐ Intelligent Design 「知的設計論（知性ある存在によって生命や宇宙の精妙なシステムが設計されたとする説）」

☐ apparently 「どうやら、見たところ」

☐ in essence 「本質的には」

☐ complexity 「複雑さ」

☐ aptness for ～ 「～への適応性」

☐ circumstance(s) 「環境」

☐ indicate that ... 「…ということを示す」

☐ intelligently 「知的に」

第8 段落

設計に基づくこの議論は古くからあるもので、哲学者に目的論的証明として知られている（そして長い間信用されなかった）ものであるが、知的設計論者たちは、多くの資金提供を受けた「研究」機関と、インターネット上に広まった、不注意な人々をわなにかける一見「科学的な」論文によって、この議論にうべだけは新たな科学的装いをほどこした。アメリカの学校の理科の授業で、進化論と並んで知的設計論を「理論」として教えるべきかどうかについて、これまで多くの論争があった。常にはないとしても、しばしば「設計論者たち」が勝利を収めているようではあるが、これは結局のところはペテンである。すなわち、▶7これが科学思想でないのは基礎的な創造説がそうでないのと同じであり、したがって理科の教科課程の中に適当な位置を占めるべきではない。しかし、非常に多くの強力で口のうまい代弁者たちが進化論に反対するよう議員に働きかけているために、実に多くのアメリカ人が依然として進化論について納得しないままにいるということはほとんど驚くべきことではない。

▶7（第3文） A is no more B than C

it's no more a scientific idea than basic Creationism and so (it) should have no more

A is no more B than C 「AはCと同様にBでない」

place in the science curriculum (than basic Creationism)

☐ discredit 「～を信用しない」

☐ expensively 「多額の費用をかけて」

☐ fund 「～に資金を提供する」

☐ institute 「研究所」

☐ spread 「～を広める」

☐ trap 「～をわなにかける」

☐ the unwary 「不注意な人々」

☐ alongside ～ 「～と並んで」

☐ ultimately 「結局は」

☐ Creationism 「創造説」

☐ curriculum 「教科課程」

☐ persuasive 「説得力のある」

☐ voice 「代弁者；意見」

☐ lobby against ～ 「～に反対するよう議員に働きかける」

MEMO

MEMO

MEMO

MEMO

- 1** excerpted from DON'T SWEAT THE SMALL STUFF WITH YOUR FAMILY by Richard Carlson English reprint rights arranged with Fielding Agency LLC, Beverly Hills through Tuttle-Mori Agency, Inc., Tokyo
- 2** *The World's rubbish dump: a tip that stretches from Hawaii to Japan* by Kathy Marks, Daniel Howden. The Independent
- 3** From *Microfinance: Seeds of Change* by Heather Clydesdale and Kajal Shah (<http://asiasociety.org/education/students/global-topics/microfinance-seeds-change>)
- 4** Simon Greenall, Diana Pye, *CAE Reading Skills*, 1996, © Cambridge University Press 1996, reproduced with permission
- 5** *ANIMAL RIGHTS* by DeGrazia (2002) 700w from pp.54-55 © David DeGrazia 2002. By permission of Oxford University Press
- 6** From *59 SECONDS: THINK A LITTLE, CHANGE A LOT* by Richard Wiseman, Copyright © Richard Wiseman, 2010, Used by permission of Pan Macmillan Publishers Ltd. (Pan London)
- 8** "What is News?", from *HOW TO WATCH TV NEWS, REVISED EDITION* by Neil Postman and Steve Powers, copyright © 1992 by Neil Postman and Steve Powers; © 2008 by Steve Powers. Used by permission of Viking Penguin, a division of Penguin Group (USA) Inc.
- 9** From: *The Language of Humour*, Alison Ross, © 1998 Alison Ross, Routledge. Reproduced by permission of Taylor & Francis Books UK.
- 10** From "The Art of Reading" by Lin Yu T'ang from *The Importance of Understanding*.
- 11** From *BLACK HOLES AND BABY UNIVERSES AND OTHER ESSAYS* by Stephen W. Hawking, copyright © 1993 by Stephen W. Hawking. Used by permission of Bantam Books, a division of Random House, Inc. Any third party use of this material, outside of this publication, is prohibited. Interested parties must apply directly to Random House, Inc. for permission.
- 12** From the book *Chicken Soup for the Soul: Christmas Cheer* by Jack Canfield, Mark Victor Hansen & Amy Newmark Copyright 2008 by Chicken Soup for the Soul Publishing, LLC. Published by Chicken Soup for the Soul Publishing, LLC Chicken Soup for the Soul is a registered trademark of Chicken Soup for the Soul Publishing, LLC, Reprinted by permission. All rights reserved.
- 13** From *The Seven Basic Plots: Why We Tell Stories* by Christopher Booker © Christopher Booker 2004, Continuum, an imprint of Bloomsbury Publishing Plc.
- 14** From *Is Google Making Us Stupid?* by Nicholas Carr © 2008 The Atlantic Media Co., as first published in The Atlantic Magazine. All rights reserved. Distributed by Tribune Media Services
- 15** DO YOU THINK YOU'RE CLEVER? by John Farndon Text copyright © 2009 John Farndon Permission from Icon Books, Ltd. arranged through The English Agency (Japan) Ltd.

書籍のアンケートにご協力ください



抽選で図書カードを
プレゼント!

Z会の「個人情報の取り扱いについて」はZ会
Web サイト (<https://www.zkai.co.jp/poli/>)
に掲載しておりますのでご覧ください。

合格へ導く 英語長文

Rise 読解演習 3. 標準～難関編 (センター試験～難関国公立・難関私立レベル)

初版第 1 刷発行	2013 年 3 月 10 日
初版第 8 刷発行	2018 年 8 月 10 日
著者	大西純一
発行人	藤井孝昭
発行	Z 会 〒411-0033 静岡県三島市文教町 1-9-11 TEL 055-976-9095 https://www.zkai.co.jp/books/
装丁	山口秀昭 (Studio Flavor)
印刷・製本	日経印刷株式会社
DTP	株式会社 デジタルプレス

© 大西純一 2013 ★無断で複写・複製することを禁じます

定価はカバーに表示してあります

乱丁・落丁はお取り替えいたします

ISBN978-4-86066-921-8 C7082